

静岡県立美術館年報
平成24年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

2012

静岡県立美術館年報

平成24年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
2012

目 次

自己評価システムの体系	4	講演会	57
平成24年度 美術館の評価活動	5	美術講座	58
【運営基本方針A】人々の感性を豊かにし、生活中に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します。		対外活動	60
【重点目標1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します。		【重点目標3】地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します。	
展覧会活動 展覧会一覧	7	美術館ボランティア・広報センター	63
観覧者数一覧	8	平静24年度 友の会活動	67
(企画展)		【運営基本方針C】さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます。	
静岡県美収蔵名品展 カラーリミックス	9	【重点目標1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます。	
日本油彩画200年—西欧への挑戦	11	広報活動（ホームページ）	71
ユベール・ロベール	12	美術館ニュース「アマリリス」	72
江戸絵画の楽園	13	【重点目標2】観光業界などとの連携や新たな広報チャネルの開拓に取り組みます。	
マチュピチュ発見100年 インカ帝国展	14	新たな広報チャネルの開拓	73
維新の洋画家 川村清雄	15	【重点目標3】ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします。	
【重点目標2】他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します。		ロダン館展示・イベント	74
(調査研究活動)		【運営基本方針D】常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます。	
紀要の発行	17	【重点目標1】館内施設を充実させ、満足度を高めます。	
研究活動	18	施設利用状況（年度別）	75
研究会	19	県民ギャラリー利用状況	76
各種資料整理	21	【重点目標2】周辺環境やアクセスの利便を向上させます。	
博物館実習	22	来館者のアクセス満足度	77
【重点目標3】特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します。		■付帯資料	
収蔵品展	23	平成24年度主要記事	78
移動美術展	24	(展覧会 出品目録)	
平成24年度新収蔵品	25	カラーリミックス	79
収集品点数一覧	29	日本油彩画200年—西欧への挑戦	83
図書資料の収集・整理	31	ユベール・ロベール	87
館蔵品の貸し出し	32	江戸絵画の楽園	92
美術作品の補修	38	インカ帝国展	94
保存活動	39	維新の洋画家 川村清雄	98
【運営基本方針B】地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します。		収蔵品展	105
【重点目標1】質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します。		移動美術展	109
(一般向け)		(管理運営)	
ギャラリーツアー	41	関連法規	111
実技・鑑賞講座	42	組織・名簿	119
(子ども向け)		歳入・歳出決算	120
実技・体験	45	建築・設備概要	121
学校連携普及事業（美術館教室）	51	利用案内	127
【重点目標2】講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します。		奥付	128

自己評価システムの体系 (平成23年度～平成25年度)

使命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

運営基本方針		重点目標	評価指標
A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します		1 新たな視点や工夫に基づく企画展を開催します	1 展覧会の来館者数 2 自主企画・企画参加型の展覧会の回数 3 作品やテーマに興味を持った人の割合 4 展覧会における新規来館者の割合 5 展覧会に対する外部評価【定性】 6 調査研究の発表回数 7 内部セミナー・研究会・研修の回数 8 他の美術館や大学と連携した取組件数 9 調査研究に関する外部評価【定性】 10 収蔵品展の観覧者数 11 収蔵品の公開件数 12 作品購入件数・価格 13 作品寄贈件数・価格 14 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】 15 学校教育と連携した取組数 16 鑑賞系プログラム数 17 コレクションを活用したプログラム数 18 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】 19 講演会等の開催件数 20 学芸員のフロアレクチャー等の数 21 地域住民等と連携した取組数 22 館内空間を生かした催事の件数・参加者数 23 地域機関、住民等と連携した取組に関する職員レポート【定性】 24 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合 25 ホームページのアクセス件数 26 ホームページの満足度 27 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数 28 広報手法における新たな取組状況に関する美術館職員のレポート【定性】 29 ロダン館の入館者数 30 美術館利用者数 31 鑑賞環境に対する満足度 32 レストラン・カフェに対する満足度 33 ミュージアムショップに対する満足度 34 来館者のアクセス満足度
		2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	
		3 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	
B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します		1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	
		2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	
		3 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します	
C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます		1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます	
		2 観光業界などとの連携や新たな広報チャネルの開拓に取り組みます	
		3 ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします	
D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます		1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	
		2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます	

平成24年度 美術館の評価活動

■総括

平成24年度取組方針に対する結果

取組方針別の具体的な成果を以下に示す。

(1)「他館との連携強化による企画展の充実」

国立西洋美術館と連携し、フランス・ヴァランス美術館のコレクションを活用して、日本初のユベール・ロベールの回顧展を開催した。また東京都江戸東京博物館との共同企画により静岡県や徳川家等とも関係の深い「維新の洋画家 川村清雄」展を開催した。

(2)「コレクションを活用した企画展の開催」

- ・「静岡県立美術館名品選 カラーリミックスー若冲も現代アートもー」展

色をテーマとして、当館のコレクションを新たな切り口で再編し紹介する企画展を開催し、若年者層に対して美術作品の魅力を伝えた。

- ・「日本油彩画 200年－西欧への挑戦」展

当館所蔵の油彩画コレクションを核として、他の公立美術館から一部作品を借用して、日本人と油彩画の長くて深い関係を作品で検証した。

- ・「江戸絵画の楽園」展

当館コレクションと個人コレクター所蔵作品のコレボレーションにより、江戸時代の美術品を「屏風」「掛軸」「巻子」等、日本美術の形をテーマとして紹介した。

(3) 教育普及活動の充実

エントランスホールでの「ちょっと体験」をはじめとして、事業主体を従来の実技系プログラムから鑑賞系プログラムに移行し、鑑賞者に対する作品理解を深めることに努めた。

市内各美術館との連携による「キッズアートプロジェクトしずおか」を実施し、子供の美術館来館を促進するとともに、作品の鑑賞理解を深めることに努めた。

(4) 企業等との連携についての検討

日本平ホテルと静岡県立美術館、静岡県舞台芸術センター（SPAC）との「フレンドシップ協定」の締結により、企業及び他の文化施設等との連携を強化し、利用者の利便性の向上を図った。

(5) 効果的な広報の実施とロダン館のPRに向けた取組

佐々木亨氏（北海道大学大学院教授）の協力を得て、当館に未だ来館したことのない方々の調査「未来館者調査」を実施し、その動向を把握するとともに、未来館者に対する有効な広報の促進や美術館に対する誇り（シビック・プライド）を向上させるための検討会を開催した。

ロダン館の周知と鑑賞理解を深めるために、「学芸員によるフロアレクチャー」や「ロダンの塗り絵」等、様々なプログラムを実施した。

(6) 施設の改善に向けた検討

利用者満足度において課題のあった「カフェ・ロダン」をリニューアルし、店内の内装やメニューを刷新するとともに、オープニング・イベントとして音楽コンサートを実施した。

また平成24年10月1日～平成25年3月30日まで、ロダン館を閉館し、ロダン館の雨漏りを防止のための修繕工事を実施した。

その他、館内各所の施設改善に取り組んだところである。

■前史

平成13年度より、館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏（北海道大学大学院教授）の助言のもと、ベンチマーク（評価指標）の策定に取り組み、それに基づく利用者の満足度調査を行った。平成14年度には、ベンチマークの改定作業をしながら、利用者アンケート調査等を行い、諸業務における現状値を測定、それに伴う業務改善に向けた取組を行った。

それらの成果を踏まえ、平成15年度には、「静岡県立美術館評価委員会」が設置され、2年間にわたる美術館・県庁との共同作業を経て、平成17年3月に「提言：評価と経営の確立に向けて」という最終報告が出された。その提言を受けて、平成17年4月より、ミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始めた。平成18年度には、平成17年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

■平成24年度の活動

平成24年度も引き続き、ミュージアム・ナビによる自己点検評価とともに、外部委員による研究評価活動を受けた。それぞれに概要は以下の通りである。

(1) ミュージアム・ナビによる自己点検評価

使命・戦略計画の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定し自己点検を行うことで業務改善に取り組む。それによって、Plan-Do-Check-Action（計画-実行-監視-改善）のサイクルを確立する。

自己点検の拠り所となるのは、来館者に対するアンケート調査である。ボランティアの協力を得て、統計的に有意なサンプル数を確保するとともに、項目・選択肢等についても細かな改訂を加え、意味のあるデータを取り出せるよう心がけている。平成24年度は、以下の活動を行った。

1 アンケート調査結果の集計と分析

- ・ 展覧会観覧者アンケート（3回）
- ・ 教育・普及プログラム参加者アンケート（実技系・イベント系）
- ・ 付帯施設（レストラン、ミュージアムショップ）

D. 美術館ホームページによるアンケート

2 グループ・インタビュー

(2)研究活動評価委員会

ミュージアム・ナビの中で、展覧会及び学芸員の調査研究に関する定性的評価を行う。利用者アンケートによる調査では把握しきれない学術面での達成について、各分野の専門家に評価・コメントを依頼する。

■静岡県立美術館研究活動評価

・研究活動評価委員（【】内は専門分野）

坂本 満【西洋絵画・日本洋画】／金沢美術工芸大学

客員教授・（前）うらわ美術館館長

潮江 宏三【西洋絵画・現代美術】／京都市美術館館長

山梨絵美子【日本洋画】／東京文化財研究所企画

情報部近現代視覚芸術研究室長

榎原 悟【日本画】／群馬県立女子大学教授・岡崎市

美術博物館館長

金原 宏行【教育普及・日本画】／常葉学園大学教授

■開催記録

平成24年5月17日

平成23年度研究活動の評価・総括

平成24年度の研究評価活動についての提言及びスケジュールについて

「カラーリミックス」展視察及び評価

平成24年6月20日、7月5日

「日本油彩画200年」展視察及び評価

平成24年9月13日、15日

「ユベール・ロベール」展視察及び評価

平成24年10月7日、27日

「江戸絵画の楽園」展視察及び評価

平成25年2月26日、3月16日

「維新の洋画家 川村清雄」展視察及び評価

静岡県立美術館研究紀要第28号（平成25年3月31日刊行）掲載論文についての評価

■静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の展覧会事業及び専門分野に関する刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員（以下「委員」という。）を置く。

（職務）

第2条 委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準により、様式1の業務評価書を作成する。

（1）美術館が行う展覧会事業及び普及事業

（2）学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物

（3）その他美術及び教育普及に関する専門的事項

（組織）

第3条 委員は5名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要のあるときは、館長は臨時委員を委嘱することができる。

（委嘱）

第4条 委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を有する者の中から館長が委嘱する。

（任期）

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

（委任）

第6条 この要綱に定めるものほか、委員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

■評価基準

1) 展覧会

1. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、多様な資料（写真や二次資料等）の積極的な活用、館蔵品やそれに関わる資料等の活用、地域作家の調査・研究（記録・整理を含む）等。
2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…学芸員の日々の取り組みや研究成果を活かした内容。学術に対する貢献度等。
3. 出品作品の充実度…諸々の制約の中で、出来る限り企画内容に即した作品を出品できたか。
4. 鑑賞者への判り易さ…企画内容・展示、キャプションの解説は、鑑賞者にとってわかり易いものか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

2) 展覧会カタログ／学芸員のエッセイ

1. 鑑賞者への普及・啓蒙…企画内容を補完し、鑑賞者への理解を促す。
2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…研究成果が活かされたか。学術に対する貢献度。
3. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、資料的な価値等。
4. その他…特に評価に値する事柄。

3) 研究紀要／館蔵品に言及あるいは館の作品収集テーマに直結して記述した館外の刊行物

1. 内容の先駆性・独自性…他にはない先駆的な内容。
2. 研究の充実度…研究成果が活かされたか。学術への貢献度。
3. 学会へのインパクト…研究内容が及ぼす学会への影響。
4. 資料的な価値…入念なデータの調査・蓄積が出来ているか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

4) 教育・普及プログラム

1. 企画内容の充実度…作家、作品に対するアプローチ。作品の魅力を伝え、身近に感じてもらえる工夫等。
2. その他…特に評価に値する事柄。

【運営基本方針A】人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

【重点目標1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します

展覧会活動 展覧会一覧

企 画 展						収蔵品展
1	2	3	4	5	6	7
4 APRIL	4 / 14 (土) ~ 5 / 27 (日) 静岡県美術館収蔵名品選 カラー・リミックス	4 / 10 (火) ~ 5 / 27 (日) 新収蔵品展				
5 MAY	5 / 28 (月) ~ 6 / 8 (金) 館内整備のため休館	6 / 9 (土) ~ 7 / 22 (日)	6 / 9 (土) ~ 7 / 22 (日)			
6 JUNE	日本油彩画200年－西欧への挑戦		中国絵画と日本			
7 JULY	7 / 23 (月) ~ 8 / 3 (金) 館内整備のため休館	8 / 9 (木) ~ 9 / 30 (日)	8 / 4 (土) ~ 9 / 17 (月・祝) 親子で見て感じる 現代アート			
8 AUGUST	ユベール・ロベール		9 / 19 (水) ~ 11 / 4 (日)			
9 SEPTEMBER		江戸絵画の楽園	無限の芸術 李禹煥の世界			
10 OCTOBER	10 / 7 (日) ~ 11 / 18 (日)		11 / 6 (火) ~ 11 / 18 (日) ※			
11 NOVEMBER		マチュピチュ「発見」100年 インカ帝国展	11 / 20 (火) ~ 12 / 16 (日)	西欧の風景画 I		
12 DECEMBER	11 / 27 (火) ~ 1 / 27 (日)		12 / 18 (火) ~ 2 / 3 (日)	西欧の風景画 II		
1 JANUARY						
2 FEBRUARY	2 / 9 (土) ~ 3 / 27 (水)	維新の洋画家 川村清雄	2 / 5 (火) ~ 3 / 31 (日)	富士山の絵画2013		
3 MARCH						

※ 王伝峰来日二十周年記念展 顧魚

観覧者数一覧

展 覧 会		会 期		観覧者見込数	観 覧 者 数						
		期 間	日 数		一 般	高 校・大 学	小・中 学	70歳以上	招 待	実 績 数	対 見 込
企 画 展	カラーリミックス	4 /14～5 /27	39	14,000	5,099	2,190	1,789	738	1,757	11,573	82.7
	日本油彩画 200年	6 /9～7 /22	38	10,000	3,816	853	1,215	966	1,674	8,524	85.2
	ユベール・ロベール	8 /9～9 /30	46	19,000	6,872	1,411	1,651	988	2,619	13,541	71.3
	江戸絵画の楽園	10 /7～11 /18	37	13,000	4,863	1,054	1,423	1,284	2,134	10,758	82.8
	インカ帝国展	11 /27～1 /27	51	71,000	63,544	2,870	6,300	13,968	12,729	99,411	140.0
	維新の洋画家 川村清雄	2 /9～3 /27	40	15,000	4,650	657	814	1,294	2,794	10,209	68.1
	小 計		251	142,000	88,844	9,035	13,192	19,238	23,707	154,016	108.5
収蔵品展			291	20,000	3,746	(注1) 1,397	—	1,216	(注2) 3,158	9,517	47.6
合 計				162,000	92,590	10,432	13,192	20,454	26,865	163,533	100.9
移動美術展	富士宮市		17	8,000	—	—	—	—	—	2,516	41.8
	磐 田 市		10		—	—	—	—	—	—	

(注1) 「小・中学生」の観覧者数を含む。

(注2) 「こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業」による観覧者（中学生2,024人）を含む。

■年度別観覧者数

(単位：人)

年 度	観 覧 者 数	年 度	観 覧 者 数
昭和61年度	345,746	平成12年度	146,833
昭和62年度	174,031	平成13年度	207,340
昭和63年度	214,156	平成14年度	170,390
平成元年度	229,258	平成15年度	184,095
平成2年度	233,904	平成16年度	146,706
平成3年度	190,361	平成17年度	129,768
平成4年度	173,665	平成18年度	222,608
平成5年度	218,921	平成19年度	184,535
平成6年度	410,182	平成20年度	190,669
平成7年度	245,028	平成21年度	101,792
平成8年度	178,701	平成22年度	264,207
平成9年度	127,299	平成23年度	126,626
平成10年度	153,099	平成24年度	163,533
平成11年度	107,977	累計	5,241,430

(企画展)

静岡県立美術館収蔵名品選 カラーリミックス 一若冲も現代アートも

主 催：静岡県立美術館

会 期：平成24年4月14日（土）～5月27日（日）

■概要

この展覧会では、「色」をテーマに、2500点を越える静岡県立美術館の収蔵品の中から、古美術から現代アートまで選りすぐりの名品約90点を紹介した。日本画、西洋画、現代アートといったジャンル別でなく、色の効果という視点から再編集し、ジャンルを横断した意外な組み合わせで、作品の新鮮な味わい方を提案するというのが企画のねらいであった。

展示では、特殊照明による光と影の変化の中で絵画や彫刻を鑑賞したり、畳に座って屏風を鑑賞するコーナーを設けて、鑑賞者がいつもの美術館とは違う環境の中で作品と出会うことができるような仕掛け作りに取り組んだ。また、色の効果に着目した作品解説文を各分野の学芸員が分担して執筆した。また、ここ数年来作成してきた、コレクション解説シートを展示室に配架して活用するとともに、章ごとの展示のポイントを紹介するカラー刷りの出品目録を作成し会場内に設置した。ホームページ上では出展作品の解説ページを設け、展示室においては、毎週末ごとにリレー形式で学芸員がフロア・レクチャーを行なうなど、さまざまな手法で、所蔵品に親しんでもらう取り組みを行った。

若者をターゲットにした展覧会タイトル、チラシ、ポスター・デザインを意識的に採用したことによって、来館者における年齢の若年層の比率が、同種の展覧会と比較して2倍になった。アンケート結果による観覧者の反応として、色をテーマにした点が美術館になじみのない若者にもとっつきやすかったようで、おおむね好評であった。多様なジャンルの作品を一度に鑑賞することができた点も喜ばれた。照明の変化や畳敷き空間の評価が高かった。

■関連事業

・特別講演会

5月6日（日） 14:00～15:30 / 当館講堂

「若冲V.S.現代美術」

講師：山下裕二氏（明治学院大学教授）

・展覧会レクチャー

展覧会担当学芸員が、展覧会の見どころについて解説した。

4月15日（日）、29日（日） *中学生以上

5月5日（土・祝） *親子向け（小学生と保護者）

各日10:30～11:15 / 当館展示室

講師：川谷承子（当館上席学芸員）、大原由佳子（当館臨時技術員）

・学芸員によるフロア・レクチャー

当館学芸員が交代で色をテーマに展示室で作品の解説を行った。

4月14日（土）、15日（日）、28日（土）、29日（日）、
30日（月・祝）

5月3日（木）、4日（金・祝）、5日（土・祝）、12日（土）、13日（日）、20日（日）、26日（土）、27日（日）
各日14:00～（各回30分程度）

講師：南美幸（当館上席学芸員）、大原由佳子（当館臨時技術員）、川谷承子（当館上席学芸員）、小針由起隆（当館学芸部長）、新田建史（当館上席学芸員）、泰井良（当館上席学芸員）、村上敬（当館上席学芸員）、福士雄也（当館主任学芸員）、三谷理華（当館上席学芸員）、角田新（当館上席学芸員）

・「絵から音楽をつくろう！」

4月21日（土）、22日（日） 10:30～15:30

講師：野村誠氏（作曲家、鍵盤ハーモニカ奏者）

ファシリテーター：大原由佳子（当館臨時技術員）、
川谷承子（当館上席学芸員）

参加者：17名

展覧会に出展されている当館の収蔵作品を直に見ながら、目の前の作品を楽譜に見立てて即興で音楽をつくるワークショップを実施した。2日間で、5歳の子どもから大人まで17名が参加した。楽器は、参加者が家庭から持ち寄った、ヴァイオリン、鍵盤ハーモニカ、民族楽器、プロパノータを使って、伊藤若冲の《樹花鳥獸図屏風》、ポール・シニャック《サン＝トロペ、グリモーの古城》など合計11作品の曲が作られた。完成後は、グループごとに、実際の作品の前で演奏を披露しあうとともに、録音した音を原案に、後日、講師野村氏が、ピアノのための11の小品「静岡県立美術館」として楽譜を書き、その譜面を館内で無料配布した。



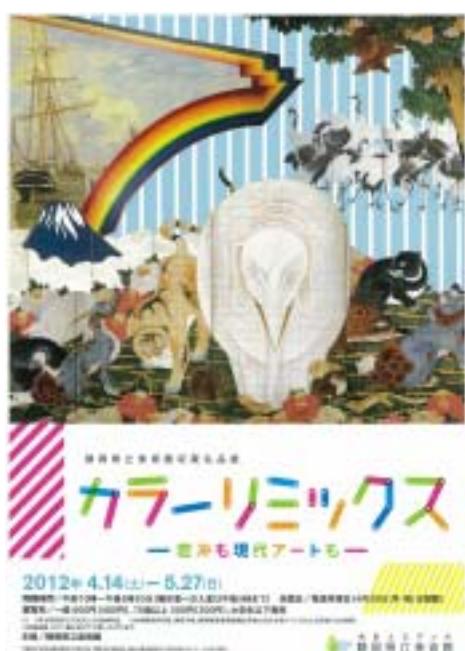
■展覧会リーフレット

A4 4ページ カラー

章解説、出品リスト

■出品目録

pp. 79-82 を参照



▲チラシ

日本油彩画200年－西欧への挑戦

主 催：静岡県立美術館

会 期：平成24年6月9日（土）～7月22日（日）

■概要

江戸から明治になり、西欧から油彩画・油彩技法が本格的に日本に伝わった。それ以前にも、司馬江漢などが、油絵を制作していたものの、理念や技法・画材を含めて本格的に学び始めたのは、明治になってからのことだった。

まず、明治4年（1871）、高橋由一が物産会で油絵を展覧したのを始まりに、明治9年には、イタリア人教師フォンタネージを招いて、日本で最初の美術学校である工部美術学校が開校する。その後、黒田清輝がフランスに渡ったことで、西洋美術を学ぶ画家たちは次第に増えていった。明治29年には開校当初日本画科のみだった東京美術学校に、西洋画科が設置され、その後、多くの画家たちを輩出した。そして、大正から昭和期にかけては、西欧からポスト印象派、キュビズム、フォーヴィズムといった新しい理念や造形が伝わり、多くの個性的な作品が制作されるようになる。

日本近代美術史の中で、「日本人の油彩画」を描くことは、日本人洋画家たちにとって最も重要な課題であり、また到達すべき目標であったといえるだろう。

本展覧会では、我々日本人にとって、最も身近な「日本人の油彩画」をテーマとして、日本人洋画家たちが、どのように西洋伝来の油彩画（油彩技法）を受容し、またそれを用いて、日本の風土に適った作品を制作してきたのかを考えた。

■関連事業

・特別講演会

7月1日（日）14:00～15:30 / 当館講座室

「江戸の洋風画と明治の油彩画をつなぐもの」

講師：志賀秀孝氏（府中市美術館学芸係長）

7月8日（日）14:00～15:30 / 当館講堂

「日本洋画のパイオニアたち 平賀源内から秋田蘭画、

司馬江漢、高橋由一へ」

講師：芳賀徹（当館館長）

・美術講座

6月24日（日）14:00～15:30 / 当館講座室

「日本人の油彩画～なぜ、日本人は油彩画を描いたのか～」

講師：泰井良（当館上席学芸員）

- ・学芸員によるフロアレクチャー（作品解説）

[2階展示室]

6月10日（日）、7月15日（日） 各日14:00 / 当館
展示室

■図録

30.0×22.0 cm 81ページ

目次

あいさつ

エッセイ 日本人の油彩画

当館上席学芸員 泰井良

図版

I 油彩画前史～近世の油彩画～

II 油彩画の開拓～明治期の洋画家たち～

III 油彩画の隆盛～大正から昭和へ～

－光を求めて－

－欧洲に学ぶ－

－静物画を描く－

－写実を求めて－

－具象から抽象へ－

－個性の発露－

－絵肌（マティエール）の魅力－

資料編

- ・近代日本洋画の流れ-出品作家を中心に-

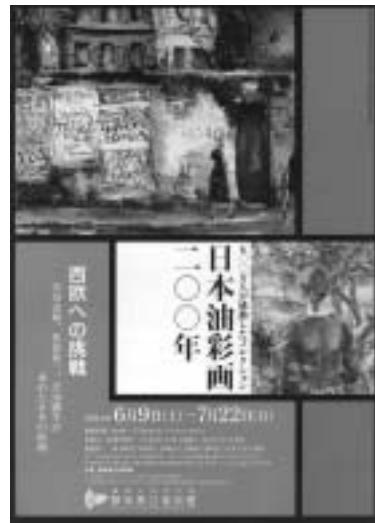
- ・近代日本洋画史略年表

- ・参考文献

- ・作品リスト

■出品目録

pp. 83-86 を参照



▲チラシ

ユベール・ロベール

主 催：静岡県立美術館、中日新聞東海本社、
静岡朝日テレビ
学術協力：ヴァランス美術館
後 援：フランス大使館
協 力：エールフランス航空
会 期：平成24年8月9日（木）～9月30日（日）

■概要

18世紀フランスの画家、ユベール・ロベール（1733-1808）は、21歳でイタリアに留学し、帰国後はパリを中心に精力的に活動した。11年に及ぶながいイタリア留学中に、古代の神殿や凱旋門、ルネサンスやバロックの大建築やモニュメントを、自由に組み合わせて描く手法を習得し、現実と空想の狭間に立つ空想的風景画を創出した。その一方で、自然のありさまや人々の営みをサンギーヌ（赤チョーク）で繰り返し活写した。

帰国後のロベールは、パリのサロンに廃墟画を多数出品し、「廃墟のロベール」と呼ばれただけでなく、「国王の庭園デザイナー」として庭園の設計にも関わっていた。さらに、ルーヴル美術館の創設にも、ロベールは一役かっていた。

このたびの展覧会は、ロベールの素描コレクションで世界的に知られる南フランスのヴァランス美術館の全面的な協力のもとに実現した。出品点数は、ロベール自身の作品に、クロード・ロラン、フラゴナール、ピラネージなど、17、18世紀の作品を加えた約130点であった。本展は、ロベール芸術の魅力を日本で初めて紹介する待望の展覧会であるとともに、18世紀フランス美術をご堪能いただける貴重な機会となった。

■関連事業

- 特別講演会
8月19日（日）14:00-15:30 / 当館講堂
「ヴァトーからロベールへ—<雅なる宴>から<崇高なる美>へ」
講師：大野芳材氏（青山学院女子短期大学教授）
- 美術講座
8月26日（日）14:00-15:30 / 当館講座室
「ルーヴルの画家、ユベール・ロベール」
講師：三谷理華（当館上席学芸員）
- 美術講座
9月9日（日）14:00-15:30 / 当館講座室
「ユベール・ロベールとイタリア」
講師：小針由紀隆（当館学芸部長）
- 学芸員によるフロアレクチャー（作品解説）
9月22日（土・祝）14:00～ / 当館展示室
講師：小針由紀隆（当館学芸部長）

■図録

24.8×20.3 cm 311ページ

- 構成
ごあいさつ
メッセージ
エッセイ
エレーヌ・スタニスラス=ムーラン「ジュリアン=ヴィクトール・ヴェランクとヴァランス美術館のユベール・ロベール作品」
陳岡めぐみ「時間の庭の詩人—ユベール・ロベール」
ダニエル・ラブロ「ユベール・ロベール、石の歓びと歴史」
小針由紀隆「イタリアのユベール・ロベール—ピトレスクなものを求めて」
三谷理華「ユベール・ロベールとルーヴル」- カタログ
I. イタリアと画家たち
II. 古代ローマと教皇たちのローマ
III. モティーフを求めて
IV. フランスの情景
V. 奇想の風景
VI. 庭園からアルカディアへ
関連地図
関連年表
仏文テクスト
主要参考文献
出品作品リスト

■出品目録

pp. 87-91 を参照



▲チラシ

江戸絵画の楽園

—秘蔵の若冲、北斎、華山 一挙公開—

主 催：静岡県立美術館

会 期：平成24年10月7日（日）～11月18日（日）

■概要

日本の絵画には、様々な「かたち」がある。屏風・掛軸・巻子・画帖といったその多彩なかたちは、作品の鑑賞のみならず、収納・保存にまで配慮された機能美を有する優れたデザインといってもよい。しかし、そのような自国の文化的所産も、いまや一般の日常生活からは遠ざかりつつある。

本展では、こうした日本の絵画の形状に改めて注目し、「もの」としての作品のありかたを紹介した。作品が本来持っていた機能や鑑賞の様態は、その形状と密接に関わるものであり、さらに描写内容とても無関係ではない。普段意識されることの少ない絵画の形状に注目することによって、美術館で見る「作品」に、「もの」としてのリアリティーを感じていただく機会とすることを狙いとした。また、新出・初公開作品を多数展示することで、美術史研究上の貢献も目指した。

■関連事業

・特別講演会

10月27日（土）14：00～15：30 / 当館講堂

「江戸絵画のかたち」

講師：榎原悟氏（群馬県立女子大学教授、岡崎市美術博物館館長）

・美術講座

10月14日（日）14：00～15：30 / 当館講座室

「楽園への招待—「かたち」と「中身」のあやしい関係—」

講師：福士雄也（当館主任学芸員）

・学芸員によるフロアレクチャー

10月21日（日）、11月4日（日）

各日14：00～15：00 / 当館展示室

■関連記事

- ・福士雄也「初公開作品の数々、まさに「楽園」」『新美術新聞』10月1日
- ・（紹介記事）『ギャラリー』330号 10月1日
- ・「美術散歩」『富士ニュース』10月11日
- ・「江戸絵画 豊穣なる世界」『朝日新聞』10月17日
- ・「遊ナビ」『毎日新聞』10月19日
- ・日曜美術館アートシーン 10月21日

- ・芳賀徹「江戸文化の円熟示す」『静岡新聞』11月9日
- ・（紹介記事）『月刊 書道界 11月号』11月15日
- ・「回顧2012 美術」『読売新聞』12月13日

■図録

編集：静岡県立美術館

発行：静岡県立美術館

制作：ニューカラー写真印刷株式会社

仕様：A4版 140ページ

内容：

ごあいさつ

図版／本文解説

福士雄也「楽園への招待—「かたち」と「中身」、そして「もの」としての作品—」

はじめに

I 屏風—風を屏ぐ調度品—

II 掛軸—床の間の飾り—

III 卷子と画帖—手元で楽しむ美—

おわりに

文献

落款・印章

出品目録

■出品目録

pp. 92-93 を参照



▲チラシ

マチュピチュ発見100年 インカ帝国展

主 催：静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送

特別協賛：清水銀行

後 援：ペルー大使館、PROMPERU

学術協力：国立科学博物館

企画製作：TBSテレビ

協 力：KLMオランダ航空、凸版印刷、ユナイテッド
航空

企画協力：ペルー文化省

会 期：平成24年11月27日（火）～平成25年1月27日
(日)

■概要

「太陽崇拜」「黄金の国」等のキーワードで語られることが多いインカ帝国は、実は車輪も文字も、そして鉄器も持たなかつた。しかしこの国は15～16世紀前半に繁栄した、アンデス文明最大にして最後の国家であり、巨大な石造建築物を打ちたてた大帝国でもあった。その高度な帝国が、何故わずかなスペイン人の前に滅び去ってしまったのか？「太陽の王」とは？本展では、考古学、人類学、歴史学という3つの視点から、この国の全貌に迫った。

■関連事業

・ムンド・デ・アレグリア学校生徒たちによる民族舞踊
11月27日（火）

・清水銀行PRESENTS特別講演会
12月9日（日）
「DNAが語るインカ帝国への道」
講師：篠田謙一氏（監修者、国立科学博物館人類研究
部人類史研究グループ長）

「石とインカ」

講師：網野徹哉氏（監修者、東京大学大学院総合文化
研究科教授）

・瀬木貴将コンサート
12月16日（日）
瀬木貴将（サンボーニャ、ケーナ）
佐山こうた（ピアノ）

・アルパカを作ろう！
1月20日（日）

・インカ人形を作ろう！
1月19日（土）

・学芸員によるフロア・レクチャー

平成24年12月8日（土）、18日（火）、21日（金）、22日
(土)、26日（水）、平成25年1月2日（水）、3日（木）、
5日（土）、9日（水）、12日（土）、16日（水）、19日
(土)

各日16:00から、土曜日のみ18:00から実施。

■出品目録

pp. 94-97 を参照



▲チラシ

維新の洋画家 川村清雄

主 催：静岡県立美術館、読売新聞社、
静岡第一テレビ
後 援：フランス大使館、明治美術学会
協 力：日本航空
会 期：平成25年2月9日（土）～3月27日（水）

■概要

東京都江戸東京博物館との共同企画。同館に収蔵された川村家資料と日本各地の美術館が所蔵する清雄作品を中心に、洋画家・川村清雄（1852～1934）の生涯と画業をたどる展覧会である。なお、清雄は江戸生まれではあるが青年期に徳川家達に従い足かけ4年を静岡で過ごした本県ゆかりの画家である。

清雄は明治4年という極めて早い時期に洋行し、約10年に渡ってヨーロッパで研鑽を積んだ。日本近代洋画の先駆者であると同時に、青年期に幕府瓦解に際会した幕臣という立場でもある。本展では、江戸東京博物館との共同作業により、新時代に生きた旧幕臣・川村清雄と、洋画壇の先駆者・川村清雄の両面に光を当てる展示を目指した。江戸東京博物館の歴史系学芸員による卓越した史料読解力がこの展示に果たした貢献は特筆される。

こういった出品資料の特徴もあり、東京展では「歴史系展覧会のフォーマットに美術展の要素を持ち込んだ展示」というべきものになったが、静岡展では「歴史展の要素を含みつつも、あくまで基本は美術展」という立ち位置を意識した。具体的には、絵画資料についてはカタログ順を意識的に破っても作品の調和・配列を気をつける、ときに小品の段掛けをためらわずに行いつつ大作にはゆったりとしたスペースを与える、絵画の面の角度に気をつけて照明効果が十全に挙がるようにする、などの試みである。

折しも江戸東京博物館での会期中に、都内の目黒区美術館で「もうひとつの川村清雄展」が開催された。また、静岡展オープニングには大久保一翁や勝海舟の御子孫が来場され清雄筆の海舟像の前で清雄の御子孫と邂逅するなど、期せずして川村清雄顕彰の空気が醸成されたのも印象深い出来事であった。

なお、関係各位の尽力により、本展は毎日新聞記事「美術:この1年 2012年の展覧会3選」に選ばれた（選者：高階秀爾氏）。また、本展図録は美術館連絡協議会優秀カタログ賞を受賞した。

■関連事業

- 特別講演会「素顔の川村清雄」
2月23日（土）14:00～15:30

講師：丹尾安典氏（早稲田大学教授）

・美術講座「川村清雄とその時代」

3月3日（日）14:00～15:30

講師：村上敬（当館上席学芸員）

・学芸員によるフロアレクチャー

2月11日（月・祝）、17日（日）、3月9日（土）、10日

（日）、16日（土） 各日14:00から

■図録

編集・発行

東京都江戸東京博物館、静岡県立美術館、読売新聞社
編集協力

美術出版社 デザインセンター

デザイン

野村勝久（野村デザイン制作室）

印刷

大日本印刷

仕様

29.5×23.5 cm 236ページ

ISBN 978-4-924965-84-3 C 0071

構成

特別寄稿

高階秀爾「歴史のなかの川村清雄」

作品図版

論考

落合則子「慶応戊辰の川村家——川村清雄 画家の
魂の原点」

ダニエレ・ラウロ「ヴェネツィア美術学校学籍簿
——川村清雄のイタリア留学時代（1876—1881）の考
察」

田中裕二「日比翁助と川村清雄——士魂商才の經營
者と和魂洋才の油絵師」

堀切正人「川村清雄作品における「時」の表現につ
いて」

村上敬「聴く歴史画——《建国》《振天府》の聴覚
的モチーフについて」

資料

落合則子「文書釈文一（和文）」

川村家関係系図

関連年表

村上敬「川村清雄をより知りたい方のための読書案内」

田中裕二、ダニエレ・ラウロ「文書釈文二（欧文）」

出品リスト

■出品目録

pp. 98-104 を参照



▲チラシ

【運営基本方針A】人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します
【重点目標2】他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します
(調査研究活動)

紀要の発行

当館は、美術館建設準備室時代の昭和58年に紀要第1号を刊行し、以後毎年1回のペースで刊行を続けてきた。

その目的は、美術館活動の基礎となる学芸員の調査・研究成果を広く公開し、館蔵品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。従って、研究テーマは主に館蔵品であるが、各学芸員の研究意欲に従い、広く美術および美術館をとりまく諸問題まで取り扱う。成績品は、例年のように、全国の研究機関、研究者へ配布した。

第28号

■版型 29.7×21.0 cm

■頁数 76ページ

■発行日 平成25年3月31日

■内容

□口絵図版

- ・ユベール・ロベール《ユピテル神殿、ナポリ近郊ポットワーリ》(全図) 当館蔵

□論文

- ・小針由紀隆「ユベール・ロベールとナポリ近郊ポットワーリのセラーピス神殿」
- ・村上 敬「川村清雄関連文献解説目録」
- ・川谷承子「1960年代後半の『地方の前衛』と、グループ『幻触』の1970年代～90年代の評価について」
- ・三谷理華「ラファエル・コランの極東美術コレクション－新出旧蔵品について」

□各論目・英レジュメ



(表紙)

研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・書籍執筆・口頭発表）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌などへの寄稿や、一般向け講演、図録の作品解説などは除いている。

◆小針由紀隆

- 論文「ユベール・ロベールとナボリ近郊ポッツオーリのセラーピス神殿」『静岡県立美術館紀要』第28号（平成25年3月）

◆三谷理華

- 論文「ラファエル・コランの極東美術コレクション—新出旧蔵品について」『静岡県立美術館紀要』第28号（平成25年3月）

◆川谷承子

- 報告「ブロック報告〔東海〕コレクション展に見る時代の気分」『ZENBI 全国美術館会議機関誌』Vol. 2（平成24年8月）
- 研究ノート「前田守一 《遠近のものさし》に至る人的交流とその作品への影響」『アマリリス』No.107／2012年度秋号（平成24年10月）
- 論文「1960年代後半の「地方の前衛」と、グループ「幻触」の1970年代～90年代の評価について」『静岡県立美術館紀要』第28号（平成25年3月）

◆村上敬

- 論文「聴く歴史画——《建国》《振天府》の聴覚的モチーフについて」『維新の洋画家 川村清雄展図録』東京都江戸東京博物館・静岡県立美術館・読売新聞社（平成24年10月）
- 資料「川村清雄関連文献解説目録」『静岡県立美術館紀要』第28号（平成25年3月）
- 口頭発表「Religious and Traditional Ideas」（「アジア・デザイン・エンサイクロペディアの構築」2012年度研究会、研究代表者：藤田治彦）、国際高等研究所（平成24年11月）

◆泰井良

- 論文「日本人の油彩画」『日本油彩画 200年展図録』静岡県立美術館（平成24年6月）

◆福士雄也

- 口頭発表「対照的存在としての若冲と蕭白」およびパネルディスカッション（「美のワンダーランド 十五人

の京絵師」展シンポジウム「京絵師の魅力」、九州国立博物館、平成24年7月29日）

- 論文「楽園への招待—「かたち」と「中身」、そして「もの」としての作品—」『江戸絵画の楽園展図録』静岡県立美術館（平成24年10月）
- 作品解説『日本美術全集 第十四巻 若冲・応挙・みやこの奇想』、小学館（平成25年2月）

研究会

平成24年度に開催した研究会の題目と要旨は以下のとおりである。この研究会は準備室時代から始まり、ほぼ月1回のペースで現在まで実施されている。発表者である学芸課職員は自由にテーマを設定できるが、当館における展覧会企画や館蔵品研究に関わる発表も多い。発表時間は約40分で、発表後は館長および同僚たちとの質疑応答を行う。20数年続いているこの研究会は、当館でアカデミックな伝統を形成し、ここから有益な示唆を得ることも少なくない。

5月

柳橋水車図屏風について

大原由佳子

桃山時代から江戸時代初期の比較的限られた期間に、一定のパターンに則って描かれた、一連の「柳橋水車図屏風」が存在する。現在知られている「柳橋水車図屏風」の中で印章のある作品は、すべて長谷川派の手によるものである。本発表では「柳橋水車図屏風」に関する先行研究をまとめ、「柳橋水車図屏風」と他の長谷川派作品との関係、あるいは他派の作品との関係について考察をした。「柳橋水車図屏風」に見られる特徴的な要素として①粉盛り上げを行い、画面を立体的に飾る、②描くモチーフを限定する、③橋を、画面を跨いで架け渡す、という3点を挙げ、長谷川派諸作品との比較検討を行った。また、他派の作品との比較では、「松図屏風」（東京国立博物館所蔵）を挙げ、土佐派作品との形態の類似を指摘した。

6月

大岡雲峰《日金山富嶽眺望図》（当館蔵）の贊者について 福士雄也

標題作は、平成15年度（2003年度）に当館の所蔵となった作品であるが、これまでその贊者が明らかでなかった。発表では、この贊者を明らかにするとともに、画贊の関係、絵画史上の位置付けについても考察を加えた。

人名録等の検索により、贊者は大蔵謙斎（1757～1844）であることが判明した。謙斎は信濃出身の儒者で、医を桜木闇斎、学を柴野栗山に学び、詩歌をも能くした人物である。謙斎と雲峰を取り巻く人間関係から考えるに、両者の間には交流があったと推察される。画贊の緊密な関係からしても着贊は作画と同時期とみられ、着贊年を画の制作年とすることの妥当性が確認された。

また、日金山から富士山を望む構図は18世紀後半からさかんに描かれるようになる。本作もそうした動向に連動するもので、絵画上の富士山ビューポイント増加という現象と大きく関わる重要な作品といえるだろう。

発表内容は、『アマリリス』No.111（2013年10月発行）

誌上にて公表する予定である。

7月

シャルロット・ペリアンと戦時下の商工省工芸指導所 村上敬

商工省のデザイン研究指導機関である商工省工芸指導所には、しばしば外国人デザイナーが招かれ、デザイン改善に貢献した。とりわけ、1930年代のブルーノ・タウト、1950年代のイサム・ノグチがよく知られている。また、最近になって、1940年代に来日したフランス人シャルロット・ペリアンについても再評価がすすんでいる。

しかしながら、ペリアン来日がまさに戦時下であったこともあり、両者の邂逅はかならずしも大きな実を結ばなかった。これは一般には、有能なデザイナーであったペリアンの提言を当時の日本は活かし切れなかったという形で語られる。しかしことはそう単純ではない。むしろ、美的生活の視点を求めたペリアンと、輸出工芸改善・機能的国民生活用具の開発を目指した工芸指導所の立場の違いがもたらしたすれ違いと考えるのが穩当であろう。

9月

ラファエル・コラン極東美術コレクション－新出旧蔵品について

三谷理華

フランスの画家ラファエル・コラン（1850-1916）は、日本近代の洋画家たちの滯仏中の師として知られる一方で、日本の美術や文化に深い関心と理解を示したジャポニザンでもあった。日本をはじめとした極東の美術工芸品の蒐集にもいそしみ、絵画、彫刻、陶器、鍔、能面、金工品といった多岐にわたるコレクションをなしていたが、これらは画家の死後陶器を除いて散逸し、概容をつかむことが困難な状態となっていた。だが発表者は近年、行方の知れなかったこのコランの極東美術コレクションの一部を確認し、調査を行った。本発表においては、その調査結果を報告し、コランに関する新たな作品資料の存在を知らしめるとともに、これに伴い派生しうる今後の研究課題を指摘した。

10月

年譜でたどる、石子順造とグループ幻触 川谷承子

今年度の研究会では、来年度開催を予定している、『グループ「幻触」と石子順造展』に関して、研究と調査の進捗状況を年譜に整理して、写真資料の画像とともに紹介した。

グループ「幻触」については2000年以降、清水で虹の美術館を運営する本阿弥清氏や、静岡県文化芸術大学の

尾野正晴氏によって掘り起しが進められ、石子順造に関しては、2011年に府中市美術館で開かれた展覧会をきっかけに、戦後美術史研究者の間でも石子順造への関心が高まりを見せている。本発表では、幻触と石子の双方向からの先行研究に加えて、展覧会準備の過程で収集した一次資料をもとに、両者の活動を、対照させる形で年譜に整理し、両者の接点や交流の足跡をたどった。発表を通して、美術に留まらずに、多彩な領域を横断して活動した石子順造が、「幻触」との交流を通じて戦後美術評論でどのような役割を果たしたのか検証をすすめることが課題として浮かび上がってきた。

12月

ユベール・ロベールと南イタリアの古代遺跡

小針由紀隆

1754年、ユベール・ロベールはローマに到着し、以後11年余りフランス・アカデミーで画家として研鑽を積むことになる。ローマで知り合ったサンノンと共に南イタリアを旅したのは1760年のことであった。ナポリ西郊の港町ポッツオーリを訪れたのもこの年で、《ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッツオーリ》(静岡県立美術館)は、現地での取材に基づき描かれている。しかし、素描・版画・書籍等の同時代資料や、現存する遺跡そのものを精査すると、この廃墟は神殿ではなく、古代ローマ期に建設された食料品市場であり、ロベールの想像力によって大きく改変されたカプリッチョであることが判ってくる。本発表では、実証的手法を用いてカプリッチョであることを指摘し、併せてこの作品に感取される18世紀固有の廃墟への感受性についても言及した。

1月

菅井汲の求めた表現とその変遷について

角田新

1919年生まれの菅井は戦前からデザイナーとして活躍したが、1952年、画家としての飛躍を目指して渡仏。間もなく日本の書を思わせる表現やデリケートなマチエールによって人気を獲得したが、その数年後には、マチエールを持たない作風を模索。こうした傾向は生涯続き、1959年にサンパウロ・ビエンナーレへ日本代表として出品したのをはじめ、1961年には日本国際美術展で優秀賞、翌年にはヴェネツィア・ビエンナーレ展でディヴィッド・ブライト基金賞を、さらに1965年にはサンパウロ・ビエンナーレ展で外国作家最優秀賞を受賞するなど、国際的な評価が高まる中でも、全く躊躇することなく作風を変えていった。

このように作風を変化させ続けた菅井だが、その表現は、表面的には変化しながらも、根底には一定の指向性

が働いていたのではないか。菅井初期から晩年までの代表作を通じて、菅井の内面にあったであろう指向性を探る。

2月

静岡県立美術館の保存業務について

新田建史

静岡県立美術館は、2005年の臭化メチル全廃を受け、文化財IPM体制に移行した。IPMは、「総合的有害生物管理 (Integrated Pest Management)」であり、基本的には虫菌害対策である。だが実務上、建物建設時の想定とは大幅に異なる観覧環境、悪意ある暴力(Vandalism)や天災、作品そのものも、作品や人体等に悪影響を与える要因となる。それらへの対抗的・予防的活動に加え、保存活動についての普及活動も必要となる。この業務範囲をIPMの概念で統合していくのは、無理だと思われる。むしろ総合的安全管理 (Integrated Security Management) と広く捉え、資料への保険や、保存環境の整備計画策定等も視野に入れるべきであろう。それらは他業務とも周辺で重なり合うことで、担当者間の連携を必要とする。このような連携こそ、本来的に殆ど全ての業務にとって必要な態度だと思われる。

2月

実技室を中心とした教育普及事業の実践と課題

伴野潤

学習指導要領をふまえて、鑑賞において小学校では、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館の利用や連携を図り、中学校においては、美術館の施設を積極的に活用することが明記されている。県立美術館では、教育普及事業に力を入れ、粘土・絵の具、ロダン館デッサン、実技講座等の体験系講座のから、ボランティアとの鑑賞、美術館の秘密をさぐれ、ななふしき等、鑑賞系まで幅広く行っている。また、学校の要望にあわせて、職場体験や粘土やレプリカの貸し出し、先生向け粘土・絵の具教室、出張美術講座まで幅広く事業を行っている。

平成19年度からの内容や参加人数の変化をまとめ、実技室の各活動が単独に行われるのではなく、つながりをもち、参加者がリピーターとなるように「ちょっと体験講座」が位置づけられ、実技室の各講座の内容ができるだけ企画展や収蔵品展と関連づけて行えるようにした。今年度から教員1名体制になり、来年度月・火を実技室の休室日としたが、スタッフの負担の増加が心配される。今後の教育普及について事業をどのようにスリム化していくかが課題となっている。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行われており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家（現代）人名別ファイル
- (2) 館蔵品資料
- (3) 出品作家資料
- (4) 館蔵品収集に関わる資料

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

■館蔵品等のフィルム・デジタル画像作成整理

(1) 館蔵品のフィルム

新収蔵品については、年度内にまとめて美術品写真の専門家による大型カメラでの写真撮影を行っている。4×5インチまたはブローニー判のカラーポジを写真原板として、受入番号順フォルダに入れ、整理収納している。経年変化で劣化したものは、予算の範囲内で適宜再撮影を実施している。

昨今のデジタル写真主流化の流れを受け、ポジフィルムデュープが困難かつ高価になっている。デジタルデータは利用至便なものであり、市場原理に従ってそちらに資源を注力せざるを得ないのも理解出来る。だが銀塩写真も文化である。またデジタルベースに比べ情報量がはるかに多い上、メディアとしてタフでもある。長いスパンで考えるなら、保存費用は安価でもある。将来これらの資源が利用出来なくなるような事態に陥らないよう、関係業界の節度ある対応や文化政策上の配慮を望みたい。

(2) 館蔵品のデジタル画像

コンピューターで利用出来るように、平成7年度から館蔵品を撮影した4×5インチまたはブローニー判フィルムのフォトCD化を進めてきた。

平成16年度からは、新収蔵品およびフィルムが劣化した作品の再撮影の機会に、美術品写真の専門家に委託し、デジタルカメラによる直接撮影も行っている。作成または撮影されたデジタル画像は、課内メインPCに保存され、ウェブ上での公開や各種広報物の作成、講演会や研究会等に活用されている。デジタル画像が作成されていない館蔵品もまだあり、それらの適切な撮影も懸念となっている。

(3) その他

館蔵品の他、寄託品、展覧会出品作品、調査作品についても、様々な形で写真撮影あるいは収集され、個別に整理されている。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料の整理は、ボランティアによる資料整理グループが行っている。

■展覧会資料の整理

企画展等の文書及び資料については、各企画展毎に整理収納されている。

■コンピューターによる各種データ管理

館蔵品データベースや図書データ等のコンピューター化は市販のデータベースソフト「桐」を使用して進められている。

(1) 館蔵品

館蔵品の基本データと履歴データが入力されている。デジタル画像は主な作品については揃っているが、未作成の作品については順次作成を進めている。

履歴データは伝来、修復歴、展覧会出品歴、収蔵品展示歴、文献掲載歴の5種のデータファイルで構成され、館蔵品受入番号をキーに基本データのファイルとリンク、画像ファイルとリンクしている。新たに発生する履歴データは日常業務と連携し、蓄積することを目指しているが、見落し等によるデータの濃淡が散見され、問題となっている。

館蔵品データのバックアップを、館内だけではなく、館外の適切な場所に保管することも、防災対策上考えていかねばならない。

(2) 図書

図書データはデジタル化され、来館者による検索もPC上で行なうことになっているが、ウェブ上での公開はまだ不可能である。新規図書は、図書担当職員によってデータベース登録が行なわれている。

博物館実習

当館は、静岡県唯一の県立博物館施設であることから、開館当初より博物館実習の場と機会を提供してきた。実習生の受け入れには、次の3つを条件とし、本年度は3大学10名の実習生を受け入れた。

- (1) 県内出身者もしくは県内の大学に在籍していること。
- (2) 美学・美術史学、または美術教育・制作・政策等を専攻し、美術館で実習を行う合理的な理由があること。
- (3) 大学の推薦を受けていること。

当館の博物館実習は、実習生に直に美術館での経験の機会を提供するのみならず、社会の中での美術館の役割を理解し、将来の美術館界を支える一員としての素養を身につけてもらうことを目指している。カリキュラムは実習、講義、演習、見学からなり、それぞれを当館学芸課及び総務課の職員が担当した。

本年度は「美術館は社会に必要か?」という総合テーマを設定し、現在の日本の美術館に期待されている社会の要請を、実習を通じて学生に考えてもらうことを目指した。このテーマに沿って、事前レポートの提出、発表、および実習後の成果をまとめた事後レポートの提出を義務づけ、学習効果の意識化と定着を図った。

*以下()内は当館担当者名

■実習内容

・実習

作品取扱実習（南、新田、福士）

収蔵庫内実習（新田、角田）

「ART!」体験（伴野）

「美術館のひみつを探れ」体験（伴野）

「ロダン館ななふしき」体験（伴野）

普及イベント補助（伴野）

・講義

県立美術館の概要（小針）

コレクション形成とその活用の工夫（小針）

展覧会ができるまで①：国際巡回展（小針）

展覧会ができるまで②：日本洋画展（泰井）

展覧会ができるまで③：現代美術展（川谷）

文化財の管理・保全（新田）

学芸広報・HP等PR活動とボランティア活動（福士）

実技外イベントについて（川谷）

博物館評価と文化政策の基礎（泰井）

美術館と学校教育連携（三谷）

・演習

事前課題発表（村上）

・見学

施設見学①：裏方（岡村、村上）

施設見学②：表方（村上）

収蔵庫見学（南）

■カリキュラム

- (1) 10:00~10:50
- (2) 11:00~11:50
- (3) 13:00~13:50
- (4) 14:00~14:50
- (5) 15:00~15:50
- (6) 16:00~16:50

8月13日（月）

(1) オリエンテーション（村上）

(2) 県立美術館の概要（小針）

(3-6) 事前課題発表、実習ノート整理（村上）

8月14日（火）

(1) 施設見学①：裏方（岡村、村上）

(2) コレクション形成とその活用の工夫（小針）

(3) 展覧会ができるまで①：国際巡回展（小針）

(4) 施設見学②：表方（村上）

(5) 展覧会ができるまで②：日本洋画展（泰井）

(6) 課題制作・実習ノート整理（村上）

8月15日（水）

(1) 文化財の管理・保全（新田）

(2) 学芸広報・HP等PR活動とボランティア活動（福士）

(3) 収蔵庫見学（南）

(4-5) 作品取扱実習（南、新田、福士）

(6) 課題制作・実習ノート整理（村上）

8月16日（木）

(1) 展覧会ができるまで③：現代美術展（川谷）

(2) 実技外イベントについて（川谷）

(3-4) 収蔵庫内実習（新田、角田）

(5) 博物館評価と文化政策の基礎（泰井）

(6) 課題制作・実習ノート整理（村上）

8月17日（金）

(1) 美術館と学校教育連携（三谷）

(2) 「ART!」体験（伴野）

(3) 「美術館のひみつを探れ」体験（伴野）

(4) 「ロダン館ななふしき」体験（伴野）

(5) 普及イベント補助（伴野）

(6) 課題制作・実習ノート整理（村上）

【運営基本方針A】人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

【重点目標3】特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します

収蔵品展

当館の収蔵品を幅広くご覧いただきため、新収蔵品展のほか、日本画や西洋絵画、日本洋画、現代美術等、ジャンルごとにテーマを設定して展示を構成した。

本館1階にあるエントランスの名品コーナーでは、常時3点の作品を無料で公開している。そのうち1点は、富士山を描いた作品を展示するようにしている。

本年度の収蔵品展は、以下のとおりである。

■平成24年度収蔵品展

平成24年4月10日（火）～5月27日（日）

新収蔵品展

平成24年6月9日（土）～7月22日（日）

静岡県浙江省友好提携30周年記念 中国絵画と日本

平成24年8月4日（土）～9月17日（月・祝）

親子で見て感じる現代アート

平成24年9月19日（水）～11月4日（日）

無限の芸術 李禹煥の世界

平成24年11月20日（火）～12月16日（日）

西欧の風景画I 当館収蔵品のエッセンスがここにある

平成24年12月18日（火）～平成25年2月3日（日）

西欧の風景画II 当館収蔵品のエッセンスがここにある

平成25年2月5日（火）～3月31日（日）

富士山の絵画2013

■出品目録

pp. 105-108 を参照

移動美術展

富士宮移動美術展

静岡ゆかりの画家たちと美術館の名品

会場：富士宮市民文化会館

会期：平成24年9月12日（水）～29日（土）

主催：静岡県立美術館、富士宮市、富士宮市教育委員会
観覧料：無料

富士宮市の富士宮市文化会館を会場とした移動美術展。今回の展覧会では、静岡県ゆかりの美術家たちの作品や、ロダンの《考える人》（小型像）などの美術館の名品を展示了。これら出品作品の中には、富士宮市ゆかりの画家、曾宮一念などの作品も加えた。また、グループ「幻触」など、静岡ゆかりの現代美術作品の紹介にも努めた。

静岡県立美術館収蔵品のエッセンスの一面を伝える展覧会として、来場者にご堪能いただける展覧会となった。

会期中イベント

- ・学芸員によるギャラリー・トーク

9月12日（水）10:30～

■出品目録

pp. 109-110 を参照



▲チラシ

磐田移動美術展

彫刻のいざない

会場：磐田市新造形創造館

会期：平成24年10月26日（金）～11月4日（日）

主催：静岡県立美術館、財団法人磐田市振興公社

観覧料：無料

磐田市の磐田市新造形創造館で開催した移動美術展。

同館がガラスと金属造形を通じてものづくりの楽しさを伝えることをコンセプトとした施設である点を踏まえ、ブロンズ鋳造作品であるロダンの《考える人》（小型像）などを中心に、彫刻の優品を厳選して展示した。磐田市新造形創造館の企画によるワークショップも数多く展開されるなど、開催会場の積極的な参加がみられ、有意義な開催となった。

会期中イベント

[静岡県立美術館によるもの]

- ・学芸員によるギャラリー・トーク

10月26日（金）、27日（土） 各日とも14:00～

[磐田市新造形創造館によるもの]

- ・レクチャー 作品工程解説「鋳造技法から生まれるブロンズ」

11月3日（土・祝） 10:30～12:00

- ・ワークショップ 子ども造形「ブロンズ風粘土で彫刻作品に挑戦」

10月27日（土） 9:30～11:30、16:00～18:00

10月28日（日） 9:30～11:30

- ・ワークショップ 鍛金「銅の3種類のレードル（お玉）とレードル掛け制作」（2回連続）

10月27日（土）14:00～17:00、および28日（日）

10:00～16:00

- ・ワークショップ ステンドグラス「万年カレンダー制作」

11月4日（日）10:00～12:00

- ・ワークショップ 鍛金「銅のコーヒードリッパーとコーヒー豆スプーン制作」（2回連続）

11月3日（土・祝）14:00～17:00、および4日（日）
10:00～16:00

■出品目録

p. 110 を参照



▲チラシ

平成24年度 新収蔵品

当館における作品収集の主要な方針は以下のとおりである。

- ①17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画
- ②ロダンを中心とした国内外の近代以降の彫刻
- ③20世紀以降の美術動向を示す作品
- ④静岡県ゆかりの作家、作品
- ⑤富士山をモティーフとする作品

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
1	日本画	横山大観	春園の月	1937-1939 (昭和12-昭和14)	絹本着色軸装	105.6×137.1	伊藤恒道氏 寄贈	<p>銀泥の月に照らし出される梅園を異例の大幅に描く。朧な情景の中、梅樹がうごめくように枝を伸ばし、梅の香漂う夜の園は濃密な生の気配に満たされる。明治から昭和にわたって近代日本画を牽引し続けた横山大観の作。水墨表現を主体とした作品は初収蔵。</p> 
2	日本画	安田靄彦	不動明王像	1942頃 (昭和17頃)	紙本着色軸装	148.0×54.0	伊藤恒道氏 寄贈	<p>法隆寺金堂壁画などから学んだ張りのある墨線が尊像の充実した体躯を形作り、金泥や墨のぼかしとの対比の中でその姿を際立たせる。大変近しい作が豊田市美術館に所蔵される。安田靄彦は横山大観らに続く院展第2世代として活躍。歴史画を得意とし、新古典主義と呼ばれる高雅な画風を築いた。</p> 
3	日本画	安田靄彦	雅扇	1936 (昭和11)	絹本着色軸装	137.8×41.5	伊藤恒道氏 寄贈	<p>流麗で的確な描線と控えめな着彩により、中国風俗の女性の艶やかで気品あるたたずまいを描き出す。靄彦の確かな技量と高潔な画趣が味わえる佳品。</p> 

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
4	日本洋画	佐分真	雪のグリュン デルワルド	1927(昭和2)	キャンヴァス、 油彩	37.5×45.2cm	購入	
5	西洋	ジャン・バルボー	最も美しい 古代ローマの モニュメント	1761	紙、エッチング (書籍体)	51×40×5.4	購入	
6	現代	菅井汲	SPACE - THE SIDE	1984(昭和59)	紙、リトグラフ	125×250	原勝雄氏 寄贈	
7	日本洋画	前田守一	作品CB-1 「暗愚」	1959(昭和34)	紙、木版 二曲一隻	177×172	前田秀子氏 寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
8	日本洋画	前田守一	作品CB-2 「木偶」	1959(昭和34)	紙、木版 二曲一隻	177×173	前田秀子氏 寄贈	
9	日本洋画	前田守一	作品BC-1	1959(昭和34)	紙、木版 一隻	168×82	前田秀子氏 寄贈	
10	日本洋画	前田守一	作品DG-1	1960(昭和35)	紙、木版 一隻	116×87	前田秀子氏 寄贈	
11	日本洋画	前田守一	泥梨番	1964(昭和39)	紙、木版 一隻	170×82	前田秀子氏 寄贈	
12	日本洋画	前田守一	personality	1970(昭和45)	紙、木版	46.0×32.0	前田秀子氏 寄贈	
13	日本洋画	前田守一	not so black as he is painted	1972(昭和47)	紙、木版	45.8×64.0	前田秀子氏 寄贈	
14	日本洋画	前田守一	はごろも橋	1978(昭和53)	紙、木版	35×60	前田秀子氏 寄贈	
15	日本洋画	前田守一	明治はるあきー 停車場にて	1995(平成7)	紙、木版	55×77	前田秀子氏 寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
16	日本洋画	前田守一	窓辺の手 —そして木馬たち—	1997（平成9）	紙、木版	44×80	前田秀子氏 寄贈	
17	日本洋画	前田守一	海からの便り— 青い渚	2000（平成12）	紙、木版	57×80	前田秀子氏 寄贈	
18	日本洋画	前田守一	天網	2002（平成14）	紙、木版	60×60	前田秀子氏 寄贈	
19	現代	ジュリアン・ オピー	「日本八景よ り」国道三百 号線から眺め る富士山と雛 菊	2007	コンピュータ アニメーショ ン、46インチ 液晶モニター3 台、コンピュー タ	110×220×12	太田正樹氏 寄贈	<p>1958年生まれのイギリス人作家ジュリアン・オピーによる、歌川広重にちなんだ「日本八景」シリーズのうちの1点。現代的なコンピュータアニメーションの技術を用いて現代の富士を鮮やかに表現している。広重が歩いたであろう富士山周辺の道を作者みずから旅し、現地で写真に収めたイメージや録音した音を素材にしている。</p> 

■収藏点数一覧 (平成24年度末現在)

購入作品数

(百万円)

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計	
55						5					5	74
56	14	14	4	7	58		3	1			101	287
57	9	5	3		3	2					22	563
58	10	6	2	1	60		1				80	483
59	3	10			27		2				42	597
60	7	10	2		5		11				35	669
61	4	4	1		16		2				27	240
62	3	6			85		2				96	242
63	5	3			1		7				16	499
元	5	2			3		3		33		46	392
2	2	1		3	43		5		13		67	598
3	1	8	2		268		9				288	675
4	3	4			4		12				23	768
5	5	3	2		68		13			3	94	557
6	8	8	1		27		1			4	49	395
7	4	8	1	1	152						166	397
8	3	2	4							4	13	137
9	5	4	1		2						12	146
10	5	4	1		52						62	120
11	4	3	2		37						46	88
12	1	3	2							1	7	46
13	2	1	1		9		1				14	39
14	3	4	1		9						17	45
15	7	2									9	52
16	3	2			60		1				66	56
17	2				22					7	31	41
18			2				2				4	6
19		1								1	2	30
20	1	1			1						3	13
21	1										1	20
22	1	1			1						3	12
23	1										1	5
24		1			1						2	5
合計	点数	122	121	32	12	1014	7	75	1	46	20	1,450
合計	金額	1,681	2,831	311	68	361	80	2,811	3	8	142	8,297

寄贈作品数

(作品数)

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計
55	71					271					342
56		19	1	50							70
57	2	1		10		62	1				76
58	17	8	1	9	176	1					212
59						1					1
60	4	1				6		2			13
61		6		2	16		1	5			30
62	75	1			1			1			78
63	4	1	1								6
元	1	1		3							5
2	1	1	1		2		1		10		16
3	3		1		3		2				9
4	2		2	1	1						6
5					0						0
6					1						1
7					0						0
8	3			1	1						5
9	3	5			4						12
10			4		17						21
11		2			1						3
12	1			15						38	54
13		5									5
14	2				6						8
15		1	7								8
16											0
17		3									3
18	9				1						10
19		23									23
20	3	7	1	2	4				1	14	32
21		5			11		3			1	20
22	1	1									2
23	1	10			22		2			1	36
24	3				13					1	17
計	206	101	19	93	281	340	10	8	11	55	1,124

管理換作品数 9

図書資料の収集・整理

■収集

平成24年度の新たな受入により、当館蔵書は87,073冊となった。その累計内訳は、刊行図書39,355冊、美術雑誌21,286冊、美術館等刊行物26,432冊である（データのデジタル化による冊数表記の改定については、平成18年度年報を参照されたい）。

また、各地の美術館等との図書交換（海外含む）により、展覧会図録の収集も継続して進んでいる。

■分類・整理

平成24年度に行なった作業は、以下のとおりである。

①図書の受入

収集図書を分類表に則って分類した後、コンピューターに入力、配架した。

②分類表の改定

必要に応じて分類表の部分改定を行なった。

③誤分類の訂正

分類に誤りのあった受入図書に関しては、データを訂正し、配架場所を改めた。

④定期刊行物の受入

美術雑誌等の定期刊行物に関しても、コンピューターに入力後、配架した。

■閲覧

当館には、来館者の図書閲覧利用のため、座席数16席の閲覧室があり、約千冊の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を開架して、自由に閲覧できるようになっている。受付は当館ボランティアが行っている。平成18年度より、閲覧室に2台のパソコンを設置し、デジタル図書データを用いた図書検索ができるようになった。利用者は、閲覧希望図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入して受付に提示すれば、閉架図書も閲覧可能である。

平成24年度の利用者は1,916人で、昨年度より536人減少した。

館蔵品の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
1	カミュー・ピサロ	ポントワーズ、ライ麦畑とマチュランの丘	宇都宮美術館、兵庫県立美術館、産経新聞大阪本社	「カミュー・ピサロと印象派 永遠の近代」	宇都宮美術館 (3/24-5/27)	2012/3/13-2012/8/29
2	カミュー・ピサロ	ポントワーズ、ライ麦畑とマチュランの丘	宇都宮美術館、兵庫県立美術館、産経新聞大阪本社	「カミュー・ピサロと印象派 永遠の近代」	兵庫県立美術館 (6/6-8/19)	2012/3/13-2012/8/29
3	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	パッランツア、マッジョーレ湖	町田市立国際版画美術館	「画家にして版画家」展	町田市立国際版画美術館 (4/14-6/17)	2012/4/4-2012/6/27
4	ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	小さなヴェネツィア	町田市立国際版画美術館	「画家にして版画家」展	町田市立国際版画美術館 (4/14-6/17)	2012/4/4-2012/6/27
5	カミュー・ピサロ	クリスマスの農家	町田市立国際版画美術館	「画家にして版画家」展	町田市立国際版画美術館 (4/14-6/17)	2012/4/4-2012/6/27
6	エドワルド・ムンク	ヴァンパイア	町田市立国際版画美術館	「画家にして版画家」展	町田市立国際版画美術館 (4/14-6/17)	2012/4/4-2012/6/27
7	下村龍山・横山大觀	日・月蓬莱山図	宇都宮美術館、下野新聞社	「開館15周年記念 横山大觀」展	宇都宮美術館 (9/16-10/14)	2012/9/6-2012/10/24
8	横山大觀	群青富士	宇都宮美術館、下野新聞社	「開館15周年記念 横山大觀」展	宇都宮美術館 (9/16-10/14)	2012/9/6-2012/10/24
9	酒井抱一	月夜楓図	姫路市立美術館、千葉市美術館、細見美術館	「酒井抱一と江戸琳派の全貌」展	細見美術館 (4/10-5/13)	2012/3/31-2012/5/23
10	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女	岐阜県美術館、新潟県立近代美術館、姫路市立美術館、中日新聞社	「象徴派展」	岐阜県美術館 (7/13-8/26)	2012/7/3-2012/10/31
11	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女	岐阜県美術館、新潟県立近代美術館、姫路市立美術館、中日新聞社	「象徴派展」	新潟県立近代美術館 (9/8-10/21)	2012/7/3-2012/10/31
12	熊谷守一	ほたるぶくろ	福井市美術館、北九州市立美術館、瀬戸内市立美術館、伊丹市立美術館	「小さな画面に無限の世界 熊谷守一展」	瀬戸内市立美術館 (2/29-4/10)	2011/9/21-2012/6/6
13	熊谷守一	ほたるぶくろ	福井市美術館、北九州市立美術館、瀬戸内市立美術館、伊丹市立美術館	「小さな画面に無限の世界 熊谷守一展」	伊丹市立美術館 (4/14-5/27)	2011/9/21-2012/6/6
14	草間彌生	無題	テート・モダン（イギリス）	「草間彌生展」	テート・モダン（イギリス） (2/9-6/5)	2011/9/20-2012/6/28
15	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	国立西洋美術館 (3/6-5/20)	2012/2/25-2012/10/10
16	サルヴァトール・ローラー	川のある山岳風景	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	国立西洋美術館 (3/6-5/20)	2012/2/25-2012/10/10
17	ユベール・ロベール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポツツォーリ	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	国立西洋美術館 (3/6-5/20)	2012/2/25-2012/10/10
18	フランソワ・ブーシエ	水車のある風景	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	国立西洋美術館 (3/6-5/20)	2012/2/25-2012/10/10
19	フランソワ・ブーシエ	石橋のある風景	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	国立西洋美術館 (3/6-5/20)	2012/2/25-2012/10/10
20	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	福岡市美術館 (6/19-7/29)	2012/2/25-2012/10/10
21	サルヴァトール・ローラー	川のある山岳風景	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	福岡市美術館 (6/19-7/29)	2012/2/25-2012/10/10
22	ユベール・ロベール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポツツォーリ	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	福岡市美術館 (6/19-7/29)	2012/2/25-2012/10/10

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
23	フランソワ・ブー シェ	水車のある風景	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	福岡市美術館 (6/19-7/29)	2012/2/25- 2012/10/10
24	フランソワ・ブー シェ	石橋のある風景	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	福岡市美術館 (6/19-7/29)	2012/2/25- 2012/10/10
25	クロード・ロラン	笛を吹く人物のい る牧歌的風景	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	静岡県立美術館 (8/9-9/30)	2012/2/25- 2012/10/10
26	サルヴァトーレ・トーロ ローザ	川のある山岳風景	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	静岡県立美術館 (8/9-9/30)	2012/2/25- 2012/10/10
27	ユベール・ロベール	ユピテル神殿、ナボ リ近郊ポツツォーリ	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	静岡県立美術館 (8/9-9/30)	2012/2/25- 2012/10/10
28	フランソワ・ブー シェ	水車のある風景	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	静岡県立美術館 (8/9-9/30)	2012/2/25- 2012/10/10
29	フランソワ・ブー シェ	石橋のある風景	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	静岡県立美術館 (8/9-9/30)	2012/2/25- 2012/10/10
30	ガスパー ル・デュ ゲ	サビーニの山羊飼 い	国立西洋美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「ユベール・ロベール展 ヴァランス美術館コレクションを中心とする」	静岡県立美術館 (8/9-9/30)	2012/7/30- 2012/10/10
31	石田徹也	ピアガーデン発	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
32	石田徹也	SLになった人	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
33	石田徹也	(無題1)	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
34	石田徹也	飛べなくなった人	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
35	石田徹也	社長の傘の下	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
36	石田徹也	燃料補給のような 食事	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
37	石田徹也	トイレへ逃げこむ 人	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
38	石田徹也	兵士	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
39	石田徹也	引き出し	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
40	石田徹也	クラゲの夢	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
41	石田徹也	(無題2)	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
42	石田徹也	めばえ	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
43	石田徹也	市場	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
44	石田徹也	彼方	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
45	石田徹也	((無題3))	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
46	石田徹也	(無題4)	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
47	石田徹也	(無題5)	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
48	石田徹也	(無題6)	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
49	石田徹也	(無題7)	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
50	石田徹也	(無題8)	三菱地所、三菱地所アルティアム、西日本新聞社	「石田徹也展」	三菱地所アルティアム (4/28-5/27)	2012/4/18- 2012/6/6
51	マックス・エルンスト	籠の中の鳥	横浜美術館、愛知県美術館、宇都宮美術館	「マックス・エルンスト フィギュア×スケープ」 展	横浜美術館 (4/7-6/24)	2012/3/28- 2012/10/26
52	マックス・エルンスト	籠の中の鳥	横浜美術館、愛知県美術館、宇都宮美術館	「マックス・エルンスト フィギュア×スケープ」 展	愛知県美術館 (7/13-9/9)	2012/3/28- 2012/10/26
53	マックス・エルンスト	籠の中の鳥	横浜美術館、愛知県美術館、宇都宮美術館	「マックス・エルンスト フィギュア×スケープ」 展	宇都宮美術館 (10/28-12/16)	2012/3/28- 2012/10/26
54	須田国太郎	筆石村	神奈川県立近代美術館、茨城県近代美術館、石川県立美術館、鳥取県立博物館、京都市美術館、島根県立美術館	「須田国太郎展 没後50年に顧みる」	神奈川県立近代美術館 (4/7-) 5/27	2012/3/28- 2013/4/11
55	須田国太郎	筆石村	神奈川県立近代美術館、茨城県近代美術館、石川県立美術館、鳥取県立博物館、京都市美術館、島根県立美術館	「須田国太郎展 没後50年に顧みる」	茨城県近代美術館 (7/21-8/26)	2012/3/28- 2013/4/11
56	須田国太郎	筆石村	神奈川県立近代美術館、茨城県近代美術館、石川県立美術館、鳥取県立博物館、京都市美術館、島根県立美術館	「須田国太郎展 没後50年に顧みる」	石川県立美術館 (9/1-10/14)	2012/3/28- 2013/4/11
57	須田国太郎	筆石村	神奈川県立近代美術館、茨城県近代美術館、石川県立美術館、鳥取県立博物館、京都市美術館、島根県立美術館	「須田国太郎展 没後50年に顧みる」	鳥取県立博物館 (10/20-11/25)	2012/3/28- 2013/4/11
58	須田国太郎	筆石村	神奈川県立近代美術館、茨城県近代美術館、石川県立美術館、鳥取県立博物館、京都市美術館、島根県立美術館	「須田国太郎展 没後50年に顧みる」	京都市美術館 (12/1-2013/2/3)	2012/3/28- 2013/4/11
59	須田国太郎	筆石村	神奈川県立近代美術館、茨城県近代美術館、石川県立美術館、鳥取県立博物館、京都市美術館、島根県立美術館	「須田国太郎展 没後50年に顧みる」	島根県立美術館 (2013/2/15-4/1)	2012/3/28- 2013/4/11
60	富士浅間曼荼羅図		皇学館大学佐川記念神道博物館	「神社名宝展－参り・祈り・奉る－」	皇学館大学佐川記念神道博物館 (4/29-5/26)	2012/4/19- 2012/6/5
61	石田徹也	飛べなくなった人	Art and Air展実行委員会	「Art and Air～空と飛行機をめぐる、芸術と科学の物語」	青森県立美術館 (7/21-9/17)	2012/7/11- 2012/9/27
62	木村武山	羽衣	(財) 静岡市文化振興財団静岡市美術館	「七夕の美術」	静岡市美術館 (6/23-8/19)	2012/7/14- 2012/8/29
63	小林清親	上野東照宮積雪之図	山口県立萩美術館・浦上記念館	「清親と安治－光線画の時代－」展	山口県立萩美術館・浦上記念館 (9/8-10/8)	2012/8/29- 2012/10/18
64	小林清親	御茶の水雪	山口県立萩美術館・浦上記念館	「清親と安治－光線画の時代－」展	山口県立萩美術館・浦上記念館 (9/8-10/8)	2012/8/29- 2012/10/18
65	小林清親	浅草田浦太郎稻荷前	山口県立萩美術館・浦上記念館	「清親と安治－光線画の時代－」展	山口県立萩美術館・浦上記念館 (9/8-10/8)	2012/8/29- 2012/10/18

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
66	小林清親	池の端花火	山口県立萩美術館・浦上記念館	「清親と安治－光線画の時代－」展	山口県立萩美術館・浦上記念館 (9/8-10/8)	2012/8/29-2012/10/18
67	小林清親	日本橋夜	山口県立萩美術館・浦上記念館	「清親と安治－光線画の時代－」展	山口県立萩美術館・浦上記念館 (9/8-10/8)	2012/8/29-2012/10/18
68	小林清親	神田川夕景	山口県立萩美術館・浦上記念館	「清親と安治－光線画の時代－」展	山口県立萩美術館・浦上記念館 (9/8-10/8)	2012/8/29-2012/10/18
69	中山高陽	八州勝地図	MOA美術館	「熱海ゆかりの名宝」展	MOA美術館 (7/14-9/3)	2012/7/4-2012/9/13
70	平山郁夫	祇園祭	財団法人平山郁夫美術館、NHKプラネット、毎日新聞社	「次世代へのメッセージ 平山郁夫」展	大丸ミュージアム京都 (9/5-9/12)	2012/8/26-2012/9/22
71	平山郁夫	黄河（宵）	財団法人平山郁夫美術館、NHKプラネット、毎日新聞社	「次世代へのメッセージ 平山郁夫」展	大丸ミュージアム京都 (9/5-9/12)	2012/8/26-2012/9/22
72	鈴木慶則	非在のタブロー 棚包されたオダリスク	新潟県立近代美術館	「GUN－新潟に前衛（アヴァンギャルド）があった頃」展	新潟県立近代美術館 (11/3-2013/1/14)	2012/10/24-2013/1/25
73	前田守一	遠近の物差し	新潟県立近代美術館	「GUN－新潟に前衛（アヴァンギャルド）があった頃」展	新潟県立近代美術館 (11/3-2013/1/14)	2012/10/24-2013/1/25
74	前田守一	遠近の物差し（折り尺）	新潟県立近代美術館	「GUN－新潟に前衛（アヴァンギャルド）があった頃」展	新潟県立近代美術館 (11/3-2013/1/14)	2012/10/24-2013/1/25
75	飯田昭二	Half and Half	新潟県立近代美術館	「GUN－新潟に前衛（アヴァンギャルド）があった頃」展	新潟県立近代美術館 (11/3-2013/1/14)	2012/10/24-2013/1/25
76	小池一誠	No.1 石	新潟県立近代美術館	「GUN－新潟に前衛（アヴァンギャルド）があった頃」展	新潟県立近代美術館 (11/3-2013/1/14)	2012/10/24-2013/1/25
77	松岡映丘	今昔ものがたり伊勢図	独立行政法人国際交流基金、京都国立近代美術館、ローマ国立近代美術館、ローマ日本文化会館	「近代日本画と工芸の流れ 1968～1945」展	ローマ国立近代美術館 (2013/2/26-5/5)	2013/2/16-2013/5/15
78	オーギュスト・ロダン	花子のマスク	和泉市久保惣記念美術館	「美の宴 東洋の古美術、印象派や古地図が織り成す珠玉の世界」展	和泉市久保惣記念美術館 (10/14-12/2)	2012/10/4-2012/12/12
79	谷文晁	連山春色図	板橋区立美術館	「江戸文化シリーズNo.28 我ら明清親衛隊」展	板橋区立美術館 (12/1-2013/1/6)	2012/11/21-2013/1/16
80	司馬江漢	柳ニ翡翠図	板橋区立美術館	「江戸文化シリーズNo.28 我ら明清親衛隊」展	板橋区立美術館 (12/1-2013/1/6)	2012/11/21-2013/1/16
81	秋野不矩	たむろするクーリー	浜松市秋野不矩美術館	「麻田鷹司－わたしの風景展」	浜松市秋野不矩美術館 (2013/2/16-3/24)	2012/2/6-2013/4/3
82	秋野不矩	廻廊	浜松市秋野不矩美術館	「麻田鷹司－わたしの風景展」	浜松市秋野不矩美術館 (2013/2/16-3/24)	2012/2/6-2013/4/3
83	狩野探幽	富士山図	仙台市博物館	「江戸の旅－たどる道、えがかれる風景－」展	仙台市博物館 (9/28-11/11)	2012/9/18-2012/11/21
84	墨江武禅	芙蓉峯細見之図	仙台市博物館	「江戸の旅－たどる道、えがかれる風景－」展	仙台市博物館 (9/28-11/11)	2012/9/18-2012/11/21
85	司馬江漢	駿河湾富士遠望図	仙台市博物館	「江戸の旅－たどる道、えがかれる風景－」展	仙台市博物館 (9/28-11/11)	2012/9/18-2012/11/21
86	山口素絢	富嶽図	仙台市博物館	「江戸の旅－たどる道、えがかれる風景－」展	仙台市博物館 (9/28-11/11)	2012/9/18-2012/11/21
87	横山華山	清見潟富士図	仙台市博物館	「江戸の旅－たどる道、えがかれる風景－」展	仙台市博物館 (9/28-11/11)	2012/9/18-2012/11/21
88	大久保一丘	富嶽明暎図	仙台市博物館	「江戸の旅－たどる道、えがかれる風景－」展	仙台市博物館 (9/28-11/11)	2012/9/18-2012/11/21
89	歌川貞秀	大日本富士山絶頂之図	仙台市博物館	「江戸の旅－たどる道、えがかれる風景－」展	仙台市博物館 (9/28-11/11)	2012/9/18-2012/11/21

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
90	歌川芳幾	富士山北口女人登山之図	仙台市博物館	「江戸の旅－たどる道、えがかれる風景－」展	仙台市博物館 (9/28-11/11)	2012/9/18-2012/11/21
91	狩野探幽	東海道地取図巻	仙台市博物館	「江戸の旅－たどる道、えがかれる風景－」展	仙台市博物館 (9/28-11/11)	2012/9/18-2012/11/21
92	狩野探幽	天橋立丹後図画冊	仙台市博物館	「江戸の旅－たどる道、えがかれる風景－」展	仙台市博物館 (9/28-11/11)	2012/9/18-2012/11/21
93	狩野探幽	富嶽図画冊	仙台市博物館	「江戸の旅－たどる道、えがかれる風景－」展	仙台市博物館 (9/28-11/11)	2012/9/18-2012/11/21
94	原在正	富士山図巻	仙台市博物館	「江戸の旅－たどる道、えがかれる風景－」展	仙台市博物館 (9/28-11/11)	2012/9/18-2012/11/21
95	上田耕夫	富士山中図巻	仙台市博物館	「江戸の旅－たどる道、えがかれる風景－」展	仙台市博物館 (9/28-11/11)	2012/9/18-2012/11/21
96	酒井抱一	月夜楓図	出光美術館	「琳派芸術Ⅱ」展	出光美術館 (10/27-12/12)	2012/10/17-2012/12/22
97	円山応挙	木賊鬼図	愛知県美術館、中日新聞社	「円山応挙」展	愛知県美術館 (2013/3/1-4/14)	2013/2/19-2013/4/24
98	川村清雄	巨岩海浜図	東京都江戸東京博物館	「川村清雄」展	東京都江戸東京博物館 (10/8-12/2)	2012/9/28-2012/12/12
99	川村清雄	波	東京都江戸東京博物館	「川村清雄」展	東京都江戸東京博物館 (10/8-12/2)	2012/9/28-2012/12/12
100	川村清雄	風景	東京都江戸東京博物館	「川村清雄」展	東京都江戸東京博物館 (10/8-12/2)	2012/9/28-2012/12/12
101	川村清雄	海底に遺る日清勇士の髑髏	東京都江戸東京博物館	「川村清雄」展	東京都江戸東京博物館 (10/8-12/2)	2012/9/28-2012/12/12
102	川村清雄	静物写生	東京都江戸東京博物館	「川村清雄」展	東京都江戸東京博物館 (10/8-12/2)	2012/9/28-2012/12/12
103	入江波光	草園の朝	笠岡市立竹喬美術館	「入江波光」展	笠岡市立竹喬美術館 (2013/2/2-3/17)	2013/1/23-2013/3/27
104	初期狩野派	四季花鳥図屏風	広島県立美術館	「広島県立美術館名品選2 風景表現の系譜～静岡県立美術館のコレクションとともに」展	広島県立美術館 (9/21-12/25)	2012/9/11-2013/1/4
105		曾我物語 富士巻狩・仇討図屏風	広島県立美術館	「広島県立美術館名品選2 風景表現の系譜～静岡県立美術館のコレクションとともに」展	広島県立美術館 (9/21-12/25)	2012/9/11-2013/1/4
106	狩野永祥	離合山水図押絵貼屏風	広島県立美術館	「広島県立美術館名品選2 風景表現の系譜～静岡県立美術館のコレクションとともに」展	広島県立美術館 (9/21-12/25)	2012/9/11-2013/1/4
107	五姓田義松	富士	広島県立美術館	「広島県立美術館名品選2 風景表現の系譜～静岡県立美術館のコレクションとともに」展	広島県立美術館 (9/21-12/25)	2012/9/11-2013/1/4
108	児島善三郎	箱根	広島県立美術館	「広島県立美術館名品選2 風景表現の系譜～静岡県立美術館のコレクションとともに」展	広島県立美術館 (9/21-12/25)	2012/9/11-2013/1/4
109	ジョアン・ミロ	シウラナの教会	広島県立美術館	「広島県立美術館名品選2 風景表現の系譜～静岡県立美術館のコレクションとともに」展	広島県立美術館 (9/21-12/25)	2012/9/11-2013/1/4
110	藤波仁卿	春風馬堤曲	駿府博物館	「静岡の書家Ⅲ 山崎大抱と静岡の書家たち」展	駿府博物館 (11/10-12/24)	2012/10/31-2013/1/3
111	森田安次	風の又三郎	駿府博物館	「静岡の書家Ⅲ 山崎大抱と静岡の書家たち」展	駿府博物館 (11/10-12/24)	2012/10/31-2013/1/3

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
112	平岡朴斎	臨 清娯墓誌銘	駿府博物館	「静岡の書家Ⅲ 山崎大抱と静岡の書家たち」展	駿府博物館 (11/10-12/24)	2012/10/31- 2013/1/3
113	池大雅	竜山勝会・蘭亭曲水図屏風	東京国立博物館、毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション	「書聖 王羲之」展	東京国立博物館 (2013/1/22-3/3)	2013/1/12- 2013/3/13
114	浅井忠	雲	広島県立美術館、東京藝術大学大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	広島県立美術館 (2013/3/26-5/6)	2013/3/16- 2013/9/4
115	中川八郎	松原	広島県立美術館、東京藝術大学大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	広島県立美術館 (2013/3/26-5/6)	2013/3/16- 2013/9/4
116	サルヴァード・トール・ローザ	川のある山岳風景	広島県立美術館、東京藝術大学大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	広島県立美術館 (2013/3/26-5/6)	2013/3/16- 2013/9/4
117	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	パッランツア、マッジョーレ湖	広島県立美術館、東京藝術大学大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	広島県立美術館 (2013/3/26-5/6)	2013/3/16- 2013/9/4
118	狩野山雪	富士三保松原図	京都国立博物館、毎日新聞社	「狩野山楽・山雪」展	京都国立博物館 (2013/3/30-5/12)	2013/3/20- 2013/5/22
119	狩野山雪	富士三保松原図	京都国立博物館、毎日新聞社	「狩野山楽・山雪」展	京都国立博物館 (2013/3/30-5/12)	2013/3/20- 2013/5/22
120	狩野山雪	四季花鳥図屏風	京都国立博物館、毎日新聞社	「狩野山楽・山雪」展	京都国立博物館 (2013/3/30-5/12)	2013/3/20- 2013/5/22
121	狩野山雪	夏冬山水図	京都国立博物館、毎日新聞社	「狩野山楽・山雪」展	京都国立博物館 (2013/3/30-5/12)	2013/3/20- 2013/5/22
122	狩野山楽	雲門体露金風図	京都国立博物館、毎日新聞社	「狩野山楽・山雪」展	京都国立博物館 (2013/3/30-5/12)	2013/3/20- 2013/5/22
123	柳澤紀子	水邊の庭 I	浜松市美術館	「柳澤紀子展－転生の渚－」	浜松市美術館 (2013/2/23-3/31)	2013/2/13- 2013/4/10
124	柳澤紀子	水邊の庭 II	浜松市美術館	「柳澤紀子展－転生の渚－」	浜松市美術館 (2013/2/23-3/31)	2013/2/13- 2013/4/10
125	柳澤紀子	水邊の庭 III	浜松市美術館	「柳澤紀子展－転生の渚－」	浜松市美術館 (2013/2/23-3/31)	2013/2/13- 2013/4/10
126	柳澤紀子	水邊の庭 IV	浜松市美術館	「柳澤紀子展－転生の渚－」	浜松市美術館 (2013/2/23-3/31)	2013/2/13- 2013/4/10
127	柳澤紀子	水邊の庭 V	浜松市美術館	「柳澤紀子展－転生の渚－」	浜松市美術館 (2013/2/23-3/31)	2013/2/13- 2013/4/10
128	柳澤紀子	水邊の庭 VI	浜松市美術館	「柳澤紀子展－転生の渚－」	浜松市美術館 (2013/2/23-3/31)	2013/2/13- 2013/4/10
129	柳澤紀子	水邊の庭 VII	浜松市美術館	「柳澤紀子展－転生の渚－」	浜松市美術館 (2013/2/23-3/31)	2013/2/13- 2013/4/10
130	柳澤紀子	水邊の庭 VIII	浜松市美術館	「柳澤紀子展－転生の渚－」	浜松市美術館 (2013/2/23-3/31)	2013/2/13- 2013/4/10
131	柳澤紀子	水邊の庭 IX	浜松市美術館	「柳澤紀子展－転生の渚－」	浜松市美術館 (2013/2/23-3/31)	2013/2/13- 2013/4/10
132	柳澤紀子	水邊の庭 X	浜松市美術館	「柳澤紀子展－転生の渚－」	浜松市美術館 (2013/2/23-3/31)	2013/2/13- 2013/4/10
133	柳澤紀子	水邊の庭	浜松市美術館	「柳澤紀子展－転生の渚－」	浜松市美術館 (2013/2/23-3/31)	2013/2/13- 2013/4/10
134	三岸好太郎	海	ギャラリーうちやま	「夭折の天才 8人展」	ギャラリーうちやま (2013/2/18-2/27)	2013/2/11- 2013/3/6

美術作品の補修

平成24年度の修復作品

- ・浅野梅堂《梅流水図》全面解体修理
- ・建部綾足《海錯図》全面解体修理
- ・原勝郎《セーヌ河畔》洗浄、画面安定
- ・原勝郎《パリ風景》洗浄、画面安定
- ・佐分真《雪のグリュンデルワルト》洗浄、画面安定
- ・菅井汲《SPACE - THE SIDE》額装調整
- ・菅井汲《space - the front》額装調整
- ・アシル＝エトナ・ミシャロン《廃墟となった墓を見つめる羊飼い》画面洗浄、額装調整
- ・草間彌生《水上の虫》屋根部分補強改修
- ・前田守一《はごろも橋》マット装及び額新調
- ・前田守一《天網》マット装及び額新調
- ・前田守一《海からの便り－青い渚》マット装及び額新調
- ・前田守一《personality》マット装及び額新調
- ・前田守一《明治はるあき－停車場にて》マット装及び額新調
- ・前田守一《窓辺の手－そして木馬たち－》マット装及び額新調
- ・前田守一《not so black as he is painted》マット装及び額新調

■彫刻作品の保守点検業務

- 1 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品のうち。柳原義達《道標・鳩》、佐藤忠良《みどり》、船越保武《杏》の洗浄（陰イオン系洗剤使用）とワックス塗布を行った。この作業は、現在の色調と撥水性を維持し、着色層の劣化と発錆を防止することを目的とする。なお、掛井五郎《蝶》は、作品の特性上陰イオン系洗剤による洗浄のみを実施した。
- 2 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品の内ジョージ・リッキー作《四つの旋回する斜線 菱形II》は、グリスを交換した。

保存活動

美術作品の保存と公開とを両立させる作品の保全活動は、美術館の持つ重要な機能の一つである。当館はIPM (Integrated Pest Management、総合的有害生物管理)と呼ばれる考え方に基づいて環境管理を推進している。今年度は主に、環境や人体への影響が少ない殺虫処理方法の検討、白熱灯代替光源の検討、また地震防災体制の強化等に重点を置いた。

また職員1名を派遣し、陸前高田市博物館での津波被災資料の安定化処置を調査した。地震防災についての情報も、引き続き収集していく予定である。

■展示室等殺虫

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のピレスロイド(エンペントリン)炭酸製剤による殺虫処理は例年通り行った。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ピレスロイド(エンペントリン)炭酸製剤には害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

作品に虫菌害が発生した際、有害要因を物理的に排除するだけではなく、薬剤等による処理が必要となる場合がある。

菌害の場合、燻蒸用薬剤ならば、主成分が酸化エチレンの薬品(商品名エキヒュームS)が適切かと考えている。資料に適性があるなら、夏期の日照を利用した熱処理も試行しつつある。

虫害に対しては、環境や人体への影響が少ない殺虫処理方法として、これまでに検討を進めてきた窒素置換法による低酸素濃度殺虫を、実際に試行した。この手法は、処理時間を長く取る必要があるものの、安全性が高く、メリットは大きい。今後、手法の洗練と精度を高めていく予定である。条件によってこの方法が取れない場合の殺虫用薬剤としては、主成分がフッ化スルフリルの薬品(商品名ヴァイケーン)が適切かと考えている。

収蔵庫等で大規模な虫菌害が発生した場合にも、当該個所全域を大規模燻蒸することは、極力避ける方針である。特にエキヒュームを用いる場合、資料への吸着が強く、ガスの開放を入念に行なう必要があることから、この薬剤の使用を検討する場合には、必要と危険とが十分に勘案されなくてはならない。

ガス燻蒸は個別作品に留め、清掃や環境の改善で可能な限り対応することを目指したい。

■照明用代替光源検討

作品保全活動に関わる課題の一つ、現状の白熱灯スポットライトの代替光源については、従来から情報を収集してきたが、蛍光灯を含む水銀を使用した照明への規制が厳しくなることが予想されるため、一層具体的な情報の収集に着手している。

当館の場合、本館展示室で作品照明に主に使用されているハロゲン・ランプと蛍光灯に加え、ロダン館で空間の照明に用いられている水銀灯がある。それらの代替光源として有機EL、LED、プラズマ照明等を検討しているが、候補になり得るのは、現状ではLEDのみかと考えている。

ただしLED導入には、安全性の確認が不可欠である。可能な限り実験データも入手し、検討を進めていきたい。

■環境調査、環境改善

有害生物管理には、環境の調査が非常に重要である。当館では平成12(2000)年度より外部の委託業者による施設の環境調査を、年3~4回行なってきた。今年度は2回の調査を行なった。

ロダン館は、10月から3月の間休館し、屋根を改修することが出来た。

■普及活動

環境維持のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。館内職員に対しては、研修等の機会に保存活動への協力を呼び掛けている。また博物館実習の中に「作品の保全について」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部にも理解を求める試みが行われている。

今年度は、特に展示室でお客様のご案内や作品の監視に当たる、ミューズスタッフの防災訓練を重点的に行なった。今後、職員による防災訓練が進められなければならない。

■主な保存活動の経過

4月~

館内への生花持ち込み制限について、より明確な指標作成に着手

6月1日(金)~3日(日)

ブンガノン殺虫実施

7月2日(月)~31日(火)

屏風やその古巣、ミクストメディアによる現代美術作

品等を、窒素置換による低酸素濃度殺虫処理

7月23日（月）～25日（水）
カビの疑いがある書籍、アルコールと熱処理での除菌
試行

7月24日（火）
ロダン館出入り口、煉瓦による凹凸面とドアアラシの
隙間との一部をコーティング

8月3日（金）～20日（月）
キクイムシ被害の疑いがあった屏風古巣、熱処理

8月6日（月）
静岡県博物館協会事務局として、静岡県文化財等救済
ネットワーク協議会に参加

8月10日（金）～24日（金）
外部業者による環境調査第1回目

8月13日（月）
ミューズスタッフによる観覧者避難誘導訓練実施

8月16日（木）
博物館実習の一環として、本館収蔵庫内を清掃
作品等の取り扱いに使用する晒、白手袋、ネル等の洗
濯手順改訂

8月30日（木）
職員による防災訓練

10月1日（月）～5日（金）
職員1名、陸前高田市博物館で、津波被災資料の安定
化処理研修
この日から、屋根修理のためにロダン館休館

10月9日（火）
ミューズスタッフによる、DIG（災害図上訓練）実施
閲覧室及び書庫の書棚に、落下抑制テープの設置開始

11月1日（木）
静岡県文化財等救済ネットワークに、静岡県博物館協
会事務局として参加

11月8日（木）
静岡県地震防災センターで、防災体制整備について意
見聴取

11月29日（木）
美術館の防災指針改定を定例会で報告

12月3日（月）
ミューズスタッフによる、DIG（災害図上訓練）実施

2月3日（日）
講堂で「災害から文化財を守るためのシンポジウム」
開催（静岡文化財保存修理センター等と共に）

2月12日（火）
消防署の協力を得て、ミューズスタッフ及び職員等の
防災訓練実施

外部業者による環境調査第2回目

2月25日（月）、26日（火）
プロムナード彫刻メンテナンス
3月31日（日）
ロダン館再開館

ギャラリーツアー

平成22年度にボランティアを新体制で再スタートさせたのを機に、開館年から平成21年度まで行われてきた展示作品の解説活動「ギャラリートーク」の形式を、対話形式の「ギャラリーツアー」へと変更した。今年度は、3年目を迎えるボランティア展示室グループメンバーによるナビゲーターの技量が向上したことや、コレクションを活用した「カラーリミックス」、「日本油彩画200年」、「江戸絵画の楽園」の3つの企画展でもツアーアを実施したことにより、ツアーハへの参加者数が初年度194名から、3年目の平成24年度は576名へと大幅に増加した。

■「ギャラリーツアー」の定義

作品を前にして対話をしながら展示室を案内する。来館者に静岡県立美術館のコレクションの魅力を伝えるとともに、美術作品を鑑賞することのおもしろさや楽しさを分かち合う。

■ボランティア 展示室グループ・ギャラリーツアー班の役割

収蔵品展、ロダン館のギャラリーツアーのガイドを行う。

一方向的に作品を解説する従来のギャラリートークのスタイルから、双方向的に対話をしながら鑑賞するスタイルへ変更。作品の魅力を「伝える」のではなく「分かち合う」ことを目的とする。

■ギャラリーツアー登録ボランティア

6名(25年度3月現在)

■勉強会・実施日

月例活動日：第1土曜日(13:30～15:30)、第3土曜日(13:30～16:30)

企画展開幕後の最初の休館日：学芸員による研修

■ギャラリーツアー本番までの流れ

- ①作品の画像をスクリーンに投影しながら、ボランティア同士でディスカッションを行う。
- ②展覧会開幕後、展示室で実作品を前にボランティア同士でディスカッションを行う。
- ③学芸員による研修会に参加
- ④ツアーハ取り上げる作品について、各自自主学習を行う。
- ⑤模擬ツアーハ(予行演習)
- ⑥本番ツアーハ

■24年度 ギャラリーツアー実施実績(参加者 計576名)

- 4月7日、20日、27日、5月11日、18日、19日、25日
企画展「カラーリミックス」(計84名)
6月16日、7月7日、21日 収蔵品展「中国絵画と日本」
(計30名)
7月7日、9月1日 ロダン館・ブリッジギャラリー
(計7名)
7月1日、8日、14日、15日、16日、21日 企画展
「日本油彩画200年」(計114名)
8月18日、9月1日、15日 収蔵品展「親子で見て感じ
る現代アート」(計36名)
10月6日、20日 収蔵品展「無限の世界 李禹煥の世
界」(計11名)
10月27日、28日、11月3日、4日、10日、11日、17日、
18日 企画展「江戸絵画の楽園」(計215名)
12月1日、15日 収蔵品展「西欧の風景画I」(計18名)
1月19日、2月2日 収蔵品展「西欧の風景画II」
(計31名)
2月16日、3月2日、16日 収蔵品展「富士山の絵画」
(計30名)

実技・鑑賞講座

■ちょこっと体験

平成22年度に実技室廊下にて試験的に行ったイベントを平成23年度から実施し、来館した方にも気軽に参加できるように美術館正面玄関入ってすぐのエントランスにて15分の創作体験を行っている。

本年度も火曜日から土曜日までの5日間を基本として、期間ごとにシルクスクリーン（エコバッグ）、銅版画（エンボス体験）、木版画（摺り体験）、日本画（水墨画体験）を無料で行い、展覧会を見た記念として参加者自らの手で作った作品を持ち帰った。期間中の参加者は、今年度も予想を上回るものとなった。

また、実技室の各講座の募集チラシを配布することで、ちょこっと体験で興味をもった方が再び実技入門講座や創作週間に参加し、人数の増加につながった。

実施日	内 容	人 数
4月2日～7日	シルクスクリーン体験 エコバッグにプリントして無料お持ち帰り	341
6月15日～19日	銅版画体験 エンボス体験 無料 刷り体験は100円	364
8月28日～9月1日	木版画体験 摺りのみの体験無料 版木から彫る体験は100円	240
12月20日～22日	結縄文字キープ体験（インカ帝国展関連）無料	155
2月19日～23日	日本画体験 半紙での体験無料 色紙は100円	158
3月26日～30日	シルクスクリーン体験 エコバッグにプリントして無料お持ち帰り	390
年間28日		1,648



■技法セミナー

技法セミナーは、第一線で活躍するアーティストや芸術分野を支える専門家に実技指導や講座を依頼している。

今年度は2回行い、1回目の「アルパカを作ろう！」では、インカ帝国展にあわせて、羊毛フェルト作家を講師に招きアルパカの毛で作品づくりを行った。2回目の「テンペラ画講座」では、収蔵品展に関連させながら、中世テンペラ画に詳しい講師を招き、中世テンペラ画技法の再現（講習と実技）を行った。

「アルパカを作ろう！」

日 程：1月20日（日）

講 師：大村智子氏（羊毛フェルト作家）

場 所：実技室

参加者数：37名



「テンペラ画講座」

日 程：2月11日（月・祝）

講 師：今村友宣氏（画家）

場 所：実技室

参加者数：23名



■実技講座

実技講座は①鑑賞することで表現を豊かにし、制作することで観る目を養う、②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深めることをめざし、展覧会にできるだけ合わせられるよう関連づけて実施している。

昨年度に引き続き、株式会社墨仁堂の装こう師を講師に招き、企画展「江戸絵画の樂園」展の鑑賞とあわせて掛軸の仕組みを学んだ後、掛軸を仕立てた。静岡県出身の日本画家による日本画の金箔貼りや砂子蒔きの作品を仕上げたり、複雑で時間がかかるがクレヨンの質感や筆の効果など描写したものをそのまま紙に刷ることができリトグラフ等、さまざまな分野の講座を行った。

実施日	内 容	人 数
5月20日	わたしアート☆ワークショップ <野沢しきぶ（アートセラピスト）>	15
7月15日	日本色彩研究のワークショップ 「ジャポニズム、ふたたび。～日本の形～」 <森谷明子（日本画研究家）>	16
10月21日	装こう・日本画「掛軸を仕立てる」 <(株)墨仁堂 山口聰太郎>	10
1月13日・14日	リトグラフ <柳本一英（銅版画・当館インストラクター）>	16
3月23日・24日	日本画金箔貼り <鈴木 強（日本画家）>	28
年間 7 日間実施		85



■実技入門講座

初心者を対象にして、版画（三種類）と日本画、切り絵を学ぶ講座を用意し、作品の完成度よりも、技法や道具・溶剤の使用法を学ぶことで、一人で制作できる素地

を身に付けることを目的にしている。

どの分野でも、世界に一つだけのオリジナル作品が仕上がり、静岡出身の切り絵アーティストによる切り絵の共同製作では、収蔵品展「富士山の絵画2013」に関連づけて、富士山をテーマとした作品が仕上がり、日本画では、「川村清雄」展に関連づけて杉板に日本画を描く作品づくりを行った。

実施日	内 容	人 数
5月26・27日	シルクスクリーン <北川純（Tシャツアーティスト）>	15
7月16・22日	銅版画エッチングに挑戦「世界に一枚！自分だけのオリジナル版画」 <柳本一英（版画家・当館インストラクター）>	26
9月30日・10月8日	木版画 <藤田泉（版画家・当館インストラクター）>	20
2月10日	切り絵 線で遊ぼう～富士山編～ <福井利佐（切り絵作家）>	26
3月17・20日	日本画 四季をめでる春を寿ぐ 杉板に描く日本画 <日下文（日本画・当館インストラクター）>	28
年間 5 講座 9 日実施		115



■創作週間

創作週間は高校生以上の個人を対象に、実技室および設備、用具を開放することで、利用者の自主的・自発的な創作活動を支援するものである。

大型プレス機を使い、エッチング、リトグラフ等、自宅ではできない版画に取り組んだり、デッサン、水彩画、日本画といった制作活動を利用者同士アドバイスし合って取り組んだりしていた。

特に利用者が多い日本画、木版画、銅版画については、曜日固定でインストラクターを配し、利用者への指導、相談、助言をお願いした。その結果、微減傾向にあった

利用者は、インストラクター在室日を中心に増加してきた。さらに、エントランスでの「ちょっと体験」や「実技入門講座」を行うことで、自分でもっと制作をしてみたいと、創作週間を利用し始める参加者が増えてきている。(昨年度比120名増)

開室日数：58日

開室時間：10：00～16：30

インストラクター：日下 文氏（日本画家）、藤田泉氏（木版画家）、柳本一英氏（銅版画家）、丸山成美氏（造形作家）

利用者数：623名



■ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は、当館所蔵のロダン作品を描く機会として、毎月2日間、金・土曜日に実施している。

本年度は、6ヶ月間のロダン館休館のため4月から9月までの実施となった。

そのかわりとして、「デッサン会スペシャル」として、「川村清雄」展期間中にあわせて講師を招き、企画展を鑑賞後、静物デッサンを開催した。

実施日数：12日

実施時間：10：00～15：30

インストラクター：藤岡美樹、半田直生（当館実技室担当）

参加者数：245名



■ロダン館デッサン会スペシャル

「川村清雄《静物写生》に学ぶ静物デッサン」

（川村清雄展関連イベント）

日 程：2月24日（日）

インストラクター：江間江美氏（非常勤講師）

場 所：実技室

参加者数：18名



(子ども向け)

実技・体験

■粘土開放日

粘土開放日は、実技室と実技室にある1tを越える粘土を提供し、親子で楽しく創作活動や粘土あそびをしてもらうプログラムである。

3歳以上の親子で楽しみながら取り組んでもらうようするため、こちらで細かい指示は出さず、会話も含めて楽しんでもらうことに重点をおいている。

後に記載する美術館教室の粘土・絵の具教室で来館した園児・児童に粘土開放日や絵の具開放日等の子ども向けイベントの配布資料をアンケート（教師用）とともに人数分渡しているため、今度は親子で参加しているというケースも多い。園・学校リピーターも増加傾向にあるため、季節に合わせて内容作品に変化をもたせたり、展覧会内容を紹介したりしている。新規の参加者は、口コミで聞いて興味をもつ方が多く、また、HP、チラシを見た方などの数も増え、少しずつ広報効果があがってきている。

月ごとに変化する参加者の行列数（開館10時100～120名）の予測が困難なため、1日3回（午前2回、午後1回）各回80名の定員を設け、多くの参加者に対応できるようにインストラクター、助手、スタッフと、実技室ボランティアの協力が欠かせない。

実施日数：12日（1日3回で36回実施）

実施時間：午前の部① 10:10～11:30

午前の部② 11:30～12:50

午後の部 14:00～15:20

インストラクター：内海健夫氏（美術作家）

助手：志村将史氏、吉村友利氏

場所：当館実技室

参加者数：2,090名



■絵の具開放日

絵の具開放日は、3歳以上の親子で自由に楽しく絵を描いてもらう今年で7年目のプログラムで、基本は屋外で行い雨天時は室内で行う。

屋外のプログラムは広い石畳にハケを使い、体を思い切り動かしながらの制作で、やっているうちに足の裏に絵の具が付き、それがスタンプ遊びになり、さらには手足等へのボディーペイントへと発展していった。

室内のプログラムはビニールクロスに絵を描き、表に描いた後、裏返しにして描くことができる。季節や行事に合わせて描いたり、上に寝て輪郭をなぞり人物を親子で描きったり、描くことは勿論、コミュニケーションを楽しむ姿が見られた。

こちらも美術館教室で来館した子どもの親子連れ、リピーター、新規参加者の内訳等、粘土開放日と同様、長年行ってきた粘土開放日と肩を並べるようなプログラムになってきている。

また粘土開放日と同様、より広々としたスペースで楽しんでもらうこと、安全面等を考え、室内の場合は各回80名程度、屋外の場合は各回150名程度の定員を設けている。

実施日数：8日（午前・午後で16回）

実施時間：午前の部 10:15～12:00

午後の部 13:30～15:15

インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）

助手：吉村友利氏、岡田友里香氏

場所：屋外展示テラス（雨天時は当館実技室）

参加者数：1,275名



■工作アトリエ

工作アトリエは、粘土開放日の延長線上に位置づけられるプログラムとして始まり、「いろんな素材をかたちに！」をテーマにして、粘土だけでなく、木材、ダンボール、石膏などさまざまな素材を用い、彫刻、立体造形の面白

さを発見、体験するプログラムとなっている。

対象は大人から小学生としながらも、親子でも参加できる企画として開催した。

午前、午後各1回のプログラムから、じっくり1日かけて制作するプログラムを取り入れ、インストラクターは、さまざまな講師を招いて企画展と関連づけた内容をめざした。計画当初は、3回だったが、インカ展関連企画として1日追加となった。

次年度より、工作アトリエと色彩アトリエの内容の区分が難しくなり、実施日数も少なくなってきたため、2つを統合して名称を変え、小学生（親子）向けのワークショップとして行う。

実施日数：4日

実施時間：10：15～15：50の間で1回または2回開催

助 手：吉村友利氏

場 所：当館実技室及び美術館周辺

参加者数：58名

実施日	内容<インストラクター>	人 数
6月9日	「きみもマエストロ！」銅版画 <柳本一英（版画家・当館インストラクター）>	AM 2 PM 9
	昔の時代にタイムスリップ！ 「掛け軸づくりに挑戦！」 <(株)墨仁堂>	5
10月20日	インカ人形を作ろう！（インカ展関連ワークショップ） <岡田由香里（当館インストラクター）>	7
10月15日	コラージュで枯れ木に花を！ <福井利佐（切り絵作家）>	35
年間4日（計5回実施）		58



■色彩アトリエ

色彩アトリエは、絵の具開放日の延長線上に位置づけられるプログラムで、さまざまな技法体験から色彩の持つ魅力を発見していくこうというものである。

対象は工作アトリエと同様、大人から子どもとし、親子を中心とした参加者が多く見られ、夢中になってつくった作品に満足し大切に持ち帰る児童の姿が見られた。

実施日数：2日

実施時間：10：15～15：50の間で1回または2回開催

助 手：岡田友里香氏

場 所：当館実技室及び美術館周辺

参加者数：34名

実施日	内容<インストラクター>	人 数
7月2日	木版画 <藤田泉（版画家・当館インストラクター）>	10
9月17日	色のオンパレードカラフル 風車を作ろう！ <吉村友利（当館インストラクター）>	24
年間2日（計2回実施）		34





■色彩アトリエスペシャル

当館所蔵品《樹花鳥獸図屏風》(伊藤若冲)が特別展示される時期に行なうようにしているワークショップで、7回目を迎えた。

「枠目描き」の一マスを7×7センチの厚紙に置き換えて着色し、約9倍に拡大するような作業となる。出来上がった作品は、エントランス床面に並べ、約10×5メートルの巨大絵(屏風一扇)となる。とはいっても、絵の具を作った段階で微妙に色が違ったり、グループごとに手法が違ったりと、参加者たちのブレーンストーミングが一番の醍醐味かもしれない。

また、色彩アトリエスペシャルとして、エントランスに来館した方にも、一マス描く体験コーナー「ちょこっとドット若冲」を期間限定で設けた。ブログでも完成作品を紹介し、完成した作品を見に再び来館される方も多く見られた。



日 程：4月30日(土)、5月1日(日・祝)

インストラクター：志村将史氏、吉村友利氏

助 手：岡田友里香氏

場 所：当館実技室、エントランス

参加者数：42名

ちょこっとドット若冲(色彩アトリエスペシャル「みんなでドット若冲」の体験版)

期 間：4月19～22日、24～29日の10日間

場 所：エントランス

参加者数：395名

■夏休み子どもワークショップ

夏休み子どもワークショップは、小学生を対象に、夏休みという比較的来館しやすい時期を選び、作品や作家との関わりの中で創造・鑑賞の喜びを感じてもらうためのプログラムである。

平成24年度は、夏休み期間に開催された収蔵品展「親子で見て感じる現代アート」の出品作家のひとり、美術家の磯辺行久氏を講師にむかえ「夏休み子どもワークショップ2012～ボックスアート」というタイトルで2日間行った。

日 程：8月4日(土)、5日(日)

講 師：磯辺行久氏(美術家)

ファシリテーター：川谷承子(当館上席学芸員)

スタッフ：藤岡美樹、半田直生(当館普及スタッフ)

助 手：志村将史氏、吉村友利氏

場 所：当館実技室

参加者数：計18名

内 容

1日目

- ・講師紹介、展覧会場で作品見学
- ・箱の制作
- ・箱の蓋に協同して大きな絵を描く

2日目

- ・箱の中身の制作
- ・箱を番号順に並べて作品を組み立てる
- ・みんなの前で自分の箱を披露しながら説明する
- ・記念撮影



■ART !

Art Room for Teen's、略してART！は、中学生から大学生までのティーンエイジャーが、夏休みに学校や年代の枠を超えて美術館に集い、創造的な活動に親しむワークショップ形式の普及プログラムである。

平成24年度は、藤枝市出身の美術家、臼井良平氏を講師にむかえ、美術を取り口に日常をみつめる新たな視点をみつけることをコンセプトに、「何つくろう SUMMER CAMP 2012」と題して、6日間の講座を実施した。

日 程：8月14日（火）～19日（日）

講 師：臼井良平氏（美術家）

ゲスト講師（5日目）：野沢裕氏（美術家）

ファシリテーター：川谷承子（当館上席学芸員）

スタッフ：藤岡美樹、半田直生（当館普及スタッフ）

助 手：丸山成美氏、岩倉牧氏

場 所：当館実技室、三保海水浴場

参加者数：計8名（中学生3名、高校生3名

大学・専門学校生 2名）

内 容

1日目

- ・自己紹介
- ・映像上映会
- ・Tシャツ制作
- ・しりとりドローイング

2日目

- ・「何つくろう」制作
- ・映像上映会

3日目

- ・写真集制作のための館外フィールドワーク

4日目

- ・写真集づくり

5日目

- ・映像を使ったインсталレーション制作

6日目

- ・ミニグループ展、講評



■ARU?

Around University、略してARUは、大学生に美術館に親しんでもらいたいという思いで実施している普及プログラムである。

平成24年度は、御殿場市出身の美術家、遠藤一郎氏が監修する、未来龍静岡大空凧プロジェクトの実施とサポートを2週間かけて行った。初日は、遠藤一郎氏を招いて、プロジェクトにかける思いを語ってもらうとともに、凧の作り方の指導を受けた。2日目以降は、大学生と美術館のスタッフとが協働して、600枚のビニール製の凧づくりに取り組んだ。また、期間中の土・日・祝日をイベント日にあてて、インカ帝国展の観覧者でにぎわうエントランスホールに特設コーナーを設け、来館者に向けて、凧に夢や希望のメッセージを書いてもらうよう呼びかけをした。4日間で、554個の凧にメッセージを書いてもらうことができた。

日 程：12月11日（火）～12月24日（月・祝）
講 師：遠藤一郎氏（美術家）
ファシリテーター：川谷承子（当館上席学芸員）
ス タ フ：藤岡美樹、半田直生（当館普及スタッフ）
助 手：丸山成美氏、岡田友里香氏、吉村友利氏
場 所：当館実技室、エントランスホール
参加者数：計55名（静岡英和学院大学生、静岡大学生）
連凧にメッセージや願いを書いた人：509名

内 容

遠藤一郎氏とのミーティング：12月11日（火）
凧づくり：12月12日（水）～14日（金）、18日（火）～22日（金）
イベント日：12月15日（土）、16日（日）、23日（日）、24日（月・祝）



なお、ARU?で作成した夢凧は、後日100枚ずつをつないで連凧にして、静岡県立大学芝生公園を会場に凧揚げを行った。

タイトル：「未来龍大空凧プロジェクト」凧揚げ

日 時：3月10日（日）14:00～16:00

場 所：静岡県立大学 芝生公園

参 加 者：遠藤一郎氏、大学生、一般参加者、ボランティア、美術館スタッフ 計100名程度



■美術館活用事業

「エスパルスドリーム夏の工作体験「花ざくるま」、レプリカ展示」

平成22年度に初めてエスパルスドリームプラザにて「出張実技講座・ロダン体操・ワークショップ」を行ったことをきっかけに、昨年度「珪藻土レンガを使ってのヒエログリフを彫る体験や工作体験、レプリカの鑑賞、ロダン体操」と続き、今年度「第二回、夏の工作体験」参加となった。

美術館教室インストラクター3名が企画準備を行い、参加者に風車用の紙に模様を付けるためにマーブリング体験コーナーと、乾かした後、風車の工作を行うコーナーを設けた。

乾かしている間に、県立美術館のやぐらプロジェクトでも使用したロダン館《考える人》等の「ぬりえ」コーナーや、伊藤若冲《樹花鳥獸図屏風》旧レプリカの展示。《樹花鳥獸図屏風》の「パズル」コーナー、ロダン《考える人》小像レプリカの展示と6種素材別立方体セットの展示。考える人の「折り紙」コーナーと展覧会のポスター掲示とチラシを置き、広報活動もあわせて行った。

日 程：8月28日（火）29日（水）

場 所：エスパルスドリームプラザ1階

インストラクター：志村将史氏、吉村友利氏、岡田友里香氏

参加者数：121名

■大学生によるギャラリートーク

静岡大学人文社会学部教授、学生と美術館をつなぐ話し合いが続き、今年度は、高校生から大学生によるギャラリートークを「日本油彩画200年展」期間中にあわせて行った。

日 程：7月7日（土）

実施者：鈎持みなみ、原せり奈、埴原綾、関華絵、藤井翼、置塙碧、町田智子（静岡大学人文社会学部2年、藤井氏のみ4年）

参加者数：30名

■鑑賞講座

鑑賞講座は、子ども鑑賞講座、親子鑑賞講座、鑑賞講座に分かれ、それぞれ子ども、親子、大人を対象とし、展覧会担当の学芸員と展示室での対話を通じて作品鑑賞を行っていくプログラムとして開催している。本年度は、親子向けに2回実施した。

「カラーリミックス」展親子向け展覧会レクチャー

日 時：5月5日（土）10：30～11：20

講 師：川谷承子（当館上席学芸員）、大原由佳子（当館臨時技術員）

場 所：展示室

参加者数：30名

親子鑑賞講座「親子で見て感じる現代アート」

日 時：8月15日（水）11：00～11：40、14：00～14：40

講 師：川谷承子（当館上席学芸員）

場 所：展示室

参加者数：12名、15名

学校連携普及事業（美術館教室）

■学校連携普及事業（美術館教室）

美術館教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象とした教育普及プログラムで、実技や鑑賞、職場体験、総合的な学習の時間における取組など、美術館で実施できるさまざまな学習活動を、学芸員やエデュケーションナルスタッフがお手伝いするものである。

粘土教室、絵の具教室は、県内の保育園、幼稚園、学校に周知されるようになり、年々参加希望団体が増加している。できるかぎり多くの団体に参加していただくため、学年をほぼ同じくする複数の園や学校の合同実施とした。

また、今後の取り組みとして、出張美術講座や授業協力等、美術館と学校との連携に重点をおいた普及を充実させていきたい。

■粘土教室

粘土教室は、幼児、児童、生徒を対象に、水粘土を使用し、体感的な活動から創作活動へと繋げていくプログラムである。

インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）

助手：吉村友利氏、岡田友里香氏

場所：当館実技室

参加者数：5,439名



月日	団体名：学年	人数
6月26日	有度第二小学校 5年	138
6月27日	清水保育園 年中年長	64
	ふじみ幼稚園 年長	66
6月28日	かわはらいづみ幼稚園 年長	68
	サレジオ幼稚園 年長	52
6月29日	清沢幼稚園 年少～年長	17
	川原保育園 年長	36
	富士川第一小学校 6年	72
7月3日	キンダーホーム 年少～年長	39

7月3日	あゆみ第2保育園 年長	37
	中央特別支援 4年	8
7月4日	富士川第一小学校特別支援	15
	竜南保育園 年中	32
7月5日	聖母幼稚園 年長	49
	船原幼稚園 年長	63
7月6日	伝馬町小学校 3年	43
	島田伊久美小学校 1～6年	38
8月7日	蒲原児童クラブ 1～3年	33
	飯田児童クラブ 1～3年	74
8月8日	西奈児童クラブ 1～4年	70
	高部東児童クラブ 1～3年	70
8月9日	清水手をつなぐ育成会 幼～高	65
	長田北児童クラブ 1～4年	63
	服織西児童クラブ 1～4年	15
8月10日	浜田児童クラブ 1～6年	43
	豊田児童クラブ 1～6年	21
	服織児童クラブ 1～6年	27
	大里東児童クラブ 1～4年	34
8月21日	田町児童クラブ 1～3年	29
	瀬名児童クラブ	26
	西豊田児童クラブ	63
8月22日	有度第二児童クラブ 1～3年	58
	三保第一児童クラブ 1～3年	35
	東源台第二児童クラブ 1～4年	40
8月23日	飯田東児童クラブ 1～3年	38
	小島児童クラブ 1～4年	30
	大谷児童クラブ 1～4年	44
	長田児童クラブ 1～3年	19
8月24日	横内児童クラブ 1～2年	28
	井宮第二児童クラブ 1～4年	31
	新通児童クラブ 1～5年	30
	南藁科児童クラブ 1～5年	18
9月11日	興津北保育園 年長	25
	船越小学校 2年	65
9月12日	東新田保育園 年長	48
	用宗保育園 年長	21
	船越小学校 2年及び特別支援学級	80
9月13日	大里西小学校特支学級	12
	北特別支援学校安部分教室	13
	番町小学校 4年	73
10月10日	南部小学校 3年	65
	服織保育園 年長	27
10月11日	東豊田小学校 2年	115

10月30日	由比幼稚園 年長	19
	由比入山保育園 年長	7
	由比保育園 年長	30
	あけぼの保育園 年長	56
10月31日	八幡聖母幼稚園 年少～年長	63
	飯田北保育園 年長	51
11月 1日	富士見小学校 2年	60
	静岡大学附属幼稚園 年長	47
11月13日	かえで幼稚園 年少・年長	67
	服織小学校 2年	49
11月14日	隣保館保育園 年中・年長	40
	服織小学校 2年	69
11月15日	富士見小学校 2年	32
	服織小学校 2年	65
11月16日	風の子保育園	28
	こぐま保育園	18
	たんぽぽ保育園	24
11月20日	千代田東小学校 2年	102
11月21日	庵原保育園 年長	29
	有度十七夜山保育園 年長	37
11月22日	南部小学校 1年	50
	南藁科小学校 2年	22
	美和保育園 年長	9
11月27日	中島小学校 2年	58
	有度第二小学校 1年	65
11月28日	精華幼稚園 年長	68
	有度第二小学校 1年	66
11月29日	中島小学校 2年	59
	美和小学校 2年	17
	南部小学校 5年	63
12月 4日	田町小学校 1年	44
	静岡視覚支援学校年中、1～5年	13
12月 5日	長沼保育園 年長	43
	有度第二小学校 2年	69
12月 6日	東豊田幼稚園 年長	29
	上土保育園 年長	35
	登呂保育園 年長	35
12月 7日	富士天間小学校 2年	62
	有度第二小学校 2年	68
1月22日	静岡大学附属幼稚園 年中	52
	矢部保育園	39
1月23日	常葉大学附属橘小学校 1年	49
	リリー幼稚園	71
1月24日	さくら幼稚園 年長	64

1月24日	隣人会保育園 年長	29
1月25日	安西小学校 1年	43
	瀬名川保育園	43
1月29日	大谷小学校 1年	54
	長田南小学校 1年	55
1月30日	岡小学校 1年	55
	清水小学校 3年	64
1月31日	岡小学校 1年	56
	長田南小学校 1年	56
2月 5日	相生保育園 年長	15
	水落保育園 年中・年長	50
2月 6日	八幡保育園 年長	25
	若竹幼稚園 年中	55
2月 7日	下河原幼稚園 年長	38
	中藁科小学校 1～2年	22
2月 26日	有度東保育園 年中・年長	59
	麻機幼稚園 年少	76
2月 27日	田町幼稚園 年中	80
	リリー幼稚園 年少	24
2月28日	井宮小学校 5年	112
合計人数		5,439
団体数		117

■絵の具教室

絵の具教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象としたプログラムで、対象の発達段階に応じ、少しづつ内容を変えて実施している。

幼稚園・保育園児に対しては、スタンプあそびを中心に行い、学年が上がるにつれ少しづつ難易度をつけていくが、全身を使い、楽しく描くことを重視している。

インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）

助手：吉村友利氏、岡田友里香氏

場所：当館実技室、屋外展示テラス

参加者数：1,536名



月日	団体名：学年	人数
5月22日	千代田小学校特別支援 1～6年	39
	静岡南幼稚園 年長	53
5月23日	藤枝特別支援高等部 1・2年	10
5月24日	静岡南幼稚園 年長	53
6月12日	月影保育園 年中年長	35
	中原幼稚園 年中	34
	ふじみ幼稚園 年中	56
6月13日	蒲原西部保育園 年中年長	27
	隣人会保育園 年中	35
	広野保育園 年長	32
	矢部保育園 年長	28
6月14日	たんぽぽ保育園 年少～年長	63
	島田市相賀小学校 1～6年	51
7月10日	安倍口幼稚園 年長	9
	日吉町保育園 年長	15
	袖師保育園 年長	21
	サレジオ幼稚園 年中	56
7月11日	田町幼稚園 年長	84
	有度第二小学校 3年	61
7月12日	ゆりかご保育園 年長	10
	相生保育園 年長	15
	有度第二小学校 3年	61
	有度北保育園 年長	28
	長田西特別支援学校 3～6年	7
9月19日	財機南特別支援学校	17
	リリー幼稚園	24
9月20日	丸子幼稚園 年長	31
	三保保育園 年長	32
	美和保育園 年長	9
10月16日	牧之原小学校	5
	勝間田小学校	4
	萩小学校	3
10月16日	伝馬町小学校 5年	55
10月17日	和田島小学校 1～6年	31
	リリー幼稚園 年中・年長	77
10月18日	こまどり幼稚園 年長	48
	大谷小学校 3年	59
10月23日	東源台小学校 1年	89
10月24日	若竹幼稚園 年少	60
	有度西保育園 年長	28
10月25日	蒲原西小学校 2年	46
	東豊田保育園 年長	35

合計人数	1,536
団体数	42

■音のかけらワークショップ

「音のかけらワークショップ」は、当館収蔵品、金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップである。

昨年度に続き、特別支援学校の利用のみとなった。車椅子やストレッチャーの児童生徒の安全面と健康管理にも配慮するため、事前の下見来館時の対応や電話FAX等の打ち合わせ、雨天時の入館時の対応（雨天時は屋根のあるロダン館から入館）、トイレや体調管理のための控え室等の確保等様々な準備対応が必要となる。当館独自の鑑賞系ワークショップとして、今後の利用についてどのようにしていくか検討が必要である。



月日	団体名：学年	人数
6月21日	南部特別支援学校 4・5年	6
10月10日	中央特別支援学校 4年	4
合計人数		10
団体数		2

■ロダン館ななふしき

「ロダン館ななふしき」は、ロダン館の彫刻作品を楽しみながら鑑賞するために7枚のカードを配布し、表に書かれたクイズを解き、最後に答え合わせをしながら展示作品を見て回り、カード裏の作品解説シートとともに鑑賞を深めるプログラムである。

クイズは作品のシルエットやキャプションがヒントになっているため、じっくりと鑑賞することが必要になる。答え合わせでは、単にそれだけを行うのではなく、鋳造の手法、作品のエピソードなどにも触れるように配慮した。また、《考える人》や《カレーの市民》を前にして同じポーズや表情の真似することにより深く作品に目をやる子どもたちの姿が見られた。

今年度は、10月から3月までのロダン館休館の影響が出ており、観覧を計画していた中学校が美術館以外に変更するケースが見られた。



月日	団体名：学年	人数
4月13日	島田実業高校専修高校 2・3年	8
6月26日	有度第二小学校 5年	138
7月12日	船越小学校 5年	115
8月31日	西奈中特別支援	12
9月4日	有度第一小学校 6年	154
9月13日	番町小学校 4年	73
合計人数		500
団体数		6

■美術館の秘密をさぐれ

「美術館の秘密をさぐれ」では、美術館を誰もが楽しく鑑賞できる工夫や作品保護についてワークシートを頼りにスタッフが館内を案内するプログラムである。普段は見ることができない美術館の裏側や施設の特徴や工夫を紹介しながら、美術館が多くの人によって支えられていることに気づくことができる。施設見学や職場体験の一つとしての申し込みが多くなってきてている。

ロダン館休館により、今年度は、大幅に増加した。

月日	団体名：学年	人数
4月13日	島田実業高校専修高校 2・3年	8
5月2日	東豊田小学校 5年	104
5月18日	静岡南中学校 職場体験 7名	7
5月25日	島田工業高校建築科	42
8月31日	西奈中特別支援	12
9月20日	星陵中学校	68
10月17日	和田島小学校 1～6年	31
10月26日	県立富士高校 1年	87
11月20日	千代田東小学校 2年	102

11月27日	船越小学校 6年	114
12月1日	御殿場中学校 1～3年	39
2月8日	玉川小学校 3～4年	14
2月22日	湖西市立白須賀中学校 1年	40
3月5日	森町立森中学校	90
合計人数		758
団体数		14

■ロダン館スケッチ・デッサン

学校を対象としたロダン館の彫刻作品をスケッチ、デッサンするもので、これにより作品をじっくり見ることへつなげている。

今年度は、10月から3月までのロダン館休館の影響が出ていている。



月日	団体名：学年	人数
8月9日	服織中学校美術部	16
9月20日	星陵中学校	68
合計人数		84
団体数		2

■学校向けギャラリー・ツアー

教育普及活動は、美術館の財産すなわち作品を生かした鑑賞系プログラムの充実に力を入れている。

その一環として、来館1ヶ月前までに学校からの依頼に応じて、当館ボランティア（展示室ボランティア学校班）に連絡を取り、都合のつくボランティアに当日鑑賞の手伝いをお願いしている。

展示室では、子どもたちの感想や気付きに耳を傾けながら作品について一緒に考え、話をする鑑賞を行っており、観賞後、子どもたちから「楽しかったよ」「また、美術館に来るね」の声が多く聞かれる。

粘土教室や絵の具教室に参加した園・学校にも観覧を

呼びかけ、ギャラリー・ツアーを実施したが、ボランティアへの連絡や、学校の観覧時間や人数にあわせたボランティアの配置の工夫、オリエンテーションや荷物置き場の確保、ミューズスタッフへの連絡等細かい配慮が必要となっている。

月日	団体名：学年	人数
5月2日	東豊田小学校 5年	104
5月11日	西豊田小学校 5年	173
5月15日	富士宮第三中学校	129
5月26日	安東中美術部	28
6月15日	清水特別支援中学部	18
7月7日	清水第1中学校美術部	18
7月12日	船越小学校 5年	115
8月10日	豊田児童クラブ 1~6年	21
	竜爪中学校美術部	20
8月21日	田町児童クラブ 1~3年	29
8月23日	長田児童クラブ 1~3年	19
9月4日	有度第一小学校 6年	154
9月13日	番町小学校 4年	73
	井川中学校 1~3年	11
10月25日	竜南小学校 2年	116
11月1日	富士見小学校 2年	60
11月13日	服織小学校 2年	49
11月14日	服織小学校 2年	69
11月15日	服織小学校 2年	65
12月13日	庵原小学校 4年	89
2月21日	浜松市立神久呂中学校	88
2月22日	湖西市立白須賀中学校 1年	40
2月28日	井宮小学校 5年	112
3月5日	森町立森中学校	90
合計人数		1,690
団体数		24

■職場体験学習

職場体験学習は、今日の少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用形態の多様化、あるいはフリーターやニートといった社会問題に対し、しっかりとした勤労観、職業観を身につけ、将来、社会人、職業人として自立できるようにするキャリア教育の一環として実施されている。

当館でも美術館教室・実技プログラムの開催日を中心に行なわれを行った。

主な活動としては、美術館教室での補助活動、ロダン館ななふしき、美術館の秘密を探れといったプログラム

への参加、ショップやインフォメーション業務の体験などがある。

こうした体験を通して、美術館は単に絵を鑑賞する場所ということにとどまらず、さまざまな活動が行われていること、そこにはいろいろな仕事をする人がいること、また多くの工夫があることを感じ取ってくれていた。



月日	団体名	人数
5月16~18日	静岡南中学校 2年生 (事前打ち合わせ 4/22)	7
8月21・22・24日	静岡雙葉中学校 (事前打ち合わせ 7/15)	3
8月21日	県庁インターンシップ (立正大学 3年)	1
8月29~31日	静岡東中学校 2年 (事前打ち合わせ 7/19)	6
8月30日	県インターンシップ (静岡大学 4年)	1
1月16~18日	不二聖心女学院高等部 3年	1
合計人数		19
団体数		6

■教員研修

初任者研修や複数年経験者研修、自校で粘土ワークショップ等を指導したい教員を対象として、イベント補助作業や粘土教室の参加・見学を受け入れるとともに、先生方の研究会に参加させていただき講師を務めるなど積極的に取り組んだ。

月日	団体名	人数
4月29日	高根中学校	1
7月5日	静岡市幼稚園協会(保育士向け)	53
合計人数		54
団体数		2

※教員研修会での講師含

■出張美術講座

出張美術講座では、美術館職員が学校に出向き、美術館の概要や企画展、収蔵品展、ロダン館の紹介やレプリカ教材（屏風、掛軸、西洋画、考える人等）を使って鑑賞授業を行ったり、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行った。

また、こどもたちのための文化芸術鑑賞推進事業の事前指導のために、同事業参加中学校に赴き、鑑賞マナーや開催展覧会の見どころ解説などを行った。



月日	団体名	人数
4月25日	大里東小学校 1～3年	131
4月26日	大里東小学校 4～6年	153
6月6日	湖西市鷲津中学校	40
8月7日	駿東地区図工・美術教育研修会	50
8月8日	地域と連携した授業デザイン研修	21
9月22日	長田東小学校 1年	160
10月11日	黒田小学校 6年	148
10月16日	日本航空高校伊豆函南校	14
11月26日	浜松特別支援朝霧分校	32
1月8日	伊東市立門野中学校 2年	117
1月15日	藤枝市立葉梨中学校 2年	113
1月17日	河津町立河津中学校 1年	67
1月21日	日本大学三島中学校 1年	57
1月22日	学校組合立牧之原中学校 1年	29
1月23日	浜松市立中郡中学校 2年	105
2月6日	湖西市立白須賀中学校 1年	40
2月14日	日本航空高校沼津校 1、2年	20
2月15日	富士宮市立袖野中学校 1年	19
3月8日	県立気賀高校 2年	74
3月17日	遠江総合高校	15
合計人数		1,405
団体数		20

■出張粘土教室

数年前、工事休館中に行ったことがある出張粘土教室を今年度、西部地区を限定に公用車にて粘土を学校に運び、粘土教室を行った。

湖西市、御前崎市、袋井市と遠方から依頼があったが依頼件数が少なく、また、前日は公用車への500 kgを超える粘土や準備用具の積み込み作業。当日は、公用車に同乗できる人数3名で学校に運び、積み下ろし会場準備、粘土教室の実施、実施後の片づけと積み込み作業。翌日は、粘土の練り直し作業等で丸1日の時間を費やし、1回の出張粘土教室で3日間かかるため、実技室年間活動計画の見直しの中で3日間をより有効に使うため、今年度のみの活動とした。

月日	団体名	人数
6月1日	袋井市笠原小大里東	51
6月4日	湖西市鷲津小特別支援	18
6月7日	御前崎市白羽小学校 2年	54
6月14日	御前崎市白羽小学校 6年	59
合計人数		182
団体数		4

■粘土やレプリカ、当館資料の貸し出し

児童・生徒を引率して当館に来るには、授業の時間数の関係や距離的に障害があるが、当館の普及事業を自らの手で実践したいという教員のために、粘土やレプリカ等の貸し出しを行ったり、授業協力という形で相談に応じたり、資料の提供を行った。

粘土貸出（貸出日、学校名）	
5月16日	岩松小学校
7月3日	服織児童館
10月12日	田子浦小学校 2年
10月16日	北特別支援学校小学部
11月21日	藤枝特別支援学校
授業協力・レプリカ貸出等（貸出日・学校名）	
4月28日	遠江総合高校
4月30日	富士宮第三中学校
6月6日	湖西市鷲津中学校
6月10日	清水特別支援学校
7月26日	静岡末広中学校
8月31日	長田東小学校
9月15日	小山中学校
10月7日	玉川小学校 1年
11月12日	伊東市門野中学校
2月10日	静大附属島田中学校
2月12日	安倍川中学校

【運営基本方針B】地域や学校教育との連携を深め、質の高い教育・普及活動を展開します

【重点目標2】講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します

講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会を開催した。

■特別講演会

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
5月6日	若冲 V.S. 現代美術	山下裕二氏（明治学院大学教授）	講堂	90人
7月1日	江戸の洋風画と明治の油彩画をつなぐもの	志賀秀孝氏（府中市美術館学芸係長）	講堂	50人
7月8日	日本洋画のパイオニアたち 平賀源内から秋田蘭画、司馬江漢、高橋由一へ～	芳賀徹（当館館長、東京大学名誉教授）	講堂	60人
8月19日	ヴァトーからロベールへー＜雅なる宴＞から＜崇高なる美へ＞	大野芳村氏（青山学院女子短期大学教授）	講座室	50人
10月27日	江戸絵画のかたち	榎原悟氏（群馬県立女子大学教授）	講堂	97人
12月9日	清水銀行PRESENTS 特別講演会 「DNAが語るインカ帝国への道」／「石とインカ」	篠田謙一氏（国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長）／網野徹哉氏（東京大学大学院総合文化研究科教授）	講堂	260人
2月23日	素顔の川村清雄	丹尾安典氏（早稲田大学教授）	講座室	70人

美術講座等

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、当館学芸員ほかによる講座を開催した。

■美術講座

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
6月24日	日本人の油彩画～なぜ、日本人は油彩画を描いたのか～	泰井良（当館上席学芸員）	講座室	50人
8月26日	ルーヴルの画家、ユベール・ロベール	三谷理華（当館上席学芸員）	講座室	40人
9月9日	ユベール・ロベールとイタリア	小針由起隆（当館学芸部長）	講座室	40人
10月14日	楽園への招待—「かたち」と「中身」のあやしい関係—	福士雄也（当館主任学芸員）	講座室	30人
3月3日	川村清雄とその時代	村上敬（当館上席学芸員）	講座室	30人

■鑑賞講座

親子やファミリーを対象にした鑑賞講座。要申し込み。

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
5月5日	「カラーリミックス」展親子向け展覧会レクチャー	川谷承子（当館上席学芸員）、大原由佳子（当館臨時技術員）	展示室	30人
8月15日	親子で見て感じる現代アート「親子鑑賞講座」	川谷承子（当館上席学芸員）	展示室	27人

■フロアレクチャー

展示室で展覧会のみどころや代表作品について解説するもの。学芸員全員が担当した企画展「カラーリミックス」フロアレクチャーは各回好評を博した。

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
4月14日 4月15日 4月28日 4月29日 4月30日 5月3日 5月4日 5月5日 5月12日 5月13日 5月20日 5月26日 5月27日	企画展「カラーリミックス」	南美幸（当館上席学芸員）、大原由佳子（当館臨時技術員）、川谷承子（当館上席学芸員）、小針由起隆（当館学芸部長）、新田建史（当館上席学芸員）、泰井良（当館上席学芸員）、村上敬（当館上席学芸員）、福士雄也（当館主任学芸員）、三谷理華（当館上席学芸員）、角田新（当館上席学芸員）	展示室	538人
4月15日 4月29日	企画展「カラーリミックス」 展覧会担当者による展覧会レクチャー	川谷承子（当館上席学芸員）、大原由佳子（当館臨時技術員）	展示室	30人
6月10日 7月15日	企画展「日本油彩画200年」	泰井良（当館上席学芸員）、村上敬（当館上席学芸員）	展示室	60人
6月23日	収蔵品展「中国絵画と日本」	福士雄也（当館主任学芸員）	展示室	6人
8月12日 8月25日 9月2日 9月8日 9月16日 9月17日 9月23日	「ロダン館 やぐらプロジェクト」	新田建史（当館上席学芸員）、南美幸（当館上席学芸員）、泰井良（当館上席学芸員）、川谷承子（当館上席学芸員）、三谷理華（当館上席学芸員）、小針由起隆（当館学芸部長）	展示室	40人

8月11日	収蔵品展「親子で見て感じる現代アート」	川谷承子（当館上席学芸員）	展示室	5人
9月22日	企画展「ユベール・ロベール」	小針由紀隆（当館学芸部長）	展示室	30人
10月21日 11月4日	企画展「江戸絵画の楽園」	福士雄也（当館主任学芸員）	展示室	60人
11月23日	収蔵品展「西欧の風景画I」	小針由紀隆（当館学芸部長）	展示室	12人
12月8日 12月18日 12月21日 12月22日 12月26日 1月2日 1月3日 1月5日 1月9日 1月12日 1月16日 1月19日	企画展「インカ帝国展」	新田建史（当館上席学芸員）、角田新（当館上席学芸員）	展示室	448人
1月6日	収蔵品展「西欧の風景画II」	小針由紀隆（当館学芸部長）	展示室	12人
2月23日	収蔵品展「富士山の絵画2013」	飯田真（当館学芸課長）、角田新（当館上席学芸員）	展示室	20人
2月11日 2月17日 3月9日 3月10日 3月16日	企画展「川村清雄」フロアレクチャー	堀切正人（常葉学園大学准教授）、村上敬（当館上席学芸員）	展示室	125人

■その他

大学生、当館インターンへの教育的視点も取り入れた作品解説、子供向け鑑賞ツアーを実施した。

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
7月7日	大学生によるギャラリートーク	釣持みなみ、原せり奈、埴原綾、関華絵、藤井翼、置塙碧、町田智子（静岡大学人文社会科学部2年、藤井氏のみ4年）	展示室	30人
8月22日 8月29日	親子で見て感じる現代アート 「夏休み小学生美術鑑賞ツアー」	川谷承子（当館上席学芸員）、小林千穂（当館インターン）	展示室	12人

■移動美術展の講座等

移動美術展会場にて作品を解説するもの。

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
9月12日	移動美術展フロアレクチャー	三谷理華（当館上席学芸員）	富士宮市民文化会館	40人
10月26日 10月27日	移動美術展フロアレクチャー	三谷理華（当館上席学芸員）	磐田市新造形創造館	55人

■出張美術講座

美術館職員が学校に出向き、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業を行ったり、教員向けの研修会講師を行うなどした。また、こどもたちのための文化芸術鑑賞推進事業（静岡県主催）の事前学習のため、学芸員が中学校に赴き、美術講座を実施した。年間21回、1,405人。

対外活動

館職員の対外活動（講演会・講座など）について記載する。

■講演会

小針由紀隆：ムセイオン静岡橿円堂講座

【静岡県立美術館】7月22日

広島県立美術館友の会講演会

【広島県立美術館】12月2日

南美幸：「ナント美術館名品展 フランス近代美術の流れ」

【浜松市美術館】9月23日

新田建史：「静岡県文化財等救済ネットワーク会議」司会

【静岡県庁】11月1日

「第1回災害から文化財を守る為のシンポジウム」コーディネーター

【静岡県立美術館】2月3日

伴野潤：平成24年度 駿東地区図工・美術教育研究部主催「夏季実技研修会」ワークショップ「色々な鑑賞授業」でのレプリカ鑑賞の講演

【御殿場市立朝日小学校】8月7日

静岡県総合教育センター主催「地域と連携した授業デザイン研修」～実践で学ぶ学校外の教育資源を生かした授業づくり～での講演

【静岡県総合教育センター】8月8日

泰井良：「静岡県の美術について」

【静岡東ロータリークラブ】8月23日

「静岡県立美術館における未来館者調査について」

【放送大学】9月26日

「静岡県立美術館の評価について」

【国立社会教育政策研究所】12月6日

福士雄也：「美のワンダーランド 十五人の京絵師」展シンポジウム「京絵師の魅力」

「対照的存在としての若冲と蕭白」

【九州国立博物館】7月29日

■講座等

小針由紀隆：「世界の文化遺産・全学年共通講義」

【静岡県立大学】11月28日

出張美術講座

【伊東市立門野中学校】1月8日

アートミュージアムラボ講師

【静岡県立美術館】3月7日

科学研究費補助金・研究報告会

【国立西洋美術館】5月25日

科学研究費補助金・研究報告会

【国立西洋美術館】3月22日

角田新：出張美術講座

【静岡市立大里東小学校】4月26日

三谷理華：出張美術講座

【静岡市立大里東小学校】4月25日

【浜松市立中郡中学校】1月23日

出張粘土教室

【御前崎市立白羽小学校】9月14日

伴野潤：出張美術講座

【静岡市立大里東小学校】4月25日、26日

【湖西市立鷺津中学校】6月7日

【エスパルスドリームプラザ】8月28日、29日（夏の工作体験）

【静岡市立長田東小学校】9月25日

【富士宮市立黒田小学校】10月11日

【日本航空高校 伊豆函南校】10月16日

【静岡県立浜松特別支援朝霧分校】11月26日

【静岡県立賀茂郡河津町立河津中学校】

1月17日

【静岡県牧之原市 学校組合町立牧之原中学校】1月22日

【浜松市立中郡中学校】1月23日

【湖西市立白須賀中学校】2月6日

【日本航空高校沼津校（通信制）】2月14日

【富士宮市立袖野中学校】2月15日

【県立気賀高等学校】3月8日

【県立遠江総合高等学校】3月19日

出張粘土教室

【袋井市立笠原小学校】6月1日

【湖西市立鷺津小学校】6月4日

【御前崎市立白羽小学校】6月7日、9月14日

こどもたちの文化芸術鑑賞事業事前説明会

【男女共同参画センター】9月5日、
【県浜松総合庁舎】9月6日
【県東部総合庁舎】9月7日
平成24「未来に残そう青い海・海上保安庁
図画コンクール」選考審査会
【清水港湾合同庁舎】10月3日
平成24年度ふじのくにゆうゆうnet「活動情
報交換会」
【静岡県総合教育センター（あすなろ）】
3月10日

川谷承子：「キャリア講座」
【藤枝西高等学校】9月24日

村上敬：出張美術講座
【富士宮市立柚野中】2月15日

泰井良：出張美術講座
【日本大学三島高等学校】1月21日
財団法人地域創造主催「アートミュージアムラボ」コーディネーター
【静岡県立美術館】3月6日～8日

石上充代：出張美術講座
【県立遠江総合高校】3月18日

福士雄也：出張美術講座
【静岡市立大里東小学校】4月25日
【藤枝市立葉梨中学校】1月15日
「美のワンダーランド 十五人の京絵師」
展シンポジウム「京絵師の魅力」
パネルディスカッション
【九州国立博物館】7月29日

大原由佳子：出張美術講座
【静岡市立大里東小学校】4月26日

■美術館友の会事業への協力

小針由紀隆：「西欧風景画のエッセンスを語る」（フロア
レクチャー）
【静岡県立美術館】11月23日

■静岡県博物館協会

当館は同協会の事務局を務め、協会加盟館の協力のもとに以下の事業を行った。

- 1 役員会・総会の開催 5月24日（県立美術館）
- 2 研修会・講習会の実施
 - (1) 第1回講習会「観光商品としての博物館・美術館」
日時：9月28日（金）13：30～16：30
会場：御殿場市富士山交流センター「富士山 樹空の森」
参加者数：69名
内容：実際に博物館・美術館をコースに含めたツアーを企画する旅行会社の方を講師にお招きし、旅行会社の視点からみた観光商品としての博物館・美術館の姿を知っていただいた。あわせて、富士山の世界遺産への登録が現実味を帯びてきた現在、旅行会社が予測している登録後の観光客の動向や、富士山周辺や静岡県内の博物館・美術館施設に期待するものについてもお話を聞かせていただく機会を設けた。
講師：池田幸二氏（近畿日本ツーリスト株式会社 地域誘客事業部 課長）
北垣俊明氏（奇石博物館 副館長）
石田眞吾氏（富士山樹空の森 企画統括）
 - (2) 第2回講習会 「美術館・博物館における高齢者向け事業の取り組みについて」
日時：12月19日（水） 13：30～16：30
会場：浜松市美術館
参加者数：22名
内容：今日の高齢社会において、来館者層の幅を広げる高齢者に対し、興味・関心を持って見学していくことも博物館の大切な役割と考えられる。しかしながら、そのような取り組みが行なわれている博物館・美術館は決して多くないのが現状である。そこで、回想法を柱とした北名古屋市歴史民俗資料館の取り組みについて学び、博物館と福祉の関わりについて考えていく機会とした。
講師：市橋芳則氏（北名古屋市歴史民俗資料館館長）
加藤則子氏（北名古屋市歴史民俗資料館職員）
 - (3) 第3回講習会 「美術とデザインの権利保護」
日時：2月8日（金） 13：30～16：00
会場：当館講座室
参加者数：20名
内容：近年、著作権という言葉はよく耳にするようになったが、美術・デザインに関する権利である著作、意匠について、またそれらを保護する制度や法律に関しては博物館や美術館に勤務する職員であっても詳細を熟知することは難しいのが現状である。そこで特許庁意匠審査官である谿季江氏に「美術とデザインの権利保護」についてご講演いただいた。

また、博物館が有する情報の保護とその蓄積された資料情報を今後どのように発信していくのか、新しいシステム運用方法とこれから発展の可能性について、(株)早稲田システム開発 代表取締役の内田剛史氏にご講演いただいた。

講師：谿季江（特許庁意匠審査官）

内田剛史（株）早稲田システム開発 代表取締役

3 地域セミナーの開催

- ・磐田市旧見付学校附磐田文庫

「昔の授業体験」

開催日：7月26日（木）、8月2日（木）、8月8日（水）

- ・浜松市立賀茂真淵記念館「賀茂真淵記念館夏季講座」
開催日：第1講座：7月4日（土）、11日（水）、第2講座：19日（木）、26日（木）、第3講座：27日（金）、8月3日（金）

- ・浜松市秋野不矩美術館「森の彫刻ワークショップ&森のオープンスタジオ」

開催日：森の彫刻ワークショップ 7月21日（土）、28日（土）、8月4日（土）、5日（日）

森のオープンスタジオ 7月22日（日）～8月19日（日）の内、20日間

- ・佐野美術館「三島蛍まつり×電気美術俱楽部」

開催日：6月9日（土）

4 講演会等の共催・後援

- ・「第10回 文化財を守る」

日程：10月20日

主催：財団法人伊豆屋伝八文化振興財団

5 静岡県博物館協会会報（No. 69、No. 70）の発行

6 静岡県博物館協会研究紀要 第36号の刊行

7 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営

8 東海地区博物館連絡協議会役員会及び総会の開催

日程：7月18日

場所：静岡県立美術館

9 広報及び情報交換

随時各館園の情報の交換を行い、連絡協調を図った。

10 事業推進グループによる事業の推進

- ・事業推進グループ会合 4回開催

7月25日（水）、9月28日（金）、12月19日（水）、平成25年1月8日（金）

11 静岡県文化財等救済ネットワークでの活動

- ・静岡県文化財等救済ネットワーク会議

8月6日（金）

- ・静岡県文化財等救済ネットワーク会議

11月1日（木）

〈その他〉

小針由紀隆：ふじのくに子ども芸術大学実行委員

静岡市美術館運営協議会委員

ふじのくに芸術祭2012美術展審査員

ふじのくに芸術祭2012企画委員

「富士山百画」選定委員

飯田真： 豊橋市美術博物館資料収集委員

静岡市文化財保護審議委員

新田建史： 陸前高田市立博物館資料安定化処理調査メンバー

静岡県文化財等救済ネットワーク会議メンバー

三谷理華： 美術史学会誌『美術史』査読委員

川谷承子： 財団法人地域創造主催「平成24年度アートミュージアムラボ」

事業体験プログラム「むすびじゅつ」企画、運営

村上敬： 国際高等研究所研究プロジェクト「アジア・デザイン・エンサイクロペディアの構築」
(研究代表者：藤田治彦) メンバー

泰井良： 財団法人地域創造 公立美術館活性化事業企画検討委員会委員

財団法人地域創造 市町村立美術館活性化事業「石元泰博展」監事

三重県立博物館戦略計画策定委員

東近江市博物館群使命・戦略策定委員

美術館ボランティア・広報センター

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の1985（昭和60）年から募集と研修を始め、1986（昭和61）年4月の開館と同時に活動を開始した。以来、美術館と観覧者との架け橋となるべく活動を続けている。2009（平成21）年には組織改革と再募集を行い、「静岡県立美術館年報平成21年度」p.82～84を参照）、2010（平成22）4月からは、新体制で活動を再スタートさせた。118名が登録し（平成22年4月1日現在）、次の基本方針のもと、6つのループに分かれて活動している。

■活動目的、方針

美術館ボランティアは、美術館の日々の活動を支え、来館者と美術館、地域と美術館を結ぶ架け橋として活動する。そのために、次の3つ活動方針を定めている。

- (1) 来館者サービス充実
- (2) 美術館運営支援
- (3) 地域連携推進

■活動内容、グループ

・全ボランティア共通の業務

当館ボランティアは、それぞれの地域、家庭、職場などで当館の情報を提供したり、宣伝することに務める。美術館の宣伝活動（口コミ）の一翼を担っていただくとともに、美術館と地域とを結びつける役割を果たす。のために、企画展ごとにその内容を知るためのボランティア研修を行っている。

・各グループの活動

(1) ご案内グループ

お客様のご案内や図書閲覧室の受付など、来館者対応が主な活動。繁忙期にはエントランスホールにて来館者を出迎え、場所（展示室、実技室、コインロッカーなど）の案内や、団体客の誘導、身障者補助などを行う。図書閲覧室では、利用者の請求に応じて閉架図書の出し入れを行う。

(2) 展示室グループ

A 学校班

学校等の団体観覧の際、館内誘導や展示室での子どもたちの話し相手などを行う。これまで、学校団体の観覧に対して館としては事前の数分程度の解説や注意事項の連絡を行うだけで、その後は、自由観覧してもらうことがほとんどであった。しかしそれでは子どもが飽きてしまうことが多いので、ボランティアが子どもたちと一緒に展示室をまわり、一緒に観覧することで、子どもた

ちの見る力を引き出す。

B ギャラリーツアー班

一般来館者向けに、ボランティアが展示室内において作品解説を行う。ただし一方的な解説形式は当館学芸員の行う様々な講座があるので、それとは異なり、ボランティアと来館者が会話することによって鑑賞を深めていく対話型の鑑賞形式を行う。

(3) タッチツアーグループ

目の不自由な方が彫刻を触って鑑賞するプログラム「タッチ・ツアー」のガイド役を行う。身障者対応や、彫刻鑑賞についての研修を積み、「タッチ・ツアー」の申込みがあった場合に、参集して活動する。

(4) 実技室グループ

実技室で行われる様々なイベントの補助を行う。実技室のイベントは、様々な工作のワークショップなど多種多様であり、その画材や材料などの準備と片付けや、イベント終了後の清掃作業等、労務が多い。人手があると業務がはかどるため、ボランティアのマンパワーがたいへん有益となっている。

(5) 資料整理グループ

美術にまつわる資料整理に関する活動を行う。当館には、全国の美術館、博物館などからポスター、チラシなどが多数寄せられる。また作家からも個展のダイレクトメールが送られてくる。それらは貴重な美術情報であるので、整理、掲示、閲覧し、一般来館者へ情報提供を行う。また終了後のものについても分類、保管し、将来的にはデータベース化を行うことにより貴重なアーカイブを形成することも目指している。この活動も人手のいる作業なので、ボランティアが活躍している。

(6) 地域連携・草薙ツアーグループ

“地域と美術館を結ぶ”ことを目的として、様々な活動を自ら企画立案、実施する。美術館周辺地域散策「草薙のんびりツアー」や、美術館前庭にある「杉山彦三郎記念茶畠」の手入れの補助を行う。またその茶葉を活用して、「お茶摘み」イベントや、来館者への呈茶サービスなども行う。

■規約、ルールなど

館が定めた「設置要綱」「活動要綱」「活動基本ルール」に基づいて、活動している。報酬、旅費などの支給はない。ただしボランティア保険は館がかけている。ボラン

ティアの自己研修と広報活動のために、展覧会は無料で観覧することができる。また企画展ごとにボランティア対象の内覧会を行っている。

■組織

グループごとに担当職員を割り当て、職員がボランティアを監督、協働しつつ活動している。ボランティア自身による自主的な組織化は、今のところ行っていない。よってボランティア会長や代表などは現在、存在しない。

■活動頻度

基本的に一人が月2回以上活動することになっており(応募基準)、実際はグループごとに頻度や時間を定めている。

■募集、登録、活動期間

美術館は、より多くの方が美術館ボランティアに参加できるようにするために、原則として3年ごとに美術館ボランティアの募集を行う。ただし、美術館ボランティア募集に係る人数、期間、活動内容、資格その他の基準は、そのつど美術館が定め、募集要項に記載する。

- ・現在の活動期間：平成22年4月1日～平成25年3月31日

■再募集

・概要

平成24年度はボランティア任期満了の年に当たっており、次期3年間(平成25～27年度)の活動に向けて再募集と研修を行った。

ボランティア組織リニューアル後、初の再募集であり、現在の活動の定着と安定的な継続のため、活動内容・参加条件等の大幅な見直しは行わなかったが、活動の便宜を図るために下記2点について変更することとした。

(1) グループ兼任不可

→ご案内グループのみ他グループとの兼任可

(2) 自家用車による来館の原則禁止

→一般駐車場利用可(ただし美術館繁忙期を除く)

募集の詳細は後掲募集要項を参照のこと。なお、活動中の既存ボランティアも再応募は可能としている。

118名の方にご応募いただき、面接、研修等を経て109名の方が本登録に到った。

・スケジュール

11月～ 募集要項配布、応募受付開始

11月24日、12月11日 募集説明会開催

12月20日 応募最終締切

1月8日～13日 面接選考

2月2日、5日 共通研修1回目

- ・県立美術館より挨拶

- ・オリエンテーション

- ・講義「静岡県立美術館の概要」

- ・講義「文化財の保存と管理の工夫」

2月11日 共通研修2回目

- ・講演「社会におけるボランティアの役割と意義」

講師：清水将一氏(静岡福祉大学 福祉心理学科 教授)

- ・講義・実習「接遇の基礎」

講師：酒井美保氏(コーチングアカデミー静岡校 校長)

- ・講義「ロダン館について」

2月16日、18日 共通研修3回目

- ・講義「展覧会ができるまで」

- ・講義「教育普及活動について」

3月14日、16日 共通研修4回目

- ・実習「館内施設見学」「プロムナード等周辺見学」

- ・講義「ボランティア活動の基本事項とルール」

3月～ グループ別研修

3月下旬 本登録

4月1日 活動開始

静岡県立美術館の ボランティアを募集します	
<p>お問い合わせ窓口は下記です。平成20年1月から活動していただけるボランティアの方にご参考願います。</p> <p>静岡県立美術館ボランティア担当課(美術館サービス課、美術館企画室、美術館運営課)の担当者とし、主として、美術館の内外の運営業務、施設運営、施設内設備整備の取扱いとして、下記の二つグループに分類されました。また他の業務や職場に就いて、施設運営を助けていただける内容やサポート、ボランティア活動もお受けいただけます。</p>	
<p>■ 活動の種類と内容</p>	
① 県内グループ	エントラント(その他の業務の企画や実施業務の担当など、各委員会における活動実行)、 ◆運営人会 ◆運営人会、運営会議 ◆運営人会、運営会議 ・人との接する仕事の運営から ・施設運営が得意な方
	施設運営での巡回活動に携わる活動です。実施地はチャリリーフアート館のまつりや市、美術館であります。
	学校館、美術館での巡回展覧会の際、巡回講師の巡回室での子供たちの話し相手などをしていただきを予定です。 ◆運営人会 ◆運営人会、運営会議 ◆運営人会、運営会議 ・子供との接する仕事や英語などの言語が得意な方 ・自己紹介などにより、働くことに対する想いでしてくる方
	キャラリーフアート館、美絵館にて巡回講師コラボーションの魅力を発信します。巡回講師は来館者への親切心を生き出し、巡回する事の面白さを引き出し、聞き手の気持ちを尊重します。 ◆運営人会 ◆運営人会、運営会議 ◆運営人会、運営会議 ・人との接する仕事の運営から ・施設運営が得意な方
③ チャチャアーツグループ	日々自否自認のためめ、専門知識で構成するプログラム「チャチャアーツ」の運営助手です。 ◆運営人会 ◆巡回講師 ・手紙の上など不思議(回数無制限)日程相談あります) ◆運営人会、運営会議 ・人との接する仕事の運営から ・施設運営が得意な方
	実施室で行われる稽古をガイドとして運営するプログラム「チャチャアーツ」の運営助手です。 ◆運営人会 ◆巡回講師 ・手紙の上など不思議(回数無制限)日程相談あります) ◆運営人会、運営会議 ・人との接する仕事の運営から ・施設運営が得意な方
④ 実施室グループ	実施室で行われる稽古をガイドとして運営するプログラム「チャチャアーツ」の運営助手です。 ◆運営人会 ◆巡回講師 ・手紙の上など不思議(回数無制限)日程相談あります) ◆運営人会、運営会議 ・人との接する仕事の運営から ・施設運営が得意な方



	<p>基準に沿つた各種製剤に、電子を注目です。GMP製造とデータ化、ECスケーリング、監査対応等がおこなわれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新規人手 15名程度 ◆既存人手、各種など ◆パソコンの操作練習や研修会等 (エクセル、ワード等) ◆施設設備費が発生する
① 製剤開発グループ	<p>"技術と営業機能を統合" ことを目的にして、業務統合専門組織(「新規のめりひりー」)や、医薬品・医療機器を複数分野にハイブリットの生産・運営、新規開拓のための組織と作り上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新規人手 15名程度 ◆既存人手、各種など ◆設備投資費 ◆新規の営業拠点 ◆既存の営業拠点と他部門連携活動会場名方
② 営業開拓・市場 フォースグループ	<p>新規拠点への開拓(アーバン・リージョナル開拓)をはじめ、既存内・外ルートによる新規開拓(新規のめりひりー)を実現します。既存内ルートによる新規開拓は、既存内ルートによる新規開拓の約8割を占めます。既存内ルートによる新規開拓の約2割を占める新規開拓は、既存内ルートによる新規開拓の約2割を占めます。</p>
	<p>■ 基準実現率ホリゾンティア 営業説明会を開催します！</p> <p>日 時：平成28年4月17日(木曜日)、18日(金曜日)、19日(土曜日)～20日(日曜日)午前9時～午後5時 場 所：新工場開業記念館 (渋谷) 各グループの新規開拓担当者と既存開拓担当者らがお集まります。新規開拓担当の方、新規を育むべく貢献してくださる方などいろいろな方々、既存の方の懇親会を利用してご参加ください。 会員登録料: 100円、新規登録料: 100円</p>
	<p>【会員登録】 営業開拓担当者登録 平日登録 ホリゾンティア登録 〒142-0032 渋谷区西原町2-2 TEL.034-282-5862 FAX.034-282-5112</p>
■ 会員登録	<p>新規開拓担当者の確認と会員登録 新規開拓担当者がラップドア登録時に実施する「実績登録サービス実施、新規開拓支援、地域連携推進等」に よって、新規開拓担当者の登録を完了します。 平成28年4月17日(木曜)～19日(土曜)にかけて実施される研修(「会員登録」)は登録登録される方 登録してから登録登録して登録される方の ラップドア登録した担当者を登録する方(「タグレーパー登録登録」) 登録がタグレーパー登録する場合は登録されません。</p>
■ 会員登録について	<p>会員登録、新規登録の登録登録を行なわぬ。 ホリゾンティア登録を登録登録しづらが、その新規登録以降登録登録が登録登録します。</p>
■ 会員登録までの流れ	<pre> graph LR A[会員登録] --> B[新規登録] B --> C[登録登録] C --> D[登録登録] D --> E[登録登録] E --> F[新規登録] F --> G[会員登録] </pre>
	<p>① 新規登録登録を行なう。新規登録登録を行う場合は登録登録。 ② 登録登録が登録登録で登録登録する場合は登録登録。</p>



新規 〒422-8032 静岡市駿河区谷田64-2 駿河原口第3ビル
郵便番号 平成24年12月15日(土) (初刷)

【活動時間】(13期)

新潟県立実業高等学校アドバイス用紙																
会員登録	性別	年齢	学年	学年												
姓 名	男	歳	年	月												
生年月日	西暦(西暦 年 月 日)	(例: 2001-01-01)	学年	学年												
性 别	男															
活動希望グループ(複数選択可)を記入して下さい。																
①運動として、新潟リーグへの参戦を目指す方。(1)新潟リーグ(新潟C)。																
<table border="1"> <tr> <td>②新潟リーグ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③新潟県リーグ</td> <td>学生用 キッズリーグ用</td> </tr> <tr> <td>④サッカーリーグ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤新潟県グループ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥新潟市連フットボール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦新潟県連サッカーリーグ</td> <td></td> </tr> </table>					②新潟リーグ		③新潟県リーグ	学生用 キッズリーグ用	④サッカーリーグ		⑤新潟県グループ		⑥新潟市連フットボール		⑦新潟県連サッカーリーグ	
②新潟リーグ																
③新潟県リーグ	学生用 キッズリーグ用															
④サッカーリーグ																
⑤新潟県グループ																
⑥新潟市連フットボール																
⑦新潟県連サッカーリーグ																
活動しない場合は「□」をつけてください。																
日 本 本 土 日																
新潟県ガラントリーグとして活動したい理由や特徴などお書き下さい。お書き下さい。																
新潟県立実業高等学校アドバイス用紙に活動しての意願を記入して下さい。																

■広報センター

平成13年度に発足した広報センターは、平成18年度から「地域センター」と改称し活動を行ってきたが、平成21年度にボランティアの組織改革が行われたことに伴い、センター制度についても見直しを行った。その結果、従来の「地域センター」を平成21年度末に一旦解散し、「口コミによる広報活動」をセンターの主たる役割と位置づけ、平成22年度から名称を「広報センター」とし、新たに募集を行った。(平成24年度末時点「広報センター」登録者数98名)

広報センターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター、チラシ、割引券及び当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

また、同センターは、広報活動のため、いち早く展覧会内容を知りたいいただくことを目的に、当館ボランティア向けに行っている展覧会内覧会に参加できることとしている。

なお、実際の活動状況を把握するため、年に一度「活動アンケート」の提出を義務付けている。

(1) 「広報センター」に登録すると

- ・展覧会ポスター・チラシ、イベント情報等が随時送られてくる
- ・展覧会のボランティア・プレビューに参加できる
- ・広報センター証の発行を受ける

(2) 「広報センター」の活動内容

- ・展覧会やイベントの情報をポスター、チラシ、口コミ等で地域や職場に広める
- ・年に一度、活動内容をアンケートの形で報告する

友の会活動

■諸会議

(1) 理事会

平成24年5月12日(土) 静岡県立美術館 会議室
・役員選任等について
・規約の改正について
・平成23年度事業報告、決算報告
・平成24年度事業計画、予算案

(2) 評議員会

平成24年5月12日(土) 静岡県立中央図書館 会議室
(中集会室)
・役員選任等について
・規約の改正について
・平成23年度事業報告、決算報告
・平成24年度事業計画、予算案

(3) 事業委員会

静岡県立美術館 会議室 12回開催

(4) 会報委員会

静岡県立美術館 会議室 22回開催

■実技講座

(1) 実技講座「小さな小さな温もりを彫りましょう」

平成24年6月30日(土)、7月7日(土) 2日間

静岡県立美術館 実技室

講師 松本昭男氏(静岡県立美術館友の会 事務局長)

参加人数 6月30日 16名／7月7日 15名

(2) 実技講座「駿河型染め」

平成24年11月25日(日)、12月2日(日) 2日間

静岡県立美術館 実技室

講師 大橋俊之氏(染色家 和染め「城北工房」)

参加人数 12名

■講演会等の開催

(1) 「西欧の風景画」のエッセンスを語る

平成24年11月23日(金)

講師 小針由紀隆氏(県立美術館学芸課 部長)

参加人数 19名

■親睦旅行

(1) 「越後妻有アートトリエンナーレ2012」1泊2日旅行

平成24年9月14日(金)～15日(土)

参加人数 19名

(2) 「ミホミュージアム・湖東三山・黒壁スクエアへ…」

1泊2日旅行

平成24年10月30日(火)～31日(水)

最低催行人数に達しない為中止

■友の会美術館支援事業

(1) 各種実技支援事業

■情報資料の作成と提供

(1) 友の会だより「プロムナード」発行(各1000部)

- ・第77号(4月15日発行)アトリエ訪問 切り絵作家・福井利佐氏
- ・第78号(7月15日発行)アトリエ訪問 画家・松永秀太郎氏
- ・第79号(12月15日発行)アトリエ訪問 現代美術家・持塚三樹氏

(2) 情報の提供

- ①美術館ニュース「アマリリス」郵送(年4回)
- ②各種催事の情報提供
- ③美術館内掲示板の有効活用
 - ・入会勧誘ポスター掲示や入会申込用紙設置
 - ・講座や旅行の実施前後に、募集要項・参加者のスナップ写真・作品などを掲示、PR
- ・友の会だより「プロムナード」の掲示

■その他の事業

(1) 会員勧誘キャンペーン

「ユベール・ロベール」

8月18日、19日 2日間実施

新規入会会員 一般:1 特別:2(計3名)

「インカ帝国展」

12月1日、15日、1月12日、13日 4日間実施

新規入会会員 一般:42 特別:3 シニア:13

学生:2(計60名)

■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年 5月25日
改正 平成14年 6月16日
改正 平成20年 2月27日
改正 平成24年 2月28日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という。)と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館に置く。

(目的)

第3条 本会は、以下を目的として活動する。

- (1) 静岡県立美術館が実施する各種事業への参加を通じて芸術・文化に親しみ、理解を深めながら生活の質を高める。
- (2) 本会が実施する各種事業への参加を通じて会員相互の理解と親睦を深め、地域の芸術・文化振興に貢献する。
- (3) 静岡県立美術館が実施する各種事業において地域社会との架け橋の役割を担い、地域をパートナーとする経営を標榜する県立美術館との協働を行う。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を実施する。

- (1) 展覧会鑑賞プログラム
- (2) 各種講演会・講座・見学会・コンサート・映画会等の開催・後援
- (3) 会員への各種情報提供
- (4) 会員相互交流のためのプログラム
- (5) 静岡県立美術館との事業協働
- (6) 地域住民・団体等との情報交換・事業協働等
- (7) その他必要な事業

(財務)

第5条 本会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。

- (1) 会費
- (2) 事業に伴う収入
- (3) その他の収入

(会員の種類及び特典)

第6条 本会の会員は、特別会員、一般会員、学生会員・シニア会員、及び賛助会員とする。

- (1) 70歳以上の会員は、特別会員、一般会員のほか、シニア会員を選択することができる。

(2) 学生(高校生・専門学校生・大学生)は、学生会員とする。

(4) 会員資格の有効期限における会員種別の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第7条 会員とは、本会の目的に賛同し、所定の入会手続きを行って会費を納入した者をいう。

2 会員資格の有効期限は1年間とする。ただし、会員から退会の申し出が無い限り更に1年間延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第8条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は、理由の如何を問わず返還しないものとする。

2 各種講座、見学会等に際しては、参加者は必要に応じて別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第9条 会員は、住所、氏名、電話番号、会費引き落とし用口座等の届出事項に変更があった場合は、速やかに事務局に報告し、所定の手続きを行うこととする。

(会員証)

第10条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

2 会員は、会員証を第三者に譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第11条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、速やかに事務局にとどけるものとする。

2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第12条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

2 前項の規定により退会する場合は、会員資格有効期限の2ヶ月前までに事務局へ申し出ることとする。

(事業年度)

第13条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第14条 本会の事業計画及び収支予算は、会長が作成し、その事業年度の開始前に理事会の承認を得なけ

- ればならない。
- 2 会長は、前項の事業計画又は収支計画を変更しようとするときは、理事会の承認を得なければならない。
ただし、軽微な変更については、この限りではない。
(事業報告及び収支決算)
- 第15条 本会の事業報告、収支決算は、会長が作成し、監事の監査を経て、その事業年度終了後2ヶ月以内に理事会の承認を得なければならない。
- (役員)
- 第16条 本会に、次の役員を置く。
- (1) 会長 1人
 - (2) 副会長 1人
 - (3) 理事(会長及び副会長を含む) 10人以内
 - (4) 評議員 15人以内
 - (5) 監事 2人
- 2 理事及び監事は、評議員会において選任する。
- 3 会長及び副会長は、理事の互選により定める。
- 4 評議員は、理事会において選任する。
- 5 理事、評議員及び監事は、相互に兼ねることができない。
- (役員の職務)
- 第17条 会長は、本会を代表し、事業を統括する。
- 2 副会長は、会長を補佐して事業を掌理し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。
- 3 理事は、理事会を構成し、事業の執行を行う。
- 4 評議員は、評議員会を構成する。
- 5 監事は、本会の事業及び会計を監査する。
- (役員の任期)
- 第18条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- (専門委員会)
- 第19条 必要に応じ、本会の事業に関する具体的な企画等の検討を目的とした専門委員会を置く。
- 2 専門委員会は、理事及び会員によって構成される。
(事務局)
- 第20条 本会に事務局を置く。
- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
- 3 事務局長は、理事の中から会長が任免する。
- 4 事務局に事務職員を置く。
- (顧問)
- 第21条 本会に顧問を置くことができる。
- 2 顧問は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の事業について助言を行うとともに、理事会に出席して意見を述べることができる。
- 4 顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- (会議)
- 第22条 本会の会議は、理事会及び評議員会とする。
- 第23条 理事会は、会長、副会長その他の理事をもって構成する。
- 2 評議員会は、評議員をもって構成する。
- (会議の権能)
- 第24条 理事会は、この会則に別に定めるものほか、本会の運営に関する重要事項を議決する。
- 2 評議員会は、この会則に別に定めるものほか、会長の諮問に応じて必要な事項を審議するとともに、必要に応じて本会に関する重要事項に関し、会長に建議することができる。
- 3 理事会において第14条、第15条、第32条及び第33条に規定する事項を議決する場合には、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。
- (会議の開催)
- 第25条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。
- (1) 会長が必要と認めたとき。
 - (2) 理事の4分の1以上または、監事から開催の請求があったとき。
- 2 評議員会は、次に掲げる場合に開催する。
- (1) 会長が必要と認めたとき。
 - (2) 評議員の4分の1以上から開催の請求があったとき。
- (会議の定足数)
- 第26条 会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開会することができない。
- (会議の議長)
- 第27条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。
- 2 評議員会の議長は、その評議員会において出席した評議員のうちから選任する。
- (会議の議決)
- 第28条 会議の議決は、会議に出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- (書面の決議等)
- 第29条 会議に出席できない理事、または評議員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決することができる。この場合において、前2条及び次条第1項第3号規定の適用については、出席した者とみなす。
- 第30条 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 会議の日時及び場所
 - (2) 構成員の現在数
 - (3) 会議に出席した理事または評議員氏名
 - (4) 議決事項
 - (5) 議決の経過の概要及びその結果
 - (6) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長のほか、会議に出席した構成員のうちから、当該会議において選任された議事録署名人2人以上が署名押印しなければならない。

(賛助会員)

第31条 この会の目的に賛同するものは、賛助会員になることができる。

- 2 賛助会費その他賛助会員について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

(会則の変更)

第32条 この会の会則は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得なければ、変更することができない。

(解散)

第33条 この会は、理事会において理事の4分の3以上

別表1 (第6条第2項関係) 会員の特典

特典の種類	会員の種類	一般会員	シニア会員	特別会員	学生会員
1 県立美術館主催の企画展招待券		5枚	5枚	5枚	2枚
2 会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> (同伴4名まで)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> (同伴4名まで)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 友の会だより「プロムナード」(年3回)、美術館ニュース「アマリリス」(年3回)、その他、各種情報を郵送	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 研修旅行(美術館巡り)、各種講座等友の会主催の事業に参加可能	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> (同伴1名まで)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 会員証提示により、県立美術館内レストラン「エスタ」の飲料料金が会員本人のみ1割引	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 会員証提示により、県立美術館内のブックショップの利用補助	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8 県立美術館主催の企画展オープニングセレモニーご招待				<input type="radio"/> (同伴1名まで)	

(注) ○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第8条関係) 年会費

会員区分	年会費
一般会員	(1名) 5,000円
シニア会員(70才以上)	(1名) 2,500円
学生(高校生・専門学校生・大学生)	(1名) 1,000円
特別会員	(1口) 10,000円
賛助会員	申し出のあった額

【重点目標1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます

広報活動（ホームページ）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、マスコミなどを通じ、広く館活動の広報を行っているが、近年では類似施設の増加、広報手段の多様化に伴い、入館者増加のために新たな広報展開が必要になってきている。

ここでは、紙媒体を中心とした広報活動とともに、ホームページの運営について記載する。

■広報活動

- ・展覧会等のイベント情報のマスコミへの資料提供
- ・ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ・学校に対する学校関係イベント情報の提供
- ・県広報課との連携（県民だより、県政番組など）
- ・ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hi、K-mix）
- ・広報サポーターへの情報提供
（展覧会ごとに、ポスター・チラシを送付、口コミでの広報を依頼）
- ・展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）、協賛社（JR東海）との連携
- ・広告掲載・テレビスポット放映、特集紙面、番組への協力など

■ホームページ

<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

静岡県立美術館ホームページは、平成8年度末に開設され、今年度で16年目を迎えた。年度別のアクセス概数は以下のとおりである。

平成8年度末～9年度（1997）	6,000		
平成10年度（1998）	12,000	累計	18,000
平成11年度（1999）	21,000	累計	39,000
平成12年度（2000）	40,000	累計	79,000
平成13年度（2001）	70,200	累計	149,200
平成14年度（2002）	87,300	累計	236,500
平成15年度（2003）	85,000	累計	321,500
平成16年度（2004）	98,000	累計	419,500
平成17年度（2005）	103,500	累計	523,000
平成18年度（2006）	155,400	累計	678,400
平成19年度（2007）	164,500	累計	842,900
平成20年度（2008）	164,000	累計	1,006,900
平成21年度（2009）	147,225	累計	1,154,125
平成22年度（2010）	353,500	累計	1,507,625
平成23年度（2011）	419,000	累計	1,926,625
平成24年度（2012）	370,660	累計	2,297,285

アクセス数はインターネットの普及に伴い年々増加してきたが、平成22年度に入って一気に前年度比2倍の伸び

を見せた。24年度は前年度に比べて若干減少しているが、高めの数値で安定しているといつてよいと思われる。情報発信のツールとしてホームページがより一層その重要度を増してきていることは明らかで、今後も引き続き、魅力あるページ作りが必須である。

コンテンツの充実を図ることにより、魅力あるホームページを提供するよう運営に努めており、平成19年度から21年の間の3年間に、順次大幅リニューアルを行った。平成19年度には表紙およびトップページのデザイン、平成20年度にはロダン館コーナー、平成21年度にはコレクション紹介コーナーをリニューアルした。

平成22年度末には、新たにブログを開設した。来館者と美術館とをつなぐ新たなコミュニケーションツールとして、有効に活用されている。特にワークショップ、講演会などの教育普及活動に関する情報をタイムリーに案内するよう努めているほか、混雑が予想されるイベント（絵の具開放日・粘土開放日など）の受付状況を逐次掲載するなど、きめ細やかな情報提供を心がけている。23年度にはコレクションのページに作家名インデックスから全所蔵作品が検索できるコーナーを加え、収蔵品の情報提供サービスの充実を図った。

以前より行っているアンケートについては以下のとおり継続実施した。

・ホームページアンケート

ホームページ改善の資料とするため、Web上でのアンケートを実施、聴取内容は以下のとおりでメールで回答できる形にした。

1. 当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか
2. 当ホームページの情報内容について
3. 当ホームページの更新頻度について
4. 当ホームページのデザインについて
5. 当ホームページの見やすさについて
6. その他、当ホームページに対するご意見、ご要望

各項目、概ね満足度は高いが、字の大きさやデザインなど改善の参考になる意見も寄せられた。

なお、回答者の中からほぼ2ヶ月毎に抽選で5名の方に次回企画展の招待券をプレゼントした。

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4判8ページ、オールカラー

第105(春)号 2012年4月2日発行

- p. 1 表紙 犬野永岳『富士三保松原図』／福士雄也
p. 2-3 平成23年度新収蔵品・寄贈作品の紹介／福士雄也、泰井良、川谷承子
p. 4 もっと！もっと！ロダン館／内田稔子
p. 5 静岡県立美術館収蔵名作選 カラーリミックスー若冲も現代アートもー／川谷承子
p. 6-7 研究ノート 二つの来館者参加型ワークショッピングについて／堀切正人
p. 7 本の窓 『酒井抱一と江戸琳派の全貌』／飯田真
p. 8 美術館問わず語り 京都国立博物館での研修生活／福士雄也

第106(夏)号 2012年7月2日発行

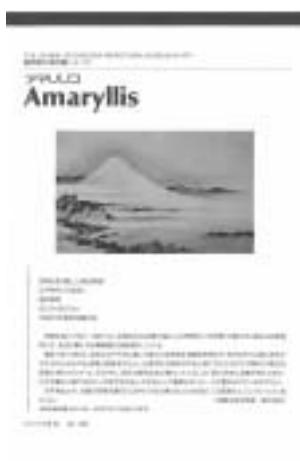
- p. 1 表紙 ガスパール・デュゲ『サビーニの山羊飼い』／南美幸
p. 2 実技室だより ドット若冲、ほか／伴野潤
p. 3 ワークショッピングレポート「絵から音楽をつくろう！」／川谷承子
p. 4 日本油彩画200年－西欧への挑戦～黒田清輝、佐伯祐三、岸田劉生が求めた日本の絵画～／泰井良
p. 5 ユベール・ロベール展／小針由紀隆
p. 6-7 研究ノート 京都国立博物館蔵『柳橋水車図屏風』について／大原由佳子
p. 7 本の窓 朽木ゆり子著『ハウス・オブ・ヤマナカ 東洋の至宝を欧米に売った美術商』／三谷理華
p. 8 ロダン館、ブリッジ・ギャラリー休館のお知らせ／中村美穂

第107(秋)号 2012年10月1日発行

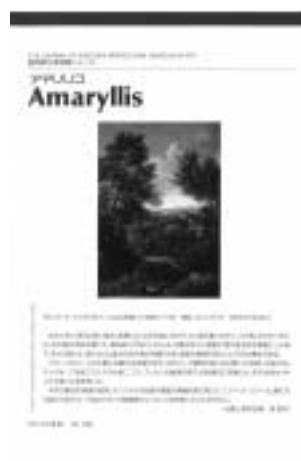
- p. 1 表紙 オーギュスト・ロダン『女のケンタウロスのトルソと絶望する若者』『女のケンタウロスのトルソと女のトルソ』『女のケンタウロスのトルソとイリスのためのトルソ』／南美幸
p. 2-3 実技室だより「夏休み子どもワークショップ2012～ボックスアート、ほか／伴野潤
p. 4 「江戸絵画の楽園」展－秘蔵の若冲、北斎、華山一擧公開－／福士雄也
p. 5 マチュピチュ「発見」100年 インカ帝国展／新田建史
p. 6-7 研究ノート 前田守一『遠近のものさし』に至る人的交流とその作品への影響／川谷承子
p. 7 本の窓 早坂暁著『華日記－昭和生け花戦国史』／村上敬
p. 8 美術館問わず語り／角田新

第108(冬)号 2013年1月2日発行

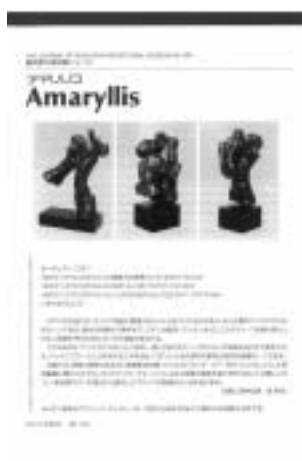
- p. 1 表紙 吉田博『上高地の春』／角田新
p. 2 県立美術館の評価 10年目を迎えて／泰井良
p. 3 実技室だより／伴野潤
p. 4 移動美術館報告／三谷理華
p. 5 「維新の洋画家 川村清雄」展／村上敬
p. 6-7 研究ノート 菅井汲の求めた表現とその変遷について／角田新
p. 7 本の窓 東京工業大学 塚本吉晴研究室編『Window Scape 窓のふるまい学』／石上充代
p. 8 美術館問わず語り 活弁と音声ガイドの話／村上敬



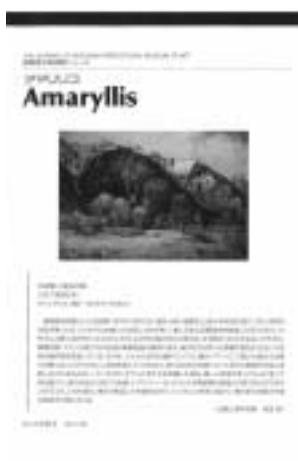
第105(春)号



第106(夏)号



第107(秋)号



第108(冬)号

新たな広報チャネルの開拓

企画展に応じて新たな広報活動を行った。「日本油彩画200年」展においては、静岡大学人文学部客員教授平野雅彦氏と同学部大学生との共同企画を実施。大学生によるギャラリー・トーク、会期中のイベント告知等をするブログの発信、フライヤーの配布を行った。「インカ帝国展」では、静鉄グループと県立美術館の連携強化策として静鉄フリーチケットとインカ展のセット券を販売した。「川村清雄」展においては、作品を印刷したブックカバーとしおりを作成し、静岡市内の書店を通じ、書籍購入者に配布してもらった。

また、「ふじのくにしづおか観光大商談会 in 名古屋」に、日本平ホテル、日本平ロープウェー（久能山東照宮）とチームを組んで参加。3施設を結んだ観光ルートの周知に努めた。

【重点目標3】ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします

ロダン館展示・イベント

■やぐらプロジェクト

《地獄の門》の前に高さ約3mの展望台を設置し、作品の上部を接近して鑑賞できる機会を、昨年度に引き続き設けた。期間中、学芸員によるフロア・レクチャーを複数回実施した。

会期：8月7日（火）～9月23日（日）
フロアレクチャー：8月12日（日）、25日（土）、
9月22日（土）

■ロダン館再始動記念コンサート

半年間にわたってメンテナンス休館を行ったロダン館の再開を周知するため、またロダン館普及事業としてコンサートを行った。

「ロダンが生きた時代のアートな音楽たち」

日時：3月31日（日）11:00～／14:00～
演奏者：市川善忠、佐藤愛也、西川奈穂、榑林朋香
(NPO法人 音楽の架け橋メセナ静岡)
参加者：316名



▲再始動記念コンサートチラシ（表裏）

【運営基本方針D】常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

【重点目標1】館内施設を充実させ、満足度を高めます

施設利用状況（年度別）

年度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数	
61	93,918	8,005	10,000			
62	95,635	9,911	10,000			
63	112,528	10,346	14,714			
元	98,806	12,474	11,937			
2	101,477	11,432	8,274			
3	91,342	13,755	8,545			
4	109,287	14,442	9,499			
5	95,903	10,927	9,308			
6	108,004	12,060	9,159			
7	73,254	10,717	7,015			
8	109,076	9,487	8,621			
9	87,436	10,615	6,486	4,257		
10	69,099	10,314	6,537	25,624	132	
11	67,159	11,601	6,192	16,773	154	
12	69,553	10,169	5,520	12,619	235	
13	76,882	10,205	5,033	11,210	361	
14	69,974	10,985	4,782	9,659	306	
15	80,499	25,927	4,627	7,544	345	
16	69,209	8,852	4,377	5,970	299	
17	69,357	11,762	4,700	4,904	289	
18	81,657	10,700	5,090	8,891	499	
19	70,217	8,199	5,580	5,253	365	
20	75,238	11,804	5,070	6,189	319	
21	37,253	5,155	3,716	3,677	183	
22	58,211	7,275	3,902	4,504	344	
23	53,147	10,535	2,444	3,033	238	
24	43,157	9,475	1,916	1,689	182	
計	2,167,278	297,129	183,044	131,796	4,251	
年 度 月 別 内 訳	4	2,935	480	151	209	8
	5	3,845	480	151	385	9
	6	3,165	650	151	158	6
	7	2,374	434	149	226	19
	8	1,956	585	233	482	8
	9	3,785	1,085	163	229	18
	10	1,129	727	124	0	19
	11	6,303	958	145	0	10
	12	3,645	1,260	139	0	18
	1	3,864	630	223	0	38
	2	5,093	891	131	0	10
	3	5,063	1,295	156	0	19

県民ギャラリー利用状況

No.	使用開始	使用終了	日数	区分	入場料	展覧会等の名称	主催者名	入場者数(人)
1	4/1(日)	4/1(日)	1	A B	無	12 現代書作家展しづおか	現代書作家展しづおか運営委員会	169
2	4/3(火)	4/8(日)	6	A B	無	第30回一基書展	一基会	1,035
3	4/11(水)	4/15(日)	5	A B	無	第9回アトリエ・ニケ 子ども造形・デザイン・絵画教室展覧会	大森 恵	1,006
4	4/24(火)	4/30(月)	7	B	無	第22回パソコンアート展示会	パソコンアート協会	725
5	5/2(木)	5/13(日)	11	A B	無	第39回二科会静岡県支部美術展	二科会静岡県支部	1,768
6	5/15(火)	5/27(日)	12	A B	無	第49回静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	2,077
7	6/12(火)	6/17(日)	6	A B	無	第24回静岡独立美術展	静岡独立美術協会	1,151
8	6/19(火)	6/24(日)	6	A	無	荻生昌平水彩画展	荻生昌平	582
9	6/19(火)	6/24(日)	6	B	無	松山英雄日本画展	松山英雄	642
10	6/26(火)	7/8(日)	12	A B	無	第40回静岡県油彩美術家協会展	静岡県油彩美術家協会	1,948
11	7/11(水)	7/22(日)	11	A B	無	第77回静岡県版画協会展	静岡県版画協会	1,216
12	8/7(火)	8/12(日)	6	A B	無	静岡県写真愛好家秀作展	静岡県写真愛好家秀作展実行委員会	1,151
13	8/21(火)	8/26(日)	6	B	無	ファミーユ写真展	桐林典代	498
14	8/28(火)	9/2(日)	6	A	無	庫流きものギャラリー 14	三輪民子	623
15	9/11(火)	9/17(月)	7	A B	無	第38回静岡県フレミッシュ織展と静岡製織公募展	静岡県フレミッシュ織教室	1,373
16	9/19(水)	9/23(日)	5	A B	無	第28回 千世の会書展	千世の会	851
17	9/25(火)	9/30(日)	6	A	無	能面&デジタルアート展	能面静岡研究会	622
18	9/25(火)	9/30(日)	6	A	無	第23回パソコンアート展示会	パソコンアート協会	623
19	10/10(水)	10/14(日)	5	A	無	静岡県のすごい産業遺産・輝く静岡の先人パネル展	静岡県文化・観光部	331
20	10/23(火)	10/28(日)	6	A	無	第57回 静岡形象派展	形象派美術協会静岡支部	459
21	10/30(火)	11/4(日)	6	A B	無	第30回 静岡県なつやすみ読書感想画コンクール	静岡新聞社・静岡放送	2,724
22	11/7(木)	11/11(日)	5	A B	無	第28回静岡県高等学校美術・工芸展 中部支部展	静岡県教育委員会・静岡県高文連	1,119
23	11/14(木)	11/18(日)	5	A B	無	第60回静岡県高等学校美術・工芸展	静岡県教育委員会・静岡県高文連	1,202
24	11/21(木)	12/2(日)	11	A B	無	第38回 静岡県工芸美術展	静岡県工芸家協会	2,014
25	12/4(火)	12/9(日)	6	A B	無	白日会静岡支部展	白日会静岡支部	1,603
26	12/12(火)	12/16(月)	5	A B	無	第35回 静岡県日本画展	静岡県日本画連盟	733
27	12/18(火)	12/24(月)	7	A B	無	ふじのくに芸術祭2012優秀作品展	静岡県文化・観光部	892
28	1/8(火)	1/14(月)	7	A	無	木組みの家具展	森下雅行	2,618
29	1/1(木)	1/20(日)	5	A B	無	常葉菊川高校卒業制作展	前島秀俊	1,246
30	2/5(火)	2/11(月)	7	A B	無	第34回 ジュニア県展	静岡県教育委員会、静岡新聞社・静岡放送	2,498
31	2/13(水)	2/17(日)	5	A B	無	第25回 静岡県特別支援学校高等部合同作品展	静岡県教育委員会、静岡県高等学校文化連盟	654
32	2/19(火)	3/3(日)	12	A B	無	秀景ふるさと富士写真展	静岡県文化・観光部 総務企画課	2,428
33	3/8(金)	3/17(日)	8	A B	無	第16回 静岡県すこやか長寿祭美術展	(財) しづおか健康長寿財団	1,912
34	3/19(火)	3/24(日)	6	A	無	第33回 山岳写真の会「白い峰」写真展	山岳写真の会「白い峰」静岡支部	1,641
35	3/26(火)	3/31(日)	6	A B	無	13 現代書作家展しづおか	現代書作家展しづおか運営委員会	1,023
計								43,157

【運営基本方針D】常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

【重点目標2】周辺環境やアクセスの利便を向上させます

来館者のアクセス満足度

24年度のアクセス環境の満足度に対するアンケート集計の結果は、自家用車利用者の中で満足と回答した方の比率は83.1%、公共交通機関利用者の中で満足と回答した方の比率は80.0%であった。過去5年間の状況を見ると、概ね2～3割の方が交通アクセスに満足していない、という結果になっている。

このことについて、まず自家用車利用者についての要因だが、敷地内に無料の駐車場があるものの収容台数が約400台と限られているために、週末などに来館者が集中してしまうと、近くの駐車場から順次満車になり駐車できるまでに時間がかかるという問題がある。このことがアクセスに満足できない要因になっていると思われる。来館者の多い企画展の土、日、休日には隣接する県立大学や県埋蔵文化財センターの職員駐車場を借用し、美術館来館者用に充てていきたい。

次に公共交通機関の利用者についてであるが、JRの最寄り駅である草薙駅、または静鉄の最寄り駅である県立美術館前駅から、なだらかな上り坂を上ることになるので、歩いて来館するのはかなりの運動量になり、このあたりがアクセスに満足してもらえない要因でないかと思われる。路線バスを利用してもらえば最寄り駅から所要時間3分～6分、運賃100円で美術館の入口近くまで乗って來るので、このことを電話等で照会があった際には今後も積極的にPRしていきたい。

また、美術館案内表示等周辺環境整備についても今後、検討を行っていきたい。

平成24年度主要記事

4月10日	収蔵品展「新収蔵品展」(～5月27日)	日)
14日	企画展「カラーリミックス」開幕(～5月27日)	第4回美術館研究活動評価委員会
	カラーリミックスフロアレクチャー(4月14日、15日、28日、29日、30日、5月3日、4日、5日、12日、13日、20日、26日、27日)	江戸絵画の樂園美術講座「樂園への招待－「かたち」と「中身」のあやしい関係－」福士雄也(当館主任学芸員)
15日	カラーリミックス展覧会レクチャー(4月15日、29日、5月5日)	江戸絵画の樂園フロアレクチャー(10月21日、22日、11月4日)
5月6日	カラーリミックス特別講演会「若冲V.S.現代美術」山下裕二氏(明治学院大学教授)	移動美術展(～11月4日:磐田市新造形創造館)
17日	第1回美術館研究活動評価委員会	江戸絵画の樂園特別講演会「江戸絵画のかたち」榎原悟氏(岡崎市美術博物館館長)
28日	展示室整備などのための休館(～6月8日)	王伝峰来日二十周年記念展「鮫魚」(～18日)
6月9日	企画展「日本油彩画200年－西欧への挑戦」開幕(～7月22日)	収蔵品展「西欧の風景画I」(～12月16日)
	収蔵品展「中国絵画と日本」(～7月22日)	企画展「インカ帝国展」開幕(～1月27日)
10日	日本油彩画200年フロアレクチャー(7月10日、15日)	インカ帝国展ムンド・デ・アレグリア学校生徒たちによる民族舞踊
20日	第2回美術館研究活動評価委員会	インカ帝国展特別講演会「DNAが語るインカ帝国への道」篠田謙一氏(国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長)、「石とインカ」網野徹哉氏(東京大学大学院総合文化研究科教授)
24日	日本油彩画200年美術講座「日本の油彩画～なぜ、日本人は油彩画を描いたのか～」泰井良(当館上席学芸員)	インカ帝国展瀬木貴将コンサート
7月1日	日本油彩画200年特別講演会「江戸の洋風画と明治の油彩画をつなぐもの」志賀秀孝氏(府中市美術館学芸係長)	収蔵品展「西欧の風景画II」(～2月3日)
8日	日本油彩画200年特別講演会「日本洋画のパイオニアたち 平賀源内から秋田蘭画、司馬江漢、高橋由一へ」芳賀徹(当館館長)	収蔵品展「富士山の絵画2013」(～3月31日)
23日	展示室整備などのための休館(～8月3日)	企画展「川村清雄」開幕(～3月27日)
8月4日	収蔵品展「親子で見て感じる現代アート」(～9月17日)	川村清雄フロアレクチャー(2月11日、17日、3月9日、10日、16日)
9日	企画展「ユベール・ロベール」開幕(～9月30日)	川村清雄特別講演会「素顔の川村清雄」丹尾安典氏(早稲田大学教授)
19日	ユベール・ロベール特別講演会「ヴァトーからロベールへ<雅なる宴>から<崇高なる美へ>」大野芳材氏(青山学院女子短期大学教授)	第5回美術館研究活動評価委員会
26日	ユベール・ロベール美術講座「ルーヴルの画家、ユベール・ロベール」三谷理華(当館上席学芸員)	川村清雄美術講座「川村清雄とその時代」村上敬(当館上席学芸員)
9月9日	ユベール・ロベール美術講座「ユベール・ロベールとイタリア」小針由紀隆(当館学芸部長)	ロダン館再始動
12日	移動美術展(～29日:富士宮市民文化会館)	ロダン館コンサート「ロダンが生きた時代のアートな音楽たち」
13日	第3回美術館研究活動評価委員会	創作週間(通算58日)
19日	収蔵品展「無限の芸術李禹煥の世界」(～11月4日)	ロダン館デッサン会(通算12日)
22日	ユベール・ロベールフロアレクチャー	粘土開放日(通算12日、36回)
10月1日	ロダン館休館(～3月30日)	絵の具開放日(通算8日、16回)
7日	企画展「江戸絵画の樂園」開幕(～11月18日)	工作アトリエ(通算4日、5回)
		色彩アトリエ(通算2日)
		色彩アトリエスペシャル(通算12日)
		ちょこっと体験(通算28日)
		技法セミナー(通算2日)
		実技入門講座(通算5講座、9日)
		実技講座(通算7日)
		ギャラリーツアー(一般向け32回、学校向け33回)
通年		

カラーリミックス 一若冲も現代アートも

No.	作者名／生没年	作品名	制作年（元号）	材質・形状	寸法（cm） 平面：タテ×ヨコ 立体：高さ×幅×奥行き
第一章 色の饗宴					
1	草間彌生 1929-（昭和4-）	水上の蛍	2000（平成12）	鏡、金属、電球、木、アクリル板、水	442.4×442.4×320.0
2	ポール・シニャック 1863-1935	サン＝トロペ、グリモーの古城	1899	キャンバス、油彩	73.0×91.7
3	ワシリー・カンディンスキー 1866-1944	《冷たいかたちのある即興》のための習作	1914頃	紙、水彩、グワッシュ、鉛筆	33.0×24.0
4	池大雅 1723-1776(享保8-安永5)	龍山勝会・蘭亭曲水図屏風 <重要文化財>	1763（宝暦13）	紙本着色	各158.0×358.0
5	椿椿山 1801-1854(享和1-嘉永7)	花卉図	1844（天保15）	紙本淡彩	174.0×97.1
6	山本梅逸 1783-1856（天明3-安政3）	花卉竹石図	1833（天保4）	絹本着色	145.1×71.2
7	伊藤若冲 1716-1800(正徳6-寛政12)	樹花鳥獸図屏風	18世紀後半 (江戸時代)	紙本着色	右 137.5×355.6 左 137.5×366.2
8	今井俊満（寄託） 1928-2002(昭和3-平成14)	東方の光	1970（昭和45年）	キャンバス、油彩	180.0×600.4
9	長沢蘆雪 1754-1799(宝暦4-寛政11)	牡丹孔雀図	1793-99 (寛政5-11)	絹本着色	185.0×97.0
10	靄図（寄託） 1931-（昭和6-）	Mt.Fuji「Rainbow Landscape」	1974（昭和49）	紙、シルクスクリーン	72.5×51.0
11	靄図（寄託） 1931-（昭和6-）	Rainbow Volcano「Rainbow Landscape」	1974（昭和49）	紙、シルクスクリーン	72.5×51.0
12	靄図（寄託） 1931-（昭和6-）	虹の橋	1974（昭和49）	油彩、ベニヤ、板等	長さ1300.0×幅50.0
第二章 モノクロームのリズム					
13	カール・アンドレ 1935-	鉛と亜鉛のスクエア	1969	鉛、亜鉛	各0.8×20×20
14	ドナルド・ジャッド 1928-1994	無題	1990	黒のアノダイズド・アルミニウム、ブロンズ色のブレキシグラス (10ユニット)	各15.2×68.5×61.0
15	伊藤若冲（寄託） 1716-1800(正徳6-寛政12)	白象群獣図	18世紀 (江戸時代)	紙本着色	122.9×73.1
16	嵯峨篤（個人蔵） 1970-（昭和45-）	Repose/009-017	2008（平成20）	MDF、ウレタンコート	各41.5×41.5×3.3-4.7
17	浦上玉堂 1745-1820(延享2-文政3)	抱琴訪隠図	1813（文化10）頃	紙本墨画淡彩	112.0×62.8
18	河原温 1933-（昭和8-）	J A N. 21, 1988. "Thursday." "TODAY" Series No.1, 1988.	1988	キャンバス、アクリル／新聞	20.3×25.4
19	河原温 1933-（昭和8-）	A P R. 2, 1988. "Saturday." "TODAY" Series No.12, 1988.	1988	キャンバス、アクリル／新聞	20.3×25.4
20	森田安次 1912-1959(大正1-昭和34)	風の又三郎	1949（昭和24）	紙本墨書	136.4×68.7
21	ジョゼフ・コスース 1945-	タイトルド、雨	1967	アクリル、シルク印刷	120×120
22	植田正治（寄託） 1913-2000（大正2-平成12）	土堀	1935（昭和10）	ゼラチンシルバープリント	45.5×28.0
23	植田正治（寄託） 1913-2000（大正2-平成12）	シリーズ「童暦」より ヒトデ	1955-1970 (昭和30-45)	ゼラチンシルバープリント	29.3×19.6
24	植田正治（寄託） 1913-2000（大正2-平成12）	アサヒカメラ掲載 人形	1974（昭和49）	ゼラチンシルバープリント	14.9×22.5
25	植田正治（寄託） 1913-2000（大正2-平成12）	アサヒカメラ掲載 帽子屋	1974（昭和49）	ゼラチンシルバープリント	14.8×22.5
26	植田正治（寄託） 1913-2000（大正2-平成12）	アサヒカメラ掲載 雪の日 雪の足跡	1974（昭和49）	ゼラチンシルバープリント	13.7×21.2
27	植田正治（寄託） 1913-2000（大正2-平成12）	アサヒカメラ掲載 フクちゃん	年代不詳	ゼラチンシルバープリント	14.3×22.4

No.	作者名／生没年	作品名	制作年（元号）	材質・形状	寸法(cm)	
					平面：タテ×ヨコ	立体：高さ×幅×奥行き
28	植田正治（寄託） 1913-2000（大正2-平成12）	アサヒカメラ掲載 コーラビン	年代不詳	ゼラチンシルバープリント	13.7×21.2	
29	植田正治（寄託） 1913-2000（大正2-平成12）	ちょうちょ	年代不詳	ゼラチンシルバープリント	16.3×16.3	
30	植田正治（寄託） 1913-2000（大正2-平成12）	柱の影	年代不詳	ゼラチンシルバープリント	14.4×22.0	
31	植田正治（寄託） 1913-2000（大正2-平成12）	はと	年代不詳	ゼラチンシルバープリント	14.5×22.0	

第三章 間から光へ—黒・紺・グレー—

32	正木隆 1971-2004(昭和46-平成16)	狭山 9月	1999（平成11）	綿布、油彩	180×260	
33	正木隆 1971-2004(昭和46-平成16)	造形01-14	2001（平成13）	綿布、油彩	163.5×227.5	
34	小林清親 1847-1915(弘化4-大正4)	今戸有明樓之景	1879（明治12）	紙、木版、色摺	23.5×35.1	
35	小林清親 1847-1915(弘化4-大正4)	東京両国百本杭晩之図	1879（明治12）	紙、木版、色摺	24.4×36.0	
36	小林清親 1847-1915(弘化4-大正4)	五本松雨月	1880（明治13）	紙、木版、色摺	23.1×33.9	
37	小林清親 1847-1915(弘化4-大正4)	浅草夜見世	1881（明治14）	紙、木版、色摺	24.8×36.3	
38	田中保 1886-1941	セーヌの宵	1920（大正9）	キャンヴァス、油彩	54.5×65.4	
39	平山郁夫（寄託） 1930-2009(昭和5-平成20)	黄河（宵）	1986（昭和61）	紙本着色	171.0×363.0	
40	アンゼルム・キーファー 1945-	極光	1978-88	写真、灰・焦げ跡のついた鉛、上塗りした鉄 のフレーム	241.4×101.4	
41	リチャード・ウィルソン 1714-1782	リン・ナントルからスノードン を望む	1765-67頃	キャンヴァス、油彩	98.4×125.8	
42	ダレンアーモンド（寄託） 1971-	Civil Dawn@Mt.Hiei.7	2008	アクリル、Cプリント	186×186×5	
43	ダレンアーモンド（寄託） 1971-	Civil Dawn@Mt.Hiei.8	2008	アクリル、Cプリント	186×186×5	
★44	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次（保永堂版）／ 品川 日之出	1833（天保4）頃	紙、木版、色摺	25.1×37.8	
★45	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次（保永堂版）／ 沼津 黄昏図	1833（天保4）頃	紙、木版、色摺	25.7×38.6	
★46	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次（保永堂版）／ 蒲原 夜之雪	1833（天保4）頃	紙、木版、色摺	24.7×37.1	
☆47	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次（隸書）／ 保土ヶ谷	1849（嘉永2）頃	紙、木版、色摺	24.0×36.4	
☆48	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次（隸書）／藤沢	1849（嘉永2）頃	紙、木版、色摺	23.8×35.5	
★49	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次（隸書）／箱根	1849（嘉永2）頃	紙、木版、色摺	24.2×36.5	
☆50	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次（隸書）／鞠子	1849（嘉永2）頃	紙、木版、色摺	24.1×36.0	
☆51	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次（隸書）／関	1849（嘉永2）頃	紙、木版、色摺	24.0×36.4	

第四章 自然の恵み—緑×青—

52	入江波光 1887-1948(明治20-昭和23)	草園の朝	1926（大正15）	絹本着色	133.4×41.5	
53	今村紫紅 1880-1916(明治13-大正5)	宇津の山路	1912（明治45）	絹本着色	126.5×50.4	
54	狩野探信守道 1785-1835(天明5-天保6)	井出玉川・大堰川図屏風	1825-35 (文政8-天保6)	紙本金地着色	各166.0×358.8	
55	山本探川 1721-1780(享保6-安永9)	宇津の山図屏風	1755-69 (宝暦5-明和6)	紙本着色	163.5×175.0	
56	中村岳陵 1890-1969(明治23-昭和44)	婉膩水韻	1931（昭和6）	紙本着色	153.0×368.1	
57	ギュスター・クールベ 1819-1877	ピュイ・ノワールの溪流	1865	キャンヴァス、油彩	75.0×90.0	

No.	作者名／生没年	作品名	制作年（元号）	材質・形状	寸法(cm)	
					平面：タテ×ヨコ	立体：高さ×幅×奥行き
58	徳岡神泉 1896-1972(明治29-昭和47)	雨	1964(昭和39)	紙本着色	110.7	×143.7
59	石川欽一郎 1871-1945(明治4-昭和20)	駿河湾	1939(昭和14)頃	絹、水彩	53.0	×64.5
60	クロード・モネ 1840-1926	ルーアンのセーヌ川	1872	キャンヴァス、油彩	49.2	×76.2
61	ジョアン・ミッセル 1926-	湖	1954	キャンヴァス、油彩	203.2	×254.5
62	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次(保永堂版)／箱根 湖水図	1833(天保4)頃	紙、木版、色摺	25.5	×38.7
63	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次(保永堂版)／岡部 宇津之山	1833(天保4)頃	紙、木版、色摺	25.7	×38.2
64	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次(隸書)／白須賀	1849(嘉永2)頃	紙、木版、色摺	24.3	×36.0
65	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次(隸書)／御油	1849(嘉永2)頃	紙、木版、色摺	24.0	×36.5
66	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次(隸書)／阪之下	1849(嘉永2)頃	紙、木版、色摺	24.0	×36.0
67	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次(隸書)／土山	1849(嘉永2)頃	紙、木版、色摺	24.0	×36.3
68	歌川広重 1797-1858(寛政9-安政5)	東海道五拾三次(隸書)／水口	1849(嘉永2)頃	紙、木版、色摺	24.0	×36.3

第五章 アースエモーション—情熱の赤・大地の黄—

69	斎藤義重 1904-2001(明治37-平成13)	作品2	1960(昭和35)	合板、油彩(ドリルを使用)	169.0	×109.0
70	小松均 1902-1989(明治35-平成1)	赤富士 上下	1978(昭和53)	紙本着色	上201	×368.5 下95×368.5
71	白髪一雄 1924-2008(大正13-平成20)	屋島	1965(昭和40)	キャンヴァス、油彩	182.0	×227.0
72	中村岳陵 1890-1969(明治23-昭和44)	残照	1961(昭和36)	紙本着色	94.5	×120.0
73	武内鶴之助 1881-1948(明治14-昭和23)	英國風景	1909-1912(明治42-大正2)頃	紙、パステル	45.8	×60.0
74	児島虎次郎 1881-1929(明治14-昭和4)	酒津の庭(水蓮)	1924-28(大正13-昭和3)頃	キャンヴァス、油彩	81.0	×65.0
75	和田英作 1874-1959(明治7-昭和34)	富士	1918(大正7)	キャンヴァス、油彩	60.6	×80.2
76	モーリス・ド・ヴラマンク 1876-1958	小麦畑と赤い屋根の家	1905	キャンヴァス、油彩	60.0	×73.0
77	サミュエル・パーマー 1805-1881	ケント州、アンドーリヴァーのホップ畑	1833-34頃	板、油彩、テンペラ	19.0	×26.0
78	ジョン・コンスタブル 1776-1837	ハムステッド・ヒースの木立、日没	1821	キャンヴァスに貼られた紙、油彩	25.2	×29.2
79	パウル・クレー 1879-1940	ホールC. エントランスR 2	1920	厚紙に貼られた洋紙、油彩	21.7	×46.6
80	ジョゼフ・アルバース 1888-1976	正方形頌	1957-60	メゾナイト、油彩	56.0	×56.0
81	三宅克己 1874-1954(明治7-昭和29)	白壁の家(ペルギー、ブリュジュー)	1921(大正10)	紙、水彩	67.3	×105.0
82	秋野不矩 1908-2001(明治41-平成13)	ガンガー(ガンジス河)	1979(昭和54)	紙本着色	148.0	×266.5
83	山口長男 1902-1983(明治35-昭和58)	脈	1968(昭和43)	合板、油彩	182.2	×182.2
84	モーリス・ルイス 1912-1962	ベス・アイン	1958	キャンヴァス、アクリル	232.0	×333.0
★85	横山大観 1868-1958(明治1-昭和33)	群青富士	1917-18(大正6-7)頃	絹本着色	各176.0	×384.0
☆86	木村武山 1876-1942(明治9-昭和17)	羽衣	1920年代後期-1930年代前期(昭和初期)	絹本着色	各169.5	×375.0
87	東山魁夷 1908-1999(明治41-平成11)	秋富士	1955(昭和30)	絹本着色	66.6	×88.1

No.	作者名／生没年	作品名	制作年（元号）	材質・形状	寸法(cm)
					平面：タテ×ヨコ 立体：高さ×幅×奥行き
第六章 ゆらめく金					
88	秋野不矩 1908-2001(明治41-平成13)	廻廊	1984(昭和59)	紙本金地着色	151.3×101.0
89	秋野不矩 1908-2001(明治41-平成13)	たむろするクーリー	1984(昭和59)	紙本金地着色	94.5×294.0
90	大久保婦久子 1919-2000(大正8-平成12)	登呂の譜	1984(昭和59)	皮	168.8×83.0
91	宮脇愛子 1929-(昭和4-)	作品	1986(昭和61)	真鍮	119.0×115.0×17.0
92	コンスタンティン・ブランクーシ 1876-1957	ボガニー嬢Ⅱ	1925	磨きブロンズ、砂石	57.0×18.0×26.0
93	中村岳陵 1890-1969(明治23-昭和44)	牡鹿啼く	1930(昭和5)	紙本着色	各163.6×162.1
94	狩野永岳 1790-1867(寛政2-慶応3)	四季耕作図屏風	19世紀 (江戸時代)	紙本金地着色	各163.5×357.4
95	石田幽汀 1721-1786(享保6-天明6)	群鶴図屏風	18世紀 (江戸時代)	紙本金地着色	各156.0×362.6

★前期（4月14日－5月6日）、☆後期（5月8日－5月27日）

日本油彩画200年－西欧への挑戦

No.	作者名	生没年	作品名	制作年(元号)	材質・形状	寸法(cm)	所蔵先
I 油彩画前史～近世の油彩画～							
1	筆者不詳		薔薇龍図(伊藤若冲ほか「縮地妙詮帖」のうち)	1778(安政7)	跋 紙本油彩	9.0×9.0	静岡県立美術館
2	司馬江漢	1747-1818 (延享4-文政1)	駿河湾富士遠望図	1800(寛政12)	絹本油彩	56.5×94.3	個人蔵
3	司馬江漢	1747-1818 (延享4-文政1)	馬入川富士遠望図	18世紀後半 (江戸時代後期)	絹本油彩	27.0×56.0	摘水軒記念文化振興財団(府中市美術館寄託)
4	司馬江漢	1747-1818 (延享4-文政1)	駿州薩蛇山富士遠望図	1804(文化1)	絹本油彩	78.5×146.5	静岡県立美術館
5	司馬江漢	1747-1818 (延享4-文政1)	円窓唐美人図	1789-1801 (寛政前半頃)	絹本油彩	91.2×51.0	府中市美術館
II 油彩画の開拓～明治期の洋画家たち～							
6	チャールズ・ワーグマン	1832-1891 (天保3-明治24)	富士遠望図	1876以降 (明治9以降)	キャンヴァス、油彩	41.2×76.2	静岡県立美術館
7	チャールズ・ワーグマン	1832-1891 (天保3-明治24)	街道風景	1868-1911 (明治期)	キャンヴァス、油彩	19.9×35.3	府中市美術館
8	ジョルジュ・ビゴー	1860-1927 (万延元-昭和2)	富士(沼津江浦)	1885-1887頃 (明治18-20頃)	板、油彩	24×58	静岡県立美術館
9	ラファエル・コラン	1850-1916	想い	1904(明治37)	キャンヴァス、油彩	59.0×81.2	静岡県立美術館
10	徳川慶喜	1837-1913 (天保8-大正2)	風景	1868-1877頃 (明治初期)	紙、油彩	31.0×45.0	静岡県立美術館
11	黒田清輝	1866-1924 (慶応2-大正13)	裸体・女(全身)	1889(明治22)	キャンヴァス、油彩	81.6×44.7	東京国立博物館
12	黒田清輝	1866-1924 (慶応2-大正13)	残雪	1892頃 (明治25頃)	キャンヴァス、油彩	45.7×36.7	東京国立博物館
13	黒田清輝	1866-1924 (慶応2-大正13)	赤髪の少女	1892(明治25)	キャンヴァス、油彩	80.6×64.5	東京国立博物館
14	黒田清輝	1866-1924 (慶応2-大正13)	昼寝	1894(明治27)	キャンヴァス、油彩	49.8×61.0	東京国立博物館
15	黒田清輝	1866-1924 (慶応2-大正13)	大磯風景	1868-1925 (明治-大正期)	キャンヴァス、油彩	24.1×32.5	府中市美術館
16	吉田博	1876-1950 (明治9-昭和25)	川のある風景	1896(明治29)	キャンヴァス、油彩	72.0×149.8	府中市美術館
17	平木政次	1859-1943 (安政6-昭和18)	富士	1897(明治30)	キャンヴァス、油彩	44.0×67.0	静岡県立美術館
18	本多錦吉郎	1850-1921 (嘉永3-大正10)	景色	1898(明治31)	キャンヴァス、油彩	64.9×88.3	府中市美術館
19	川村清雄	1852-1934 (嘉永5-昭和9)	海底に遺る日清勇士の髑髏	1899以前 (明治32以前)	板、漆、油彩	42.5×81.0	静岡県立美術館
20	川村清雄	1852-1934 (嘉永5-昭和9)	巨岩海浜図	1912-26頃 (大正期頃)	板、油彩	43.5×174.0	静岡県立美術館
21	川村清雄	1852-1934 (嘉永5-昭和9)	波	1913頃-27 (大正2頃-昭和2)	キャンヴァス、油彩	60.6×152.0	静岡県立美術館
22	川村清雄	1852-1934 (嘉永5-昭和9)	風景	1920年代頃 (大正末から昭和初)	キャンヴァス、油彩	53.0×80.3	静岡県立美術館
23	鹿子木孟郎	1874-1941 (明治7-昭和16)	日本髪の裸婦	1899頃 (明治32頃)	キャンヴァス、油彩	93.5×63.8	府中市美術館
24	鹿子木孟郎	1874-1941 (明治7-昭和16)	ショールをまとう女	1906-1907頃 (明治39-40頃)	キャンヴァス、油彩	91.0×65.0	府中市美術館
25	鹿子木孟郎	1874-1941 (明治7-昭和16)	紀州勝浦	1910(明治43)	キャンヴァス、油彩	59.0×74.8	静岡県立美術館
26	五姓田義松	1855-1915 (安政2-大正4)	富士	1905(明治38)	キャンヴァス、油彩	46.8×101.5	静岡県立美術館
27	浅井忠	1856-1907 (安政3-明治40)	琵琶湖	1906(明治39)	キャンヴァス、油彩	22.9×69.5	府中市美術館
28	東城鉢太郎	1865-1929 (慶応1-昭和4)	山家の春	1910(明治43)	キャンヴァス、油彩	40.5×60.5	静岡県立美術館
29	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	富士	1918(大正17)	キャンヴァス、油彩	60.6×80.2	静岡県立美術館

No.	作者名	生没年	作品名	制作年(元号)	材質・形状	寸法(cm)	所蔵先
30	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	日本平望嶽台	1939(昭和14)	キャンヴァス、油彩	45.0×52.8	静岡県立美術館寄託

III 油彩画の隆盛～大正から昭和へ

一光を求めて

31	山本森之助	1877-1928 (明治10-昭和13)	海岸	1912-1914頃 (明治45-大正3頃)	キャンヴァス、油彩	60.7×80.5	静岡県立美術館
32	太田喜二郎	1883-1951 (明治16-昭和26)	帰り路(樵婦帰路)	1913(大正2)	キャンヴァス、油彩	122.0×115.0	静岡県立美術館
33	中澤弘光	1874-1964 (明治7-昭和39)	風景(秋の湖畔)	1919(大正8)	キャンヴァス、油彩	137×212	静岡県立美術館
34	児島虎次郎	1881-1929 (明治14-昭和4)	酒津の庭(水蓮)	1924-28頃 (大正13-昭和3頃)	キャンヴァス、油彩	81.0×65.0	静岡県立美術館

一欧洲に学ぶ

35	栗原忠二	1886-1936 (明治19-昭和11)	セントポール	1916頃(大正5頃)	キャンヴァス、油彩	80.0×100.0	静岡県立美術館
36	都島英喜	1873-1943 (明治6-昭和18)	モンティーニの秋	1920(大正9)	キャンヴァス、油彩	80.2×115.2	静岡県立美術館
37	田中保	1886-1941 (明治19-昭和16)	セーヌの宵	1920(大正9)	キャンヴァス、油彩	54.5×65.4	静岡県立美術館
38	清水登之	1887-1945 (明治20-昭和20)	セーヌ河畔	1924(大正13)	キャンヴァス、油彩	65×53.8	静岡県立美術館
39	清水登之	1887-1945 (明治20-昭和20)	ラッパ卒(トレド風景)	1925(大正14)	キャンヴァス、油彩	64.5×81.0	府中市美術館
40	原勝郎	1889-1966 (明治22-昭和41)	バガテル公園、パリ	1924頃 (大正13頃)	キャンヴァス、油彩	73.0×100.0	静岡県立美術館
41	原勝郎	1889-1966 (明治22-昭和41)	風景	1930(昭和5)	キャンヴァス、油彩	73.0×92.0	静岡県立美術館
42	原勝郎	1889-1966 (明治22-昭和41)	セーヌ河畔	1935(昭和10)	キャンヴァス、油彩	45.8×60.3	静岡県立美術館
43	原勝郎	1889-1966 (明治22-昭和41)	ノートル・ダム寺院(パリ)	1922-1939 (大正11-昭和14)	キャンヴァス、油彩	52.8×43.2	静岡県立美術館
44	原勝郎	1889-1966 (明治22-昭和41)	パリの街角	1922-1939 (大正11-昭和14)	キャンヴァス、油彩	45.0×53.0	静岡県立美術館
45	佐伯祐三	1898-1928 (明治31-昭和3)	ラ・クロッシュ	1927(昭和2)	キャンヴァス、油彩	52.5×64.0	静岡県立美術館

一静物画を描く

46	小出楳重	1887-1931 (明治20-昭和6)	静物	1917(大正6)	キャンヴァス、油彩	78.4×90.8	静岡県立美術館
47	岸田劉生	1891-1929 (明治24-昭和4)	静物(リーチの茶碗と果物)	1921(大正10)	キャンヴァス、油彩	48.5×59.5	静岡県立美術館寄託
48	里見勝藏	1895-1981 (明治28-昭和56)	静物	1930(昭和5)	キャンヴァス、油彩	90.9×116.7	静岡県立美術館
49	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	種子静物	1934(昭和9)	キャンヴァス、油彩	60.6×72.7	静岡県立美術館
50	原勝郎	1889-1966 (明治22-昭和41)	静物(洋梨と壺)	1950頃 (昭和25頃)	キャンヴァス、油彩	44.8×52.8	静岡県立美術館

一写実を求めて

51	安井曾太郎	1888-1955 (明治21-昭和30)	森の中	1911-13 (明治44-大正2)	キャンヴァス、油彩	38.0×45.0	静岡県立美術館
52	柏木俊一	1894-1971 (明治27-昭和46)	道	1912-1925 (大正時代)	キャンヴァス、油彩	37.5×45.5	静岡県立美術館
53	柏木俊一	1894-1971 (明治27-昭和46)	自画像	1918頃(大正7頃)	板、油彩	53.0×44.5	静岡県立美術館寄託
54	柏木俊一	1894-1971 (明治27-昭和46)	海と煙と森	1934(昭和9)	キャンヴァス、油彩	73.0×100.0	静岡県立美術館
55	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	工部大学	1911(明治44)	キャンヴァス、油彩	34.0×45.7	静岡県立美術館
56	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	芝浦埋立地	1913(大正2)	キャンヴァス、油彩	53.0×72.0	静岡県立美術館
57	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	自画像	1914(大正3)	キャンヴァス、油彩	45.8×33.6	静岡県立美術館

No.	作者名	生没年	作品名	制作年(元号)	材質・形状	寸法(cm)	所蔵先
58	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	梨畠道	1924(大正13)	キャンヴァス、油彩	59.0×71.5	静岡県立美術館
59	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	麦秋	1941(昭和16)	キャンヴァス、油彩	72.8×91.0	静岡県立美術館
60	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	スペインの野	1968(昭和43)	キャンヴァス、油彩	73.0×91.0	静岡県立美術館
61	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	毛無連峯	1970(昭和45)	キャンヴァス、油彩	53.0×72.7	静岡県立美術館
62	鶴田吾郎	1890-1994 (明治23-昭和44)	余の見たる曾宮君	1922(大正11)	キャンヴァス、油彩	114.5×91.0	静岡県立美術館
63	吉田博	1876-1950 (明治9-昭和25)	上高地の春	1927(昭和2)	キャンヴァス、油彩	80.5×116.8	静岡県立美術館
64	三岸好太郎	1903-1934 (明治36-昭和9)	海	1934(昭和9)	キャンヴァス、油彩	38.0×45.7	静岡県立美術館寄託
65	石川欽一郎	1874-1945 (明治4-昭和20)	海辺(早川海岸)	1935頃 (昭和10頃)	キャンヴァス、油彩	53.2×72.8	静岡県立美術館
66	茨木猪之吉	1888-1944 (明治21-昭和19)	初夏の常念岳	1935(昭和10)	キャンヴァス、油彩	45.7×53.0	静岡県立美術館
67	靄光	1907-1946 (明治40-昭和21)	花	1926-1946 (昭和1-21)	板、油彩	33.0×23.7	府中市美術館
68	靄光	1907-1946 (明治40-昭和21)	ダリア	1942頃 (昭和17頃)	キャンヴァスボード、油彩	30.3×25.5	府中市美術館
69	金山平三	1883-1964 (明治16-昭和39)	千曲川(信濃路の春)	1956-64 (昭和31-39)	キャンヴァス、油彩	41.0×53.0	静岡県立美術館
70	島戸繁	1902-1998 (明治35-平成10)	びわ湖の舟	1957頃 (昭和32頃)	キャンヴァス、油彩	145.0×97.0	静岡県立美術館
71	島戸繁	1902-1998 (明治35-平成10)	社頭残雪	1968頃 (昭和43頃)	キャンヴァス、油彩	97.0×163.0	静岡県立美術館
72	原勝郎	1889-1966 (明治22-昭和41)	樹		キャンヴァス、油彩	50.2×60.5	静岡県立美術館
73	原勝郎	1889-1966 (明治22-昭和41)	樹		キャンヴァス、油彩	60.5×80.5	静岡県立美術館

—具象から抽象へ—

74	坂田一男	1889-1956 (明治22-昭和31)	祭壇の男	1926(大正15)	キャンヴァス、油彩	80.0×60.0	静岡県立美術館
75	岡田岡田もしくはオカイン	活躍期1931-1947 (昭和6-22)	小児	1931(昭和6)	キャンヴァス、油彩	71.0×52.0	静岡県立美術館
76	川口軌外	1892-1966 (明治25-昭和41)	白い花	1932(昭和7)	キャンヴァス、油彩	91.0×73.0	静岡県立美術館
77	海老原喜之助	1904-1970 (明治37-昭和45)	かぜ	1954(昭和29)	キャンヴァス、油彩	162.2×131.0	静岡県立美術館

—個性の発露—

78	萬鉄五郎	1885-1927 (明治18-昭和2)	日傘の裸婦	1913(大正2)	キャンヴァス、油彩	80.5×53.0	神奈川県立近代美術館
79	萬鉄五郎	1885-1927 (明治18-昭和2)	裸婦	1918(大正7)	キャンヴァス、油彩	46×34	神奈川県立近代美術館
80	児島善三郎	1893-1962 (明治26-昭和36)	箱根	1937頃 (昭和12頃)	キャンヴァス、油彩	90.7×115.2	静岡県立美術館
81	野口謙蔵	1901-1944 (明治34-昭和19)	虹の風景	1941(昭和16)	キャンヴァス、油彩	50.3×60.7	静岡県立美術館
82	北川民次	1894-1989 (明治27-平成1)	風景	1944(昭和19)	キャンヴァス、油彩	72.8×60.8	静岡県立美術館
83	北川民次	1894-1989 (明治27-平成1)	雑草の如くⅢ(裸婦)	1949(昭和24)	キャンヴァス、油彩	130.3×162.0	静岡県立美術館
84	小糸源太郎	1887-1978 (明治20-昭和53)	春雪	1953(昭和28)	キャンヴァス、油彩	83.0×116.0	静岡県立美術館
85	高畠達四郎	1895-1976 (明治28-昭和51)	漁師の家	1958(昭和33)	キャンヴァス、油彩	72.0×90.7	静岡県立美術館
86	高畠達四郎	1895-1976 (明治28-昭和51)	エトルタ	1970(昭和45)	キャンヴァス、油彩	65.3×91.0	静岡県立美術館
87	高畠達四郎	1895-1976 (明治28-昭和51)	伊豆下田港	1976(昭和51)	キャンヴァス、油彩	53.0×65.3	静岡県立美術館
88	小林和作	1888-1974 (明治21-昭和49)	秋山	1972(昭和47)	キャンヴァス、油彩	72.8×91.0	静岡県立美術館

No.	作者名	生没年	作品名	制作年（元号）	材質・形状	寸法(cm)	所蔵先
—絵肌（マティエール）の魅力—							
89	鳥海青児	1902-1972 (明治35-昭和47)	張家口	1939(昭和14)	キャンヴァス、油彩	41.0×53.0	静岡県立美術館
90	鳥海青児	1902-1972 (明治35-昭和47)	壁の修理	1959頃(昭和34 頃)	キャンヴァス、油彩	79.5×116.0	静岡県立美術館
91	青木達弥	1917-1981 (大正6-昭和56)	薄	1941(昭和16)	キャンヴァス、油彩	116.8×91.0	静岡県立美術館
92	青木達弥	1917-1981 (大正6-昭和56)	石の花	1962(昭和37)	キャンヴァス、油彩	91.0×116.8	静岡県立美術館
93	岡鹿之助	1898-1978 (明治31-昭和53)	観測所	1951(昭和26)	キャンヴァス、油彩	65.1×80.3	静岡県立美術館
94	香月泰男	1911-1974 (明治44-昭和49)	冬畠	1965(昭和40)	キャンヴァス、油彩、方解石、墨	90.9×60.6	静岡県立美術館
95	白髪一雄	1924-2008 (大正13-平成20)	屋島	1965(昭和40)	キャンヴァス、油彩	182.0×227.0	静岡県立美術館
96	田村一男	1904-1997 (明治37-平成9)	北越大雪	1976(昭和51)	キャンヴァス、油彩	145.5×89.4	静岡県立美術館

ユベール・ロベール

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵
1	作者不詳、エリザベト・ヴィジエ=ル・ブランに基づく	ユベール・ロベールの肖像		パリ国立美術学校 (ヴァランス美術館寄託)
2	クロード・ロラン	朝日の見える港	1634	国立西洋美術館
3	クロード・ロラン	略奪されるエウロペ	1634	国立西洋美術館
4	クロード・ロラン	川岸の踊り	c.1634	国立西洋美術館
5	クロード・ロラン	牛飼い	1636	国立西洋美術館
6	クロード・ロラン	フォロ・ロマーノ	1636	国立西洋美術館
7	クロード・ロラン	嵐の中を帰る牛の群れ	c.1650-51	国立西洋美術館
8	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景	1635-39	静岡県立美術館
9	ピエール・バテル	廃墟と羊飼いを伴う風景	1640	ヴァランス美術館
10	ガスパール・デュゲ	サビーニの山羊飼い	1669-71	静岡県立美術館
11	サルヴァトール・ローザ	川のある山岳風景	1655-59	静岡県立美術館
12	ジャンニコラ・セルヴァンドー ニ	コロッセウムとガイウス・ケスティウスのピラミッドのあるローマのカプリッチョ	1731	ヴァランス美術館
13	ジョヴァンニ・バオロ・パニ ニ	古代建築と彫刻のカプリッチョ	c.1745-50	国立西洋美術館
14	ジョヴァンニ・バッティスタ・ ピラネージ	『ローマの景観』から、「フランス・アカデミー」	1757-58?	国立西洋美術館
15	ジョヴァンニ・バッティスタ・ ピラネージ	『ローマの遺跡』(第1巻)から、「ローマの地図」	1756	国立西洋美術館
16	ユベール・ロベール	セプティミウス・セウェルス凱旋門のヴァリエーション	1756	ヴァランス美術館
17	ユベール・ロベール	コンスタンティヌス凱旋門のヴァリエーション	1756	ヴァランス美術館
18	ユベール・ロベール	サンタ・マリア・デリ・アンジェリ教会の身廊	1758	ヴァランス美術館
19	ユベール・ロベール	ネルヴァ広場	1759	ヴァランス美術館
20	ユベール・ロベール	皇帝の宮殿の廃墟	1761	ヴァランス美術館
21	ユベール・ロベール	パラティーノの丘の素描家たち	1761-62	ヴァランス美術館
22	ユベール・ロベール	ティトゥス凱旋門	1762	ヴァランス美術館
23	ユベール・ロベール	セプティミウス・セウェルス凱旋門の中央アーチ	1762	ヴァランス美術館
24	ユベール・ロベール	カンピドリオの丘	1762	ヴァランス美術館
25	ユベール・ロベール	マルクス・アウレリウス騎馬像	1762	ヴァランス美術館
26	ユベール・ロベール	カピトリーノ美術館の回廊	1762	ヴァランス美術館
27	ユベール・ロベール	カピトリーノ美術館の素描家	c.1762	ヴァランス美術館
28	ユベール・ロベール	カピトリーノ美術館の古代遺物	1762	ヴァランス美術館
29	ユベール・ロベール	サン・ピエトロ広場の列柱	1763	ヴァランス美術館
30	ユベール・ロベール	柱廊から見たサン・ピエトロ大聖堂	1763	ヴァランス美術館

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵
31	ユベール・ロベール	サン・ピエトロ大聖堂の柱廊の開口部	1763	ヴァランス美術館
32	ユベール・ロベール	サン・ピエトロ大聖堂の柱廊の開口部の人々	1764	ヴァランス美術館
33	ユベール・ロベール	サン・ピエトロ大聖堂の中で	1763	ヴァランス美術館
34	ユベール・ロベール	ヴィラ・パンフィーリの庭園	1760	ヴァランス美術館
35	ユベール・ロベール	ヴィラ・マダマ	1761-62	ヴァランス美術館
36	ユベール・ロベール	ヴィラ・マダマの洗濯女たち	1762	ヴァランス美術館
37	ユベール・ロベール	ヴィラ・ジュリアの中庭	1762	ヴァランス美術館
38	ユベール・ロベール	ヴィラ・ジュリアの干草置場	c.1762	ヴァランス美術館
39	ユベール・ロベール	廃墟の中の貯蔵庫	1761-62	ヴァランス美術館
40	ユベール・ロベール	植物の習作	1761-62	ヴァランス美術館
41	ユベール・ロベール	なぎ倒された木	1762-63	ヴァランス美術館
42	ユベール・ロベール	打ち捨てられた庭園の噴水のそばの女たち	1763	ヴァランス美術館
43	ユベール・ロベール	庭園の中のローマの胸像	1763	ヴァランス美術館
44	ユベール・ロベール	大木の下のあばら屋	1763	ヴァランス美術館
45	ユベール・ロベール	ローマ郊外の見晴らし台	1763-64	ヴァランス美術館
46	ユベール・ロベール	チエルヴァラの洞窟	1761-62	ヴァランス美術館
47	ユベール・ロベール	ロンチリオーネの洗濯女たち		ヴァランス美術館
48	ユベール・ロベール	ティヴォリのシビラ神殿		ヴァランス美術館
49	ユベール・ロベール	ヴィラ・マエケナスの全景	1760-65	ヴァランス美術館
50	ユベール・ロベール	ティヴォリの滝	1776	プティ・パレ、パリ市立美術館
51	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『ローマの景観』から、「ティヴォリのシビラ神殿」	1761	国立西洋美術館
52	ジャン=オノレ・フラゴナール	アニオ・ノウス水道橋	c.1760	ヴァランス美術館
53	ジャン=オノレ・フラゴナール、 ジャン=ロベール・アンゴ	ティヴォリのヴィラ・デステ	1760/1767-70	ヴァランス美術館
54	ジャン=オノレ・フラゴナール	若い熊使い	c.1760	国立西洋美術館
55	ジャン=オノレ・フラゴナール	丘を下る羊の群	c.1763-65	国立西洋美術館
56	ジャン=ロベール・アンゴ	不誠実な樵	c.1760-65	ヴァランス美術館
57	ユベール・ロベール	カプラローラ、ファルネーゼ宮の地下の円形建築（ロンド）	1761	ヴァランス美術館
58	ユベール・ロベール	カプラローラ、ファルネーゼ宮の螺旋階段	1764	ヴァランス美術館
59	ユベール・ロベール	古代のアーチの下の通り道	1763	ヴァランス美術館
60	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『コラの古代都市』から、「コラの町のヘラクレス神殿と推定される廃墟」	1764	国立西洋美術館
61	ユベール・ロベール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポツツオーリ	1761	静岡県立美術館
62a	ジャン=クロード・リシャール・サン=ノン（通称サン=ノン師）著	『ナポリ王国とシチリア王国のピトレスクな旅あるいは描写』から、「ヴェスヴィオ山の頂と火口の眺め」	1781-86	国立西洋美術館

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵
62 b	ジャン=クロード・リシャル・サン=ノン(通称サン=ノン師)著	『ナポリ王国とシチリア王国のピトレスクな旅あるいは描写』から、「ナポリ近郊のポッツォーリのユピテル・セラピスへ奉獻されたと推定される神殿の建立」	1781-86	国立西洋美術館
63	ユベール・ロベール	濠から見たルイ15世広場	1766-68	ヴァランス美術館
64	ユベール・ロベール	修道院の回廊「シャアリにて」	1765	ヴァランス美術館
65	ユベール・ロベール	パリのユリアヌス浴場	1766	ヴァランス美術館
66	ユベール・ロベール	サン=ドニ教会の内部	1770-74	ヴァランス美術館
67	ユベール・ロベール	赤ん坊に哺乳瓶をさし出す若い女	1772	ヴァランス美術館
68	ユベール・ロベール	大木の下の母子	1772	ヴァランス美術館
69	ユベール・ロベール	お祈りの稽古	1774	ヴァランス美術館
70	ユベール・ロベール	羊飼いの礼拝	c.1780	ヴァランス美術館
71	ユベール・ロベール	書斎のジョフラン夫人	1772	ヴァランス美術館
72	ユベール・ロベール	ジョフラン夫人の邸宅	1772	ヴァランス美術館
73	ユベール・ロベール	ティトゥス浴場からの眺め	1774-75	ヴァランス美術館
74	ユベール・ロベール	フラスカーティの洗濯女たち	1775	ヴァランス美術館
75	ユベール・ロベール	ティヴォリの洗濯女たち	1775	ヴァランス美術館
76	ユベール・ロベール	ドルスス凱旋門をくぐって	1775	ヴァランス美術館
77	ユベール・ロベール	戸口の下のブランコ遊び	1780	ヴァランス美術館
78	ユベール・ロベール	コロッセウムの内部	1759	ヴァランス美術館
79	ユベール・ロベール	古代遺物の発見者たち	1765	ヴァランス美術館
80	ユベール・ロベール	古代遺物の発見者たち	1765	ヴァランス美術館
81	ユベール・ロベール	思索中に驚かされる修道士	c.1763-64	ヴァランス美術館
82	ユベール・ロベール	朽ちかけたローマのバシリカ	1772-74	ヴァランス美術館
83	ユベール・ロベール	コロッセウムにて	c.1775	ヴァランス美術館
84	ユベール・ロベール	教会の中の埋葬場面		ヴァランス美術館
85	ユベール・ロベール	スフィンクス橋の眺め	1767	東京富士美術館
86	ユベール・ロベール	凱旋橋	1782-83	ヴァランス美術館
87	ユベール・ロベール	庭園の中の階段	1769	ヴァランス美術館
88	ユベール・ロベール	宮殿の階下の魚釣り	1769-70	ヴァランス美術館
89	ユベール・ロベール	橋	1769-70	ヴァランス美術館
90	ユベール・ロベール	家畜の群れの帰り	1773	ヴァランス美術館
91	ユベール・ロベール	古代遺物の断片を切り出す男	1769	ヴァランス美術館
92	ユベール・ロベール	囲いで護られた古代像	1774	ヴァランス美術館
93	ユベール・ロベール	蛮族の王の像の前で	1774	ヴァランス美術館

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵
94	ユベール・ロベール	ボルゲーゼの壺を素描する画家	1775	ヴァランス美術館
95	ユベール・ロベール	テヴェレ河の寓意像のあるギャラリーの人々	1779	ヴァランス美術館
96	ユベール・ロベール	ファウナの装飾のある噴水	1775	ヴァランス美術館
97	ユベール・ロベール	カンピドーリオ広場の辻音楽師たち	c.1775	ヴァランス美術館
98	ユベール・ロベール	モンテ・カヴァッロの巨像とサン・ピエトロ大聖堂の見える空想のローマ景観	1786	国立西洋美術館
99	ユベール・ロベール	マルクス・アウレリウス騎馬像、トラヤヌス記念柱、神殿の見える空想のローマ景観	1786	国立西洋美術館
100	アンドレ=ルイ・ジルベール	トランジション様式の簞笥	c.1780	ヴァランス美術館
101	リチャード・ウィルソン	ティヴォリの風景（ホラティウスとクリアティウスの墓、ティヴォリのヴィラ・マエケナスのあるカプリッチョ）	1754	国立西洋美術館
102	ジョゼフ・ヴェルネ	夏の夕べ、イタリア風景	1773	国立西洋美術館
103	ユベール・ロベール	岩場の散歩	c.1765	ヴァランス美術館
104	ユベール・ロベール	ムーラン・ジョリ庭園	1765	ヴァランス美術館
105	ユベール・ロベール	小川のほとり	1772-74	ヴァランス美術館
106	ユベール・ロベール	水辺の庭園の中	1766-68	ヴァランス美術館
107	ユベール・ロベール	ロコンヴァルの水車	c.1769	ヴァランス美術館
108	ユベール・ロベール	ポンプ井戸	1770-72	ヴァランス美術館
109	ユベール・ロベール	シャラントンの洗濯女たち	1770-72	ヴァランス美術館
110	ユベール・ロベール	鄙びた木橋	1773-74	ヴァランス美術館
111	フランソワ・ブーシエ	石橋のある風景	1764	静岡県立美術館
112	フランソワ・ブーシエ	水車のある風景	1764	静岡県立美術館
113	ジャン=オノレ・フラゴナール	森の中の水車、エルムノンヴィル庭園の醸造所	1785-90	ヴァランス美術館
114	ユベール・ロベール	メレヴィル庭園の眺め		ヤマザキマザック美術館
115	ユベール・ロベール	牧人とニンフたち	c.1775	ヴァランス美術館
116	ユベール・ロベール	ディオクレティアヌス浴場から着想された円形建築（ロトンド）	1761	ヴァランス美術館
117	ユベール・ロベール	サン・ピエトロ・イン・モントリオにて	1762	ヴァランス美術館
118	ユベール・ロベール	フォロ・ロマーノのコンコルディア神殿	1762	ヴァランス美術館
119	ユベール・ロベール	コンコルディア神殿の思い出	1775	ヴァランス美術館
120	ジャン=オノレ・フラゴナール	庭園における習作	1773-74	ヴァランス美術館
121	ユベール・ロベール	ボルゲーゼ庭園の中	1773-74	ヴァランス美術館
122	ユベール・ロベール	廃墟の中の水飲み場	1774	ヴァランス美術館
123	ユベール・ロベール	古代の廃墟	1779	ルーヴル美術館 (リヨン美術館へ寄託)
124	ユベール・ロベール	ガラテアの逃避	1780-94	ヴァランス美術館
125	ユベール・ロベール	飼いならされた鳥	c.1780-90	ヴァランス美術館

No. 作家名	作品名	制作年	所蔵
126 ユベール・ロベール	アルカディアの牧人たち	1789	ヴァランス美術館
127 ユベール・ロベール	滝	1794	ヴァランス美術館
128 ユベール・ロベール	小川のほとり	1794	ヴァランス美術館
129 ユベール・ロベール	サン=ラザール牢獄の囚人たちの散歩	1794	国立西洋美術館
130 ユベール・ロベール	ヴェルサイユのアポロンの水浴の木立	1803	カルナヴァレ美術館

江戸絵画の楽園

No.	指定 作者	作品名	材質	員数	時代	所蔵
1 屏風一風を屏ぐ調度品						
1	森狙仙	親子猿図屏風	紙本着色	2曲1隻	江戸時代（18世紀）個人蔵	
2	久隅守景	鍋冠祭図押絵貼屏風	紙本着色	2曲1隻	江戸時代（17世紀）個人蔵	
3	海北友松	禪宗祖師・散聖図押絵貼屏風	紙本墨画	6曲1双	慶長十八年（1613）静岡県立美術館	
4	狩野山楽	雲門体露金風図	紙本墨画	1幅	桃山時代（16～17世紀）個人蔵	
5	狩野重信	帝鑑図・咸陽宮図屏風	紙本金地着色	6曲1双	桃山時代（17世紀）静岡県立美術館	
6	狩野氏信	源平合戦図屏風	紙本金地着色	6曲1双	江戸時代（17世紀）個人蔵	
7	守住貫魚	唐子図屏風	紙本金地着色	6曲1隻	江戸時代（19世紀）個人蔵	
8	雲谷等益	琴棋書画図屏風	紙本着色	6曲1双	江戸時代（17世紀）個人蔵	
9		洛中洛外図屏風	紙本金地着色	6曲1双	江戸時代（17世紀）個人蔵	
10	谷文晁	富士山図屏風	紙本墨画	6曲1隻	天保六年（1835）静岡県立美術館	
11	葛飾北斎	紅葉筏図屏風	紙本着色	6曲1隻	江戸時代（19世紀）個人蔵	
12	狩野栄信	桐松鳳凰図屏風 (裏面：月夜葡萄図屏風)	紙本金地着色 (裏：紙本金地墨画)	6曲1双	江戸時代（19世紀）静岡県立美術館	
13	英一蝶	吉野・龍田図屏風	紙本着色	6曲1双	江戸時代（17世紀）個人蔵	
14	伊藤若冲	四季花鳥図押絵貼屏風	紙本墨画	6曲1双	宝暦九年（1759）個人蔵	
15	伊藤若冲	花鳥蔬菜図押絵貼屏風	紙本墨画	6曲1双	宝暦十年（1760）個人蔵	
16	冷泉為恭	鷹狩・曲水宴図襖	紙本着色	4面	江戸時代（19世紀）個人蔵	
2 掛軸一床の間の飾り						
17	式部輝忠	富士八景図	紙本墨画	8幅対	室町時代（16世紀）静岡県立美術館	
18	狩野元信	三酸・花鳥図	紙本墨画	3幅対	室町時代（16世紀）個人蔵	
19	英一蝶	屋根葺図	紙本着色	1幅	江戸時代（17世紀）個人蔵	
20	長沢蘆雪	月に竹図	絹本墨画	1幅	江戸時代（18世紀）個人蔵	
21	浦上玉堂	蒼雲未拂図	紙本墨画	1幅	江戸時代（19世紀）個人蔵	
22	フェイルケ	富士山図	紙本墨画	1幅	江戸時代（19世紀）個人蔵	
23	柳沢淇園	梅小禽図	絹本着色	1幅	江戸時代（18世紀）個人蔵	
24	柴田是真	富士山図	絹本墨画	3幅対	明治二年（1869）個人蔵	
25	鈴木守一	秋草図	絹本着色	1幅	江戸～明治時代（19世紀）個人蔵	
26	葛飾北斎	天神像	絹本着色	1幅	弘化元年（1844）個人蔵	
27	岩佐又兵衛	伊勢物語図（東下り）	紙本着色	1幅	江戸時代（17世紀）個人蔵	
28	伊藤若冲	垣豆群蟲図	絹本着色	1幅	寛政二年（1790）個人蔵	
29	伊藤若冲	秋海棠きりぎりす図	絹本着色	1幅	江戸時代（18世紀）個人蔵	

No.	指定 作者	作品名	材質	員数	時代	所蔵
30	狩野重信	李白觀瀑・双鷺・双鳩図	紙本墨画	3幅対	桃山～江戸時代 (17世紀)	個人蔵
31	狩野探幽	富士・育王山・徑山寺図	紙本墨画淡彩	3幅対	江戸時代 (17世紀)	個人蔵
32	松花堂昭乗	一休像	紙本墨画淡彩	1幅	江戸時代 (17世紀)	個人蔵
33	狩野探信 (守道)	牛図	絹本墨画	1幅	寛政十一年 (1799)	個人蔵
34	池大雅	高士觀瀑図	紙本墨画淡彩	1幅	江戸時代 (18世紀)	個人蔵
35	谷文晁	連山春色図	絹本着色	1幅	寛政九年 (1797)	静岡県立美術館
36	谷文晁	樓閣山水図	絹本着色	2幅対	文政五年 (1822)	個人蔵
37	徳川綱吉	鴛鴦図	絹本着色	1幅	江戸時代 (17世紀)	個人蔵
38	岸駒	芙蓉峰図	絹本墨画	1幅	江戸時代 (19世紀)	静岡県立美術館
39	山本梅逸	山水図	紙本墨画	1幅	弘化元年 (1844)	個人蔵
40	浦上玉堂ほか	寄合画	絹本墨画淡彩	2幅対	享和元年 (1801)	個人蔵

3 卷子と画帖一手元で楽しむ美

41	松花堂昭乗	酒德頌	紙本墨書	1巻	江戸時代 (17世紀)	静岡県立美術館
42	与謝蕪村	蛙図扇面	紙本墨画	1本	江戸時代 (18世紀)	個人蔵
43		扇掛 (銘 天の川)	竹製	1本		個人蔵
44	渡辺華山	桃花図扇面	紙本着色	1本	天保六年 (1835)	個人蔵
45	渡辺華山	蛛網捕虫図扇面	紙本着色	1本	江戸時代 (19世紀)	個人蔵
46	伊藤若冲ほか 諸家	縮地妙詮帖	紙本着色ほか	1帖	安永七年 (1778) 跋	静岡県立美術館
47	狩野栄信・養 信	唐画流書手鑑	絹本着色ほか	1帖	江戸時代 (19世紀)	個人蔵
48	諸家	書画鑑	絹本着色ほか	1帖	文政五年 (1822)	個人蔵
49	渡辺華山ほか 諸家	書画帖	絹本着色ほか	3帖	江戸時代 (18～19世紀)	個人蔵
50	渡辺華山	山水図帖	紙本墨画淡彩	1帖	文政七年 (1824)	個人蔵
51	田能村竹田	瀬戸内海船中画冊	紙本墨画	1帖	天保四年 (1833)	個人蔵
52	細川林谷	東国旅行図冊	紙本墨画淡彩	1帖	江戸時代 (19世紀)	個人蔵
53	狩野探幽	富嶽図巻	紙本墨画淡彩	1巻	寛文二年 (1662)	個人蔵
54	貫名海屋	真景山水図巻	紙本墨画淡彩	1巻	天保二年 (1831)	個人蔵
55	重美 高橋草坪	耶馬溪図巻	絹本着色	1巻	文政十三年 (1830)	個人蔵
56	岡田半江	住吉真景図巻	紙本着色	2巻	天保十二年 (1841)	個人蔵
57	岡田半江	岡本梅林図巻	紙本墨画淡彩	1巻	天保八年 (1837)	個人蔵
58	橋本青江	岡本梅林図巻	紙本墨画淡彩	1巻	明治三年 (1870)	個人蔵
59	諸家	円形絵	紙本着色ほか	1括 (219葉)	江戸時代 (19世紀)	個人蔵

インカ帝国展

No.	名称	時代	所蔵先
1	軍用貫頭衣(チュニック)	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・イカ地方博物館
2	アリバロ	インカ文化 15~16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
3	玉座（ティアナ）	植民地期インカ文化 16~19世紀	フィールド自然史博物館
4	アリバロ	インカ文化（地方様式） 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
5	アリバロ	インカ文化 15~16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
6	ケロ	植民地期インカ文化 16~19世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
7	ケロ	植民地期インカ文化 16~19世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
8	人の頭の形のケロ	植民地期インカ文化 16~19世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
9	ジャガーのケロ	植民地期インカ文化 16~19世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
10	小型女性人物像	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・トゥクメ遺跡博物館
11-15	銀の飾りとウミギクガイの貝殻	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・トゥクメ遺跡博物館
16・17	金合金製の小型人物像（男性と女性）	インカ文化 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
18・19	銀製の小型人物像（男性と女性）	インカ文化 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
20	男性用腰巻	インカ文化（チュキバンバ様式） 15~16世紀	ペルー中央準備銀行付属博物館
21	ベルト	インカ文化（ペルー南部海岸？） 15~16世紀	ペンシルベニア大学考古学人類学博物館
22	ベルト	インカ文化（ペルー中部/北部海岸地域） 15~16世紀	ペンシルベニア大学考古学人類学博物館
23	ベルト	ボリビア南部高地（チバヤ様式） 15~16世紀	ペンシルベニア大学考古学人類学博物館
24	ベルト	インカ文化（ペルー北部海岸） 15~16世紀	ペンシルベニア大学考古学人類学博物館
25	女性の肩掛け用留めピン（トゥブ）	インカ文化？ 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
26	骨製の織物道具	インカ文化？ 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
27	骨製の織物道具	インカ文化？ 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
28	副葬用の小型の織機	インカ文化（海岸地域？） 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
29	儀礼用の水盆	インカ文化 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
30	星形の儀礼用水盆	インカ文化 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
31	儀礼用の水盆	インカ文化/植民地期インカ文化 15~19世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
32	木製の儀式用の器（パクチャ）	チャチャボヤ=インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
33・34	儀礼用の土器のこん棒	インカ文化（海岸地域？） 15~16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
35	儀式用の器（パクチャ）	植民地期インカ文化 16~19世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
36・37	リヤマ形の石製儀礼用容器（イリヤ）	インカ文化/植民地期インカ文化 15~19世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
38	金製のオスのリヤマ像（イリヤ）	インカ文化 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
39	銀製のオスのリヤマ像（イリヤ）	インカ文化 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館

No.	名称	時代	所蔵先
40	壺を乗せた儀礼用の土器製のチャキタクリヤ（踏み鋤）	インカ文化 15～16世紀	ペルー中央準備銀行付属博物館
41	チャキタクリヤ（踏み鋤）	現代	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
42	人物象形土器	インカ文化（海岸地域） 15～16世紀	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
43	ケロ型土器	インカ文化 15～16世紀	ペルー文化省・プルチューコ遺跡ヒメネス・ボルハ博物館
44	トウモロコシの象形壺	チムー＝インカ文化 15～16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
45	ジャガイモの象形壺	チムー＝インカ文化 15～16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
46	石製のリャマのイリヤ	インカ文化/植民地期インカ文化 15～19世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
47	銀製のアシカのイリヤ	インカ文化（海岸地域？） 15～16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
48	アラバスター製のネコ科動物のイリヤ	インカ文化/植民地期インカ文化 15～19世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
49	木製ケロ	インカ文化 15～16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
50	木製ケロ	インカ文化 15～16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
51	アリバロ	インカ文化（チュキバンバ様式） 15～16世紀	ペルー国立アレキパ大学付属マリア・モランテ考古学博物館
52	コカ袋	インカ文化（チュキバンバ様式） 15～16世紀	ペルー国立アレキパ大学付属マリア・モランテ考古学博物館
53	男性用貫頭衣(チュニック)	インカ文化（チュキバンバ様式） 15～16世紀	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
54	トゥンバガ（銅銀金合金）の腕輪	インカ文化 15～16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
55	儀礼用ナイフ（トゥミ）	インカ文化 15～16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
56	長方形の石の器	インカ文化/植民地期インカ文化 15～19世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
57-59	石製金属加工道具	インカ文化 15～16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
60	石製の道具	インカ文化 15～16世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
61-63	水平器または投石用の石	インカ文化 15～16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
64・65	石を加工するための石製の道具	インカ文化 15～16世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
66	家形象形壺	インカ文化（地方様式） 15～16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
67	屋根の留め具	インカ文化 15～16世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
68・69	建築加工道具	インカ文化 15～16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
70	貫頭衣(チュニック)	インカ文化（海岸地帯？） 15～16世紀	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
71	貫頭衣(チュニック)	インカ文化 15～16世紀	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
72	貫頭衣(チュニック)	インカ文化（海岸地域？パチャカマク？） 15～16世紀	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
73	コカ用の袋	インカ文化/植民地期インカ文化 15～19世紀	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
74	コカ用の袋	インカ文化（チュキバンバ様式） 15～16世紀	ペルー中央準備銀行付属博物館
75	小型のウルブ形土器	チャチャボヤ＝インカ文化 15～16世紀	レイメバンバ博物館
76	蓋つきの鍋	インカ文化 15～16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
77	土器の鍋	インカ文化 15～16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
78	秤	インカ文化（ペルー中央海岸のプルチューコ） 15～16世紀	ペルー文化省・プルチューコ遺跡ヒメネス・ボルハ博物館

No.	名称	時代	所蔵先
79	青銅製の斧の頭部	インカ文化 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
80	カナマルカ遺跡出土人骨 頭骨成人（熟年期）女性	インカ文化/カナマルカ遺跡 15~16世紀	ペルー文化省・クスコ地方局
81	パタリヤクタ遺跡出土人骨 頭骨成人（壯年期～熟年期）男性	インカ文化/パタリヤクタ遺跡 15~16世紀	ペルー文化省・クスコ地方局
82	コタカジ遺跡出土人骨 頭骨成人（壮年期）男性	インカ文化/コタカジ遺跡 15~16世紀	ペルー文化省・クスコ地方局
83・84	2個一組の木製ケロ	植民地期インカ文化 16~19世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
85	ケロ	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
86	頭飾り	インカ文化/植民地期インカ文化 15~19世紀	レイメバンバ博物館
87	円形の金の板（太陽？）をつけた帽子	インカ文化（コリヤ地方） 15~16世紀	チリ先コロンブス期美術館
88-90	キープ	インカ文化（チャチャボヤス地方） 15~16世紀	レイメバンバ博物館
91	キープ	インカ文化（ペルー中央海岸地方） 15~16世紀	ペルー文化省・プルチューコ遺跡ヒメネス・ボルハ博物館
92	鉱石運搬用のかご	インカ文化（地方様式） 15~16世紀	チリ先コロンブス期美術館
93	石彫の人物座像	インカ文化（地方様式） 15~16世紀	チリ国立ラ・セレナ考古学博物館
94-99	貝殻製ミニチュア女性像	インカ文化 15~16世紀	チリ国立ラ・セレナ考古学博物館
100	成人男性ミイラ	チャチャボヤ=インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
101	若い女性のミイラ	チャチャボヤ=インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
102	若い男性のミイラ	チャチャボヤ=インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
103	少女のミイラ	チャチャボヤ=インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
104	ミイラ包み	チャチャボヤ=インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
105	鳥を捕えるための木綿の網	チャチャボヤ=インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
106	鳥の羽根の飾り	チャチャボヤ=インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
107	櫛	チャチャボヤ=インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
108	顔型の頸部を持つ壺	チャチャボヤ=インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
109・110	ヒョウタンの容器	チャチャボヤ=インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
111	サンダル	チャチャボヤ=インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
112	コカ袋	チャチャボヤ=インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
113	木製の耳飾り	インカ文化 15~16世紀	レイメバンバ博物館
114	人頭型の壺	チムー=インカ文化 15~16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
115	人頭型の壺	チムー=インカ文化 15~16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
116	鎧型注口多彩色土器	チムー=インカ文化 15~16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
117	アリバロ	インカ文化（海岸地域） 15~16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
118	アリバロ	インカ文化（海岸地域） 15~16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
119	ダンサーのモチーフで装飾された皿	インカ文化 15~16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
120	青銅製の五芒星形頭の付いたこん棒	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・プルチューコ遺跡ヒメネス・ボルハ博物館

No.	名称	時代	所蔵先
121	こん棒の頭の鋳型	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・プルチューコ遺跡ヒメネス・ボルハ博物館
122	青銅製の六芒星形こん棒の頭	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・プルチューコ遺跡ヒメネス・ボルハ博物館
123	青銅製の六芒星形こん棒の頭	インカ文化 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
124	青銅製の斧の頭部（武器）	インカ文化 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
125	石付きの投げ縄	インカ文化 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
126	投石用の紐	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
127	ヘルメット	インカ文化? 15~16世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
128	太鼓	インカ文化? 15~16世紀	ペルー文化省・プルチューコ遺跡ヒメネス・ボルハ博物館
129	チムー文化の織物	チムー文化 13~15世紀	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
130	銀製の飲料容器（アキリヤ）	チムー=インカ文化 15~16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
131	双胴の壺	チムー=チムー=インカ文化 13~16世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
132	木製の埋葬所の模型	チムー文化 13~15世紀	ペルー国立トルヒヨ大学モチエ神殿群遺跡博物館
133	小型人物像（女性）	インカ文化 15~16世紀	ペルー国立トルヒヨ大学モチエ神殿群遺跡博物館
134	モチエ文化の金合金製の頭飾り	モチエ（モチーカ）文化 2~8世紀	ラファエル・ラルコ考古学博物館
135	金合金製の器	チムー=シカン文化 14世紀末~15世紀初頭	ラファエル・ラルコ考古学博物館
136	スントウルワシの聖母～クスコ征服における征服最初の奇蹟	植民地期インカ文化 18世紀	バルボッサ・スター・コレクション
137	フェリペ・トゥパク・アマル1世の肖像画	19世紀	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
138・139	銀製酒杯アキリヤ	植民地期インカ文化 17世紀	ペルー国立アレキパ大学付属マリア・モランテ考古学博物館
140	銀製行列十字架	植民地期 17世紀	オスマ博物館
141	ドン・アロンソ・チワン・インガ〔インカ〕の肖像画	植民地期インカ文化 18世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
142	ニュスタの肖像画	植民地期インカ文化 18世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
143	ケロ	植民地期インカ文化 1600年頃	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
144	貫頭衣(チュニック)	植民地期インカ文化 17世紀	ペルー国立クスコ大学・インカ博物館
145	鏡	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
146・147	服を留めるピン（トゥップ）	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
148	紡錘車	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
149-151	石彫の小型動物像	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
152	平皿	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
153	土器の壺	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
154	アリバロ	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
155	平皿	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
156	銀製のへら	インカ文化/植民地期インカ文化 15~19世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
157	青銅製の道具	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館
158	青銅製の六芒星形のこん棒の頭	インカ文化 15~16世紀	ペルー文化省・マチュピチュ遺跡博物館

維新の洋画家 川村清雄

No.	資料または作品名	作者	年代	所蔵者	展示期間 * 表示のないものは 全期間展示
序章 旗本の家に生まれて					
1	紺糸素懸威腹巻（川村家伝来）		江戸末期	新潟市歴史博物館	
2	九枚笛紋旗指物（川村家伝来）		江戸末期	新潟市歴史博物館	
3	袴（川村家伝来）		江戸末期	新潟市歴史博物館	2/9-3/3
4	九枚笛紋入黒漆塗鞍（川村家伝来）		江戸末期	新潟市歴史博物館	
5	川村修富肖像	小嶋安昌画	天保9年(1838)	新潟市歴史博物館	3/5-3/27
6	川村修就肖像		江戸末期	新潟市歴史博物館	
7	三貫目玉大砲雛形		弘化4年(1847)	新潟市歴史博物館	
8	「思ひ出草」	酒巻興敬著	明治40年(1907)	新潟市歴史博物館	
9	詠草（一翁之添削）		慶応元年(1865)	新潟市歴史博物館	
10	柱掛（川村家伝来）		江戸後期	新潟市歴史博物館	
11	「あまのてふり」	雪汀・翠柳画 川村修就詞	嘉永5年(1852)	新潟市歴史博物館	2/9-3/3
12	《川村龍水肖像》	川村清雄画	明治中期	東京都江戸東京博物館	
13	「まつのさかへ」	船橋茂喬他画 村垣範行詞	文政10年(1827)	東京都江戸東京博物館	3/5-3/27
14	九州筋御用之節手留		万延元年(1860)	新潟市歴史博物館	
15	明楽銳三郎起請文下書		万延元年(1860)	個人蔵	
16	手鎖（川村修就所用）		江戸末期	新潟市歴史博物館	
17	和宮様御発輿御列		文久元年(1861)	新潟市歴史博物館	
18	御勝土器（川村帰元拝領）		慶応2年(1866)	新潟市歴史博物館	
19	『旧事諮問録』		明治25年(1892)	東京都江戸東京博物館	
20	日新録書抜 二		嘉永5年(1852)	新潟市歴史博物館	
21	川村清雄出生時の臍帶と産髪		嘉永5年(1852)	個人蔵	
第1章 德川家派遣留学生					
22	川村清雄明細短冊控		慶応4年(1868)	東京都江戸東京博物館	
23	川村帰元日記		慶応4年(1868)	東京都江戸東京博物館	
24	三位様奥詰被仰付御役成後諸事留記		慶応4年(1868)	新潟市歴史博物館	
25	《田安慶頼像》	川村清雄画	明治中期	徳川記念財団	
26	徳川家達肖像		明治4年(1871)	東京都江戸東京博物館	
27	非役有位者（四位以上）大礼服 (徳川家達所用)		明治5年(1872)	徳川記念財団	
28	一行書「山高月小」	徳川家達筆	明治5年(1872)	徳川記念財団	

No.	資料または作品名	作者	年代	所蔵者	展示期間 * 表示のないものは 全期間展示
29	川村清雄肖像		明治元年(1868)	個人蔵	
31	「静岡御役人附」		明治3年(1870)	東京都江戸東京博物館	
32	《大久保一翁肖像》	川村清雄画	明治中期	大久保忠昭	
33	川村清雄米国留学免許		明治4年(1871)	東京都江戸東京博物館	
34	海舟日記		明治4年(1871)	東京都江戸東京博物館	
35	川村清雄の渡航安全を祈願した守札		明治4年(1871)	東京都江戸東京博物館	
36	川村清雄と徳川家派遣留学生たち		明治4年(1871)	個人蔵	
37	『和訳英辞書』		明治2年(1869)	東京都江戸東京博物館	
38	川村清雄の英文筆記帳		明治5年(1872)頃	東京都江戸東京博物館	2/9-3/3
39	家族宛川村清雄書簡		1871年10月6日	個人蔵	3/5-3/27
40	川村清雄肖像(ニューヨークにて)		1871年	個人蔵	
41	川村清雄肖像(アメリカにて)		1872年頃	個人蔵	
42	川村家宛ネイ夫人書簡和訳		1872年8月	東京都江戸東京博物館	
43	チャールズ・ランマン肖像		19世紀中期	東京都江戸東京博物館	
44	川村清雄が留学先で贈られた銀のスプーン		19世紀中期	東京都江戸東京博物館	
45	『ビザンティンの女殉教者』 (オラース・ド・カリアス献辞付き)		1876年頃	東京都江戸東京博物館	
46	パリ市街地図		1873年	東京都江戸東京博物館	
47	《静物写生》	川村清雄画	1875年	静岡県立美術館	
48	《大きな樹木》	川村清雄画	1873年	東京都江戸東京博物館	
49	《倒された木》	川村清雄画	1873年頃	東京都江戸東京博物館	
50	《なだらかな丘陵》	川村清雄画	1873年頃	東京都江戸東京博物館	
52	川村清雄を大蔵省紙幣寮の官費留学生とする辞令		明治9年(1876)	東京都江戸東京博物館	
53	ヴェネツィア美術学校準二等賞状		1876年	東京都江戸東京博物館	
54	ヴェネツィア美術学校一等賞状		1877年	東京都江戸東京博物館	
55	川村清雄肖像(ヴェネツィアにて)		1876-1881年	個人蔵	
56	《ドージェ宮殿内部透視図》	川村清雄画	1876-1881年	東京都江戸東京博物館	
57	ティートから川村清雄に贈られたコエットレ・ラージュ	エットレ・ティート画	1881年頃	東京都江戸東京博物館	
58	《オレステ・ダ・モリン肖像》		1876-1881年	東京都江戸東京博物館	
59	ガリバルディ肖像 (川村清雄とダ・モリンのコメント入り)		1879年	東京都江戸東京博物館	
60	ヴェネツィア王立商業高等学校規則 及び科目集		1875年	東京都江戸東京博物館	
61	《女の横顔》	川村清雄画	1876-1881年	東京都江戸東京博物館	
62	《婦人像》	川村清雄画	1876-1881年	東京都江戸東京博物館	

No.	資料または作品名	作者	年代	所蔵者	展示期間
					* 表示のないものは 全期間展示
63	《カルミニ大信徒会聖マリア・カルメル教会鐘楼》	川村清雄画	1876-1881年	東京都江戸東京博物館	
64	《花籠のある室内》	川村清雄画	1876-1881年	東京都江戸東京博物館	
65	《双樹の聖母》	川村清雄画	1876-1881年	東京都江戸東京博物館	
67	《男性立像半身》	川村清雄画	1876-1881年	東京都江戸東京博物館	
68	《座る男》	川村清雄画	1876-1881年	東京都江戸東京博物館	
69	《少女》	川村清雄画	1876-1881年	東京都江戸東京博物館	
70	《顔》	川村清雄画	1876-1881年	東京都江戸東京博物館	
71	《帽子を被る男》	川村清雄画	1876-1881年	東京都江戸東京博物館	
72	《幼児石膏像》	川村清雄画	1876-1881年	個人蔵	
73	《徳川家達像》	川村清雄画	1878年	徳川記念財団	
74	川村清雄宛徳川家達書簡		1878年	東京都江戸東京博物館	
75	川村清雄宛徳川家達書簡		1879年	東京都江戸東京博物館	
76	川村清雄宛マルティン・リーコ書簡		1881年	東京都江戸東京博物館	

第2章 氷川の画室

77	川村清雄印刷局辞令		明治15年(1882)	お札と切手の博物館	
78	「東京名所常磐橋内紙幣寮新建之図」歌川広重(三代)画		明治10年(1877)	東京都江戸東京博物館保管	3/5-3/27
79	大蔵省印刷局職員と川村清雄		明治15年(1882)	東京都江戸東京博物館	
81	川村清雄肖像		明治15年(1882)	個人蔵	
82	『なみまの錦』	大蔵省印刷局刊	明治16年(1883)	お札と切手の博物館	
83	《少女像》	川村清雄画	1876-1881年	東京国立博物館	
84	「凸版印刷合資会社明治36年カレンダー 装画」下絵	川村清雄画	明治35年(1902)頃	東京都江戸東京博物館	
87	勝海舟肖像		明治中期	東京都江戸東京博物館	
88	海舟日記		明治16年(1883)	東京都江戸東京博物館	
89	勝家の庭にて		明治中期	東京都江戸東京博物館	
90	川村清雄が勝海舟に贈った狂歌		明治中期	那珂川町馬頭広重美術館	2/9-3/3
91	勝海舟が川村清雄に与えた返歌		明治中期	東京都江戸東京博物館	
92	《勝海舟肖像》	川村清雄画	明治16年(1883)頃		
93	《江戸城明渡の帰途（勝海舟江戸開城図）》	川村清雄画	明治18年(1885)	東京都江戸東京博物館	
94	《蛟龍天に昇る》	川村清雄画	明治24年(1891)頃	福富太郎コレクション 資料室	
95	《徳川家茂像》	川村清雄画	明治17年(1884)	徳川記念財団	
96	《徳川慶喜像》	川村清雄画	明治中期	徳川記念財団	
97	《徳川家定像》	川村清雄画	明治25年(1892)	徳川記念財団	

No.	資料または作品名	作者	年代	所蔵者	展示期間
					* 表示のないものは 全期間展示
98	《徳川吉宗像》	川村清雄画	明治25年(1892)	徳川記念財団	
99	《將軍肖像》	川村清雄画	明治中期	徳川記念財団	
100	《天璋院像》	川村清雄画	明治17年(1884)	徳川記念財団	
101	勝海舟による作画指示メモ		明治中期	東京都江戸東京博物館	
102	本宿宅命宛勝海舟書簡		明治22年(1889)頃	東京都江戸東京博物館	
103	《海軍将校像》額装図案	川村清雄画	明治25年(1892)頃	東京都江戸東京博物館	
104	本宿宅命海軍主計総監死去につき神前に捧げる文		明治26年(1893)	東京都江戸東京博物館	
105	《黄海大海戦》	川村清雄画	明治29年(1896)以前	福富太郎コレクション 資料室	
106	《海底に遭る日清勇士の髑髏》	川村清雄画	明治32年(1899)以前	静岡県立美術館	
107	《形見の直垂（虫干）》	川村清雄画	明治32年(1899)以降	東京国立博物館	2/9-2/28
108	勝海舟の葬儀での陪柩者たち		明治32年(1899)	個人蔵	

第3章 江戸の心を描く油絵師

109	心華画房教則	川村清雄画	明治中期	東京都江戸東京博物館	
110	興行パンフレット 「日清ノ役黄海激戦大パノラマ図」		明治32年(1899)	東京都江戸東京博物館	
111	《流鏑馬の射手の装をつけ居る図》 下絵	塚原律子画	明治20年(1887)	東京都江戸東京博物館	2/9-3/3
112	《能面》	櫻井忠剛画	明治中期－大正	尼崎市教育委員会	
113	《田舎の早春》	石川欽一郎画	明治末年頃	静岡県立美術館	
114	《神楽坂》（「東京風景」より）	織田一磨画	大正6年(1917)	東京都江戸東京博物館	3/5-3/27
115	《貴賤図（御所車）》	川村清雄画	明治31年(1898)頃	唐津市	
116	川村清雄氏揮毫油絵展覧会日誌		明治32年(1899)	東京都江戸東京博物館	
117	個展会場スケッチ	吉益耳童画	明治32年(1899)	東京都江戸東京博物館	
参考 出品	櫻井忠剛写真帖			個人蔵	
118	川村清雄宛吉益耳童書簡		明治30年(1897)	東京都江戸東京博物館	
119	正木直彦宛川村清雄書簡控		明治40年(1907)	東京都江戸東京博物館	
120	家禄奉還願		明治7年(1874)	東京都江戸東京博物館	2/9-3/3
121	川村帰元宛江原素六書蘭		明治10－14年(1877-1882)頃7月21日	東京都江戸東京博物館	
122	《アヒルと少年》下絵	川村清雄画	大正－昭和初期	沼津市明治史料館	
123	《イカ図》	川村清雄画	大正－昭和初期	沼津市明治史料館	
124	《子供を連れた女》	川村清雄画	明治後期	沼津市明治史料館	
125	《子供を連れた女》下絵	川村清雄画	明治後期	東京都江戸東京博物館	
126	《紫雲觀音》	川村清雄画	明治中期	那珂川町馬頭広重美術館	3/5-3/27
127	箱館行日記		明治18年(1885)	東京都江戸東京博物館	

No.	資料または作品名	作者	年代	所蔵者	展示期間 * 表示のないものは 全期間展示
128	《松本常磐肖像》下絵	川村清雄画	明治後期	東京都江戸東京博物館	
129	川村帰元肖像		明治37年(1904)	東京都江戸東京博物館	
130	川村たま肖像（実家荒井家とともに）		明治13年(1880)	個人蔵	
131	川村清雄宛川村帰元書簡断片		明治23年(1890)	東京都江戸東京博物館	
132	父帰元の米寿を祝う川村清雄の和歌		明治44年(1911)	東京都江戸東京博物館	
133	川村帰元米寿祝いの絵皿	川村清雄画	明治44年(1911)	新潟市歴史博物館	
134	川村清雄弔辞		明治45年(1912)2月1 3日	東京都江戸東京博物館	
135	川村清雄が清衛誕生の喜びを詠んだ 和歌		大正元年(1912)	個人蔵	
136	清衛を抱く川村清雄		大正2年(1913)	個人蔵	
137	尾形正弥宛川村清雄書簡		大正7年(1918)10月5 日	東京都江戸東京博物館	
138	ふくの忌明けに川村清雄が作製した 袱紗		大正8年(1919)	東京都江戸東京博物館	
139	尾形正弥宛川村清雄書簡		大正8年(1919)頃	東京都江戸東京博物館	
140	《後鳥羽院隱岐配流の図》	川村清雄画	大正8年(1919)頃	個人蔵	
141	《鳩図》下絵	川村清雄画	大正6年(1917)頃	東京都江戸東京博物館	
142	徳川家家令宛川村清雄誓約書		大正6年(1917)	東京都江戸東京博物館	
143	《三番叟》	川村清雄画	昭和6年(1931)	徳川記念財団	
144	『川村清雄 作品と其人物』	木村駿吉著	大正15年(1926)	東京都江戸東京博物館	
145	《小督彈琴図》（『副島五十枝』口絵）	川村清雄画	大正14年(1925)	東京都江戸東京博物館	
146	《草花図》	川村清雄画	大正期	個人蔵	
147	《山川健次郎肖像》	川村清雄画	明治中期	東京大学	
148	《箕作秋坪肖像》	川村清雄画	明治中期	津山洋学資料館	
149	《福澤諭吉肖像》	川村清雄画	明治34年(1901)頃	慶應義塾大学	
150	《句仙上人肖像》下絵	川村清雄画	明治後期	東京都江戸東京博物館	
151	「新小説」表紙（浅草観音）	川村清雄画	明治41年(1908)	東京都江戸東京博物館	
152	「新婦人」表紙（正月飾り）	川村清雄画	大正2年(1913)	東京都江戸東京博物館	
153	川村清雄や和田垣謙三らが揮毫した 書画帖	川村清雄他	大正－昭和初期	東京都江戸東京博物館	
154	《俳句短冊》	川村清雄画 和田垣謙三句	大正8年(1919)以前	東京都江戸東京博物館	
155	《晴・雨》	川村清雄画	昭和4年(1929)以前	個人蔵	
156	《素菱鳴尊図屏風》（左隻）	川村清雄画	大正－昭和初期	細見美術館	
157	《たまはばき》（『歴朝坤徳録』屏絵 原画）	川村清雄画	昭和3年(1928)以前	東京都江戸東京博物館	
158	《秋の宮》（『歴朝坤徳録』見返し原 画）	川村清雄画	昭和3年(1928)以前	東京都江戸東京博物館	
159	《ヴェニスの景》	川村清雄画	明治39年(1906)頃	府中市美術館	

No.	資料または作品名	作者	年代	所蔵者	展示期間
					* 表示のないものは 全期間展示
160	《ヴェニス風景》	川村清雄画	大正－昭和初期	個人蔵 (目黒区美術館保管)	
161	《ヴェネツィア風景》	川村清雄画	明治期	東京都江戸東京博物館	
162	《ヴェニス図》	川村清雄画	明治後期－大正	個人蔵	
163	《シーザーの香炉》下絵	川村清雄画	明治42－44年 (1909-1911)頃	東京都江戸東京博物館	
164	《シーザーの剣と兜》下絵	川村清雄画	明治42－44年 (1909-1911)頃	東京都江戸東京博物館	
165	《室内》	川村清雄画	明治中期	神奈川県立近代美術館	
166	《水辺の楊柳》	川村清雄画	大正－昭和初期	徳川記念財団	
167	《風景》	川村清雄画	大正－昭和初期	静岡県立美術館	
168	《風景》	川村清雄画	大正－昭和初期	東京都現代美術館	
169	川村清雄が所持したコロー画集		明治中期	個人蔵	
170	《滝》	川村清雄画	大正－昭和初期	平塚市美術館	
171	《波》	川村清雄画	大正－昭和2年(1927)頃	静岡県立美術館	
172	《浪に小禽》	川村清雄画	大正－昭和初期	個人蔵	
173	《巨岩海浜図》	川村清雄画	大正－昭和初期	静岡県立美術館	
174	《巨岩図》	川村清雄画	大正－昭和初期	個人蔵	
175	《お供え》	川村清雄画	大正－昭和初期	福富太郎コレクション 資料室	
176	《梅と椿の静物》	川村清雄画	大正－昭和初期	三重県立美術館	
177	《桜狩（花見）》	川村清雄画	明治32年(1899)以前	個人蔵	
178	《富士に桜》	川村清雄画	大正－昭和初期	飯田美術	
179	《向島の花見》	川村清雄画	昭和4年(1929)以前	伊藤善隆	
180	《桜花に鈴》	川村清雄画	昭和8年(1933)	大久保忠昭	
181	《玩具と貝合せの静物》	川村清雄画	明治38年(1905)	個人蔵	
182	《千代の友》	川村清雄画	昭和3年(1928)	個人蔵	
183	《茶店（一ぜんめしや）》	川村清雄画	大正－昭和初期	那珂川町馬頭広重美術館	
184	《いにしえの奈良の都》	川村清雄画	大正－昭和初期	目黒区美術館	
185	《花》	川村清雄画	大正－昭和初期	愛宕下美術館	
186	《松竹梅図》	川村清雄画	大正－昭和初期	東京都江戸東京博物館	
187	《へちま》	川村清雄画	大正－昭和初期	飯田美術	
188	《蟹図》	川村清雄画	大正－昭和初期	飯田美術	
189	《草図》	川村清雄画	明治後期	個人蔵	
190	小箱《龍田川》	川村清雄画	大正－昭和初期	個人蔵	
191	《蝶図》	川村清雄画	昭和5年(1930)	個人蔵	

No.	資料または作品名	作者	年代	所蔵者	展示期間 * 表示のないものは 全期間展示
192	《鶴図》	川村清雄画	明治期	個人蔵	
193	《鶴図》	川村清雄画	大正末年	神奈川県立近代美術館	
194	《花鳥図》	川村清雄画	大正－昭和初期	宇都宮美術館	
195	《まな・あらな》	川村清雄画	大正期	個人蔵	
196	《雀図》	川村清雄画	大正－昭和初期	個人蔵	
197	《水鳥図》	川村清雄画	大正－昭和初期	個人蔵	
198	《蟹図》	川村清雄画	大正－昭和初期	個人蔵	

終章 《建国》そして《振天府》

199	川村清雄の展覧会を観覧する東伏見宮妃		昭和2年(1927)	東京都江戸東京博物館	
200	川村清雄全作品展覧会芳名帳		昭和2年(1927)	東京都江戸東京博物館	
201	岸清一宛シルヴァン・レヴィ書簡		昭和2年(1927)	東京都江戸東京博物館	
202	《建国》受贈式典におけるシルヴァン・レヴィの演説原稿		昭和2年(1927)	東京都江戸東京博物館	
203	《建国》	川村清雄画	昭和4年(1929)	オルセー美術館	
204	《建国》図案 天の岩戸	川村清雄画	昭和初期	東京都江戸東京博物館	
205	『聖徳記念絵画館画題考証図』		大正10年(1921)	東京都江戸東京博物館	
206	《振天府》図案を記したスケッチ帳	川村清雄画	大正－昭和初期	東京都江戸東京博物館	
参考出品	《振天府》図案 捕われの兵士	川村清雄画	大正末年頃	東京都江戸東京博物館	
207	《振天府》制作中の川村清雄		昭和6年(1931)頃	東京都江戸東京博物館	
208	川村清雄・清衛父子(聖徳記念絵画館前で)		昭和初年頃	東京都江戸東京博物館	
209	《振天府》完成を祝う高山長幸の詩		昭和6年(1931)	東京都江戸東京博物館	
210	《振天府》下絵	川村清雄画	昭和6年(1931)以前	明治神宮	
211	『明治神宮外苑聖徳記念絵画館壁画完成記念式写真帖』		昭和11年(1936)	東京都江戸東京博物館	
212	川村清雄肖像		昭和8年(1933)	東京都江戸東京博物館	
213	青木藤作が川村清雄に贈った棚		昭和初期	個人蔵	
214	駅鈴		昭和初期	個人蔵	
215	川村清雄の最後の年賀状		昭和9年(1934)	東京都江戸東京博物館	
216	川村清雄看護記録		昭和9年(1934)	東京都江戸東京博物館	
217	《草花図》	川村清雄画	昭和初期	個人蔵	
218	諄辞(川村清雄の葬儀における上奏文)		昭和9年(1934)	東京都江戸東京博物館	
219	川村清雄の葬儀(奈良)		昭和9年(1934)	東京都江戸東京博物館	
220	川村清雄の葬儀祭壇(東京)		昭和9年(1934)	東京都江戸東京博物館	
221	川村清雄の葬儀の返礼に配られた袱紗		昭和9年(1934)	東京都江戸東京博物館	

収蔵品展

新収蔵品展

4月10日（火）～5月27日（日）

No.	作者名	作品名
1	狩野永岳	富士三保松原図
2	狩野洞春（福信）	富士山図
3	原勝郎	セーヌ河畔
4	〃	ノートル・ダム寺院
5	〃	パリ風景
6	〃	パリの街角
7	〃	樹
8	〃	早春
9	〃	樹
10	〃	森
11	〃	村道
12	〃	静物(洋梨と壺)
13	郭徳俊	フォードと郭
14	〃	カーターと郭
15	〃	レーガンと郭
16	〃	レーガンIIと郭
17	〃	ブッシュ(父)と郭
18	〃	クリントンと郭
19	〃	クリントンIIと郭
20	〃	ブッシュ2001と郭
21	〃	ブッシュ2001(II)と郭
22	〃	オバマと郭
23	栗山茂	いか
24	〃	無題
25	〃	73-No.9
26	〃	古代の賦—装
27	〃	表慶館－東京国立博物館
28	〃	秋燈夜話
29	〃	古代の賦—昔ばなし
30	〃	古代の賦—家族

31	栗山茂	日本平の富士
32	〃	発掘地帶
33	〃	少女像
34	〃	古代の賦—狩りをする人々
35	福元修一	帰郷
36	小谷元彦	Hollow:Pianist/Rondo
37	原勝郎	デッサン(パリ風景)
37	原勝郎	デッサン(パリ風景)

静岡県浙江省友好提携30周年記念 中国絵画と日本 6月9日（土）～7月22日（日）

1	徐霖	桜閣山水図
2	丁雲鵬	観音洗象図
3	方梅	墨梅図
4	童鉉	墨梅図
5	梁基	花鳥図
6	馮鏡如	梅図
7	中林竹洞	傲董源山水図
8	岡本秋暉	群鳥図 ◇
9	中江松窓	山水図押絵貼屏風 ◇
10	狩野永納	蘭亭曲水図屏風
11	久隅守景	蘭亭曲水図屏風
12	池大雅	西湖図 ◇
13	狩野尚信	西湖図屏風

名品コーナー

左	藤田嗣治	モンルージュ、パリ
中	ジャン=ジョゼフ=グザビエ・ビドー	山の見える牧歌的風景
右	難波田龍起	ミクロの世界
親子で見て感じる現代アート		
8月4日（土）～9月17日（月・祝）		
1	磯辺行久	WORK 62-46 ◇
2	〃	WORK 62-46
3	〃	WORK 62-64
4	〃	WORK'64 5 & 6 ◇

5	磯辺行久	WORK'64 11 & 12 ◇
6	篠原有司男	次郎長バー
7	ジェームズ・ローゼンクイスト	F-111(東,西,南,北)
8	オノデラユキ	12 Speed No.CO-8 ◇
9	"	12 Speedのためのドローイング ◇
10	草間彌生	最後の晩餐
11	中川幸夫	棘い葩 ◇
12	"	おさな ◇
13	"	鬼の気 ◇
14	"	訣別 ◇
15	"	叫ぶ花 ◇
16	"	燭 ◇
17	"	懶惰 ◇
18	"	知の嘆き ◇
19	"	誇り高く ◇
20	"	魔の山 ◇
21	小谷元彦	SP 1 'Beginning' (The Whorl of Lanugo 01)
22	"	SP 1 'Beginning' (The Whorl of Lanugo 02)
23	"	SP 1 'Beginning' (The Whorl of Lanugo 03)

名品コーナー

左	チャールズ・ワーグマン	富士遠望図
中	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家
右	向井修二	作品

無限の芸術 李禹煥の世界

9月19日（水）～11月4日（日）

1	李禹煥	点より ◇
2	"	線より ◇
3	"	点より ◇
4	"	点より ◇
5	"	線より
6	"	無題 ◇
7	"	無題 ◇
8	"	無題 ◇
9	"	無題 ◇

10	"	風より ◇
11	"	風と共に ◇
12	"	風と共に ◇
13	"	風と共に ◇
14	"	風と共に ◇
15	"	風と共に ◇
16	"	風より ◇
17	"	出港地A ◇
18	"	出港地D ◇
19	"	照応 ◇
20	"	銅版画文集『東の扉』 2 ◇
21	"	銅版画文集『東の扉』 4 ◇
22	"	銅版画文集『東の扉』 7 ◇
23	"	銅版画文集『東の扉』 8 ◇
24	"	照応 ◇
25	"	黙 1 ◇
26	"	黙 2 ◇
27	"	黙 3 ◇
28	"	黙 4 ◇

名品コーナー

左	ジョルジュ・ビゴー	富士（沼津江浦）
中	ジャン=バティスト・カミーユ・メリ街道、ラ・フェルテ=ス=ジュアール付近	
右	島本 昭三	Mar-61

西欧の風景画 I 当館収蔵品のエッセンスがここにある

11月20日（火）～12月16日（日）

1	パウル・ブリル	エルミニアと羊飼いのいる風景
2	ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め
3	アールト・ファン・デル・ネール	森の風景
4	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
5	ヤーコブ・ファン・ロイスダール	小屋と木立のある田舎道
6	フランソワ・ブーシエ	石橋のある風景
7	フランソワ・ブーシエ	水車のある風景
8	クロード=ジョゼフ・ヴェルネ	嵐の海

9	ユペール・ロペール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ボッターリ
10	アレクサンドル=イアサント・デュバリ、マドレーヌ大通りの窓からの眺め	
11	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立、日没
12	アシル=エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼い
13	ジャン=バティスト・カミーユ・メリ街道、ラ・フェルテ=ス=ジュアール付近	
14	サミュエル・パーマー	ケント州、アンダーリヴァーのホップ畑
15	ピエール=エティエンヌ=テオドール・ルソー	ジュラ地方、草葺き屋根の家
16	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの渓流
17	カミーユ・ピサロ	ライ麦畑、グラット=コックの丘、ポントワーズ
18	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川
19	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女
20	ポール・シニャック	サン=トロペ、グリモーの古城
21	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家
22	ハイム・スーチン	カーニュ風景

名品コーナー

左 宋紫石	富嶽図 ◇
中 三岸好太郎	海 ◇
右 吉伸太造	現代美術

西欧の風景画II 当館収蔵品のエッセンスがここにある 12月18日（火）～2月3日（日）

1	パウル・ブリル	エルミニアと羊飼いのいる風景
2	ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め
3	アールト・ファン・デル・ネール森の風景	
4	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
5	ヤーコブ・ファン・ロイスダール	小屋と木立のある田舎道
6	アレッサンドロ・マニャスコ	山道の行列
7	クロード=ジョゼフ・ヴェルネ	嵐の海
8	ユペール・ロペール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ボッターリ
9	ジョン・ロバート・カズンズ	ボルティチからヴェスヴィオ山を望む
10	アレクサンドル=イアサント・デュバリ、マドレーヌ大通りの窓からの眺め	
11	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立、日没
12	ジャン=バティスト・カミーユ・メリ街道、ラ・フェルテ=ス=ジュアール付近	
13	サミュエル・パーマー	ケント州、アンダーリヴァーのホップ畑
14	ピエール=エティエンヌ=テオドール・ルソー	ジュラ地方、草葺き屋根の家

15	シャルル=フランソワ・ドービニー『アトリエ舟で行く』より	
16	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの渓流
17	カミーユ・ピサロ	ライ麦畑、グラット=コックの丘、ポントワーズ
18	ポール・セザンヌ	ジャ・ド・ブーファンの大樹
19	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川
20	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女
21	ジュリアン・デュプレ	農場の風景 ◇
22	ポール・シニャック	サン=トロペ、グリモーの古城
23	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家
24	ハイム・スーチン	カーニュ風景

名品コーナー

左 葛蛇玉	蛇玉図 ◇
中 平木政次	富士
右 吉原治良	Work

富士山の絵画2013

2月5日（火）～3月31日（日）

1	歌川広重	東海道五拾三次之内（保永堂版）より「川崎」「吉原」「由井」
2	〃	東海道五拾三次之内（保永堂版）より「平塚」「原」「舞坂」
3	〃	東海道五十三次（隸書東海道）より「日本橋」「沼津」「吉原」「興津」「鳴田」
4	〃	東海道五十三次（隸書東海道）より「戸塚」「原」「蒲原」「江尻」「荒井」
5	〃	不二三十六景「駿河富士沼」ほか18点
6	〃	不二三十六景「駿河田子の浦」ほか18点
7	歌川国芳	東海道五拾三駅・五宿名所由井～鞠子
8	歌川貞秀	大日本富士山絶頂之図
9	歌川芳幾	富士山北口女人登山之図
10	小林清親	駿河湖日没の富士
11	横山大観	日出処日本 ◇
12	〃	富士山
13	近藤浩一路	富士山
14	チャールズ・ワーグマン	富士遠望図
15	ジョルジュ・ビゴー	富士（沼津江浦）
16	五姓田義松	富士

17	平木正次	富士
18	和田英作	富士
19	〃	日本平望嶽台 ◇

名品コーナー

左	谷文晁 森一鳳	富嶽図 ◇ 氷室の節供図
中	宮本三郎	農婦
右	岡田謙三	作品

◇は個人蔵および寄託品

移動美術展

富士宮移動美術展

静岡ゆかりの画家たちと美術館の名品

No.	作者	作品名	制作年	材質	寸法(cm)
1	平木政次	富士	1897(明治30)	キャンヴァス、油彩	44.0×67.0
2	和田英作	日本平望嶽台〔寄託作品〕	1939(昭和14)	キャンヴァス、油彩	45.0×52.8
3	和田英作	富士	1918(大正7)	キャンヴァス、油彩	60.6×80.2
4	近藤浩一郎	富士山	1940-50 (昭和10-20年代)	紙本墨画	65.1×72.2
5	栗原忠二	セントポール	1916頃(大正5頃)	キャンヴァス、油彩	80.0×100.0
6	栗原忠二	ロンドン郊外	不詳	キャンヴァス、油彩	50.0×60.7
7	曾宮一念	種子静物	1934(昭和9)	キャンヴァス、油彩	60.6×72.7
8	曾宮一念	スペインの野	1968(昭和43)	キャンヴァス、油彩	73.0×91.0
9	曾宮一念	毛無連峯	1970(昭和45)	キャンヴァス、油彩	53.0×72.7
10	柏木俊一	道	大正時代	キャンヴァス、油彩	37.5×45.5
11	高畠達四郎	伊豆下田港	1976(昭和51)	キャンヴァス、油彩	53.0×65.3
12	中村岳陵	爽秋	1935(昭和10)	絹本着色	64.0×101.0
13	井上恒也	月の出(奄美の黒兎一)	1971(昭和46)	紙本着色	64.8×52.6
14	秋野不矩	天竜川	1935(昭和10)	絹本着色	43.7×55.0
15	野島青茲	塑像	1952(昭和27)	紙本着色	209.0×148.8
16	島戸繁	静かな漁港	1959頃(昭和34頃)	キャンヴァス、油彩	53.0×45.7
17	青木達弥	薄	1941(昭和16)	キャンヴァス、油彩	116.8×91.0
18	北川民次	風景	1944(昭和19)	キャンヴァス、油彩	72.8×60.8
19	北川民次	雑草の如くⅢ(裸婦)	1949(昭和24)	キャンヴァス、油彩	130.3×162.0
20	石田徹也	(無題5)	2001(平成13)	キャンヴァス、アクリル	45.5×53.0
21	野田好子	海辺	1953(昭和28)	キャンヴァス、油彩	91.0×72.7
22	中村宏	車窓篇 TYPE 4	1977-1990 (昭和52-平成2)	キャンヴァス、油彩	130×162
23	市川正三	祖母Cの追憶	1984(昭和59)	キャンヴァス、油彩	194.0×194.0
24	依田寿久	無題No.5〔寄託作品〕	1980(昭和55)	キャンヴァス、油彩	122.4×153.2
25	飯田昭二	Half and Half	1969(昭和44)	鳥かご、木、鏡	h 19.4×20.0×20.2
26	前田守一	バサッ	1969(昭和44)	木、塗装	157.3×45.7×9.5 (2点組、1点ごと)
27	鈴木慶則	非在のタブロー(マグリットによる)	1967(昭和42)	キャンヴァス、油彩	122×95.5×4.6
28	小池一誠	No.1 石	1969(昭和44)	石	40.0×190.0×39.0
29	オーギュスト・ロダン	考える人	1880(鋳造1920年以前)	ブロンズ	h 37.2×28.6×23.6

30	オーギュスト・ロダン	パオロとフランチェスカ	1887-89頃	ブロンズ	h 29.8×59.1×27.0
31	柳原義達	座る	1960（昭和35）	ブロンズ	h 129.5×44.0×75.0
32	淀井敏夫	波・群	1959（昭和34）	ブロンズ	h 66×94×41
33	福岡道雄	湯原湖で（2）	1978（昭和53）	黒色強化ポリエスチル、木	h 48×110×90
34	金沢健一	音のかけら 2	1987（昭和62）	鉄、ゴム	h 3.2×150.0×150.0

磐田移動美術展

彫刻のいざない

No.	作者	作品名	制作年	材質	寸法(cm)
1	オーギュスト・ロダン	考える人	1880	ブロンズ	h 37.2×28.6×23.6
2	オーギュスト・ロダン	パオロとフランチェスカ	1887-89頃	ブロンズ	h 29.8×59.1×27.0
3	柳原義達	座る	1960（昭和35）	ブロンズ	h 129.5×44.0×75.0
4	淀井敏夫	波・群	1959（昭和34）	ブロンズ	h 66×94×41
5	飯田昭二	Half and Half	1969（昭和44）	鳥かご、木、鏡	h 19.4×20.0×20.2
6	福岡道雄	湯原湖で（2）	1978（昭和53）	黒色強化ポリエスチル、木	h 48×110×90
7	金沢健一	音のかけら 2	1987（昭和62）	鉄、ゴム	h 3.2×150.0×150.0

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号
平成3年3月19日条例第2号
平成4年3月25日条例第14号
平成8年3月28日条例第11号
平成11年3月19日条例第16号
平成13年7月24日条例第45号
平成15年3月12日条例第2号
平成17年7月15日条例第49号
平成22年3月26日条例第23号
平成24年3月23日条例第1号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もつて県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

（一部改正〔平成3年条例2号〕）

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

（一部改正〔平成3年条例2号〕）

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

（一部改正〔平成3年条例2号〕）

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。
- (2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。
- (3) その他その使用を不適当と認めるとき。

（一部改正〔平成3年条例2号〕）

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

- (1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。
- (2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあっても、県はその賠償の責めを負わない。

（一部改正〔平成3年条例2号〕）

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。
(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。
(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。
(協議会の設置)

第13条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。
(協議会の委員の任命の基準)

第13条の2 協議会の委員（以下「委員」という。）の任命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

（追加〔平成24年条例第1号〕）

(協議会の委員)

第14条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、

15人以内とする。

- 2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、再任されることができる。

(一部改正〔平成24年条例第1号〕)

(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(一部改正〔平成3年条例第2号・17年49号〕)

附 則

この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。

附 則（平成元年3月29日条例第43号）

- 1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成3年3月19日条例第2号）

- 1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

附 則（平成4年3月25日条例第14号）

- 1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成8年3月28日条例第11号）

- 1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成11年3月19日条例第16号）

- 1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成13年7月24日条例第45号）

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則（平成15年3月12日条例第2号）

この条例は、平成15年4月1日より施行する。

附 則（平成17年7月15日条例第49号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成22年3月26日条例第23号)

この条例は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表第1（第3条関係）

(一部改正〔平成22年条例第23号〕)

(1) 常設展示

利 用 区 分	観 覧 料
個 人	300円
団 体	1人につき 200円

備考 1 個人とは、満15歳以上の者であつて、中学校及、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。
2 団体とは、20人以上をいう。
3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事がその都度定める額

別表第2（第5条関係）

利 用 区 分	特別観覧料
模 写	1点1日につき 2,000円
模 造	1点1日につき 2,000円
撮 影	1点1回につき 4,000円
熟 覧	1点1日につき 1,000円
原 板 使 用	1点1回につき 3,000円

別表第3（第9条関係）

(一部改正〔平成元年条例第43号・4年14号・8年11号・11年16号・13年45号・15年2号〕)

(1) 県民ギャラリー

利 用 区 分	使 用 料	
	10時から17時30分まで	
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講堂

使 用 料		
午 前	午 后	全 日
10時から12時30分まで 7,550円	13時から17時30分まで 13,650円	10時から17時30分まで 21,200円

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例 施行規則

(平成3年3月26日静岡県規則第24号)

改正 平成5年3月25日規則第13号

平成6年3月10日規則第5号

平成9年3月28日規則第51号

平成12年3月31日規則第17号

平成13年7月24日規則第59号

平成20年3月31日規則第19号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間及び休館日)

第2条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、若しくは休館日以外の日に休館することができる。

(1) 開館時間 午前10時から午後5時30分まで。ただし、入館時間は、午後5時までとする。

(2) 休館日

ア 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日以降の最初の休日でない日）

イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

（一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕）

(観覧手続)

第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

(特別観覧手続)

第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(県民ギャラリー等の使用手続)

第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー等を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号による県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(使用の制限)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷するおそれのある者

(2) 館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があると認められる者

(3) その他館長の指示等に違反した者

(譲渡等の禁止)

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

(原状回復)

第8条 使用権利者は、その使用を終ったときは、速やかに、県民ギャラリー等を原状に復しなければならない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取消し等の処分を受けたときも、同様とする。

(損害賠償)

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害を賠償しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

(1) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(2) 前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(3) 70歳以上の者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(4) 70歳以上の者が企画展示を観覧する場合 観覧料（団体で利用する場合の観覧料が定められている場合であって当該観覧料の適用を受けるときは当該観覧料をいい、観覧料が2以上定められている場合にあっては一般の観覧料（小学校就学の始期に達するまでの者並びに小学校、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者に適用される観覧料以外の観覧料をいう。）をいう。）の2分の1の額（当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額）

(5) 幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるもの）を含む。）

として常設展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(6) 幼稚園、小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものも含む。）として企画展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(7) その他館長が特別の理由があると認める場合
館長が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までに規定する者が常設展示若しくは企画展示を観覧するとき、又は前項第7号に該当する場合であって館長がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号・20年19号〕）

（観覧料等の還付）

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

(1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。

(2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。

2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料（使用料）還付申請書を館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

（委任）

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則（平成5年3月25日規則第13号）

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成6年3月10日規則第5号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成9年3月28日規則第51号）

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日規則第17号）

1 この規則は、平成12年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式（以下

「旧様式」という。）により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。

3 この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（平成13年7月24日規則第59号）

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則（平成20年3月31日規則第19号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

様式第1号（第4条関係）
 （用紙 日本工業規格A4縦型）
 （一部改正〔平成6年規則5号・12年17号〕）

特別観覧承認申請書

年　月　日

静岡県立美術館長 様

住所

氏名

電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称	作者名	点数

特別観覧の目的					
区分	模写	模造	撮影	熟覧	原板使用
日時	年　月　日	時から	時まで	年　月　日	時から　時まで

内訳	模写	点	日	円	合計
	模造	点	日	円	
	撮影	点	日	円	
	熟覧	点	日	円	
	原板使用	点	日	円	

備考					

様式第3号（第10条関係）
 （用紙 日本工業規格A4縦型）
 （一部改正〔平成6年規則5号〕）

観覧料等減免申請書

年　月　日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その
主たる事務所の所在地〕
 氏名 〔法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名〕 印

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減免申請の区分	観覧料	特別観覧料	使用料	
申請の理由				
日　　時	年　月　日 ()	時　　分から	年　月　日 ()	時　　分まで
観　　覧　　人　　員	人			
県民ギャラリー等使用の場合は、推定入場人員	人			
責任者氏名				
責任者電話番号				
観　　覧　　料　　等	円			
減　免　申　請　額	円			

様式第2号（第5条関係）
 （用紙 日本工業規格A4縦型）
 （一部改正〔平成6年規則5号・12年17号〕）

県民ギャラリー等使用承認申請書

年　月　日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その
主たる事務所の所在地〕
 氏名 〔法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名〕

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演等の名称					
展覧会、講演等の内容					
使　用　区　分	県民ギャラリー（A・B）　講堂				
使　用　期　間	年　月　日 ()	時　　分から	年　月　日 ()	時　　分まで	日間
入場料等の徴収の有無	有・無	円			
主　催　者　名					
連絡責任者及び電話					
後　援　者　名					

(注) 展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第4号（第11条関係）
 （用紙 日本工業規格A4縦型）
 （一部改正〔平成6年規則5号〕）

特別観覧料　還付申請書
 使　用　料

年　月　日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その
主たる事務所の所在地〕
 氏名 〔法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名〕 印

次のとおり特別観覧料の還付を受けたいので、申請します。
 使　用　料

特別観覧承認書等の年月日及び文書番号		
還付を受けようとする理由		
還付を受けようとする金額	円	

(静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について)

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則(平成3年静岡県規則第24号)第10条の表中「その他館長が特別な理由があると認めるとき。」は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1に相当する額
その他館長が特別な理由があると認めるとき。	館長が別に定める額

附 則

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

(目的)

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則(平成3年静岡県規則第24号)第5条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

(利用範囲)

第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

(使用期間)

第3条 使用期間は、原則として1週間(月曜日13時～翌週月曜日12時30分)を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

(申込期間)

第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、翌月使用の申込とする。

2 2週間以上の使用で優先使用を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申込期間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

(申込方法)

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。(設備取り付け等)

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

(物品等の販売)

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

(展示品等の管理)

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

(現状回復義務)

第9条 搬出時には、搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館職員は一切責任を負わない。

(職員の立ち入り)

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成21年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館(以下「美術館」という。)の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員(以下「委員」という。)を置く。

(職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

(1) 美術品の選定に関すること。

(2) その他美術に関する専門的事項に関するこ

(組織)

第3条 委員は6名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要のあるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。

3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

(委嘱)

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

■静岡県立美術館協議会設置要綱

静岡県立美術館協議会設置要綱をここに制定する。

静岡県立美術館協議会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議会の委員)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

2 委員の定数は、15人以内とする。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任することができる。

(協議会の会長等)

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は会務を総理し、会議の議長となる。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

5 会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が召集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。

2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年12月23日条例第38号）第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。

3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成20年12月17日から施行する。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(職務)

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。

3 委員会に会長及び副会長を置く。

4 会長には県民部長、副会長には、部長代理（理事）をもってこれに充てる。

5 会長は、会務を総理する。

6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が召集する。

(専門委員会)

第4条 委員会に、専門委員会を置く。

2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。

3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。

4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告するものとする。

5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねる

ことができない。

- 6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

別表

文化・観光部長 部長代理(理事) 文化学術局長 文化政策課長 美術館副館長
--

■静岡県立美術館協議会傍聴要領

1 傍聴する場合の手続

- (1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。
- (2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

- (1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。
- (2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。
- (3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。
- (4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。

3 秩序の維持

- (1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。
- (2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していく場合があります。

組織・名簿

■事務分掌

総務課

- (1) 職員の人事及び服務に関すること
- (2) 職員の福利厚生及び保健に関すること
- (3) 監査に関すること
- (4) 文書の収受発送に関すること
- (5) 公印の管守及び機密に関すること
- (6) 予算・決算その他会計事務に関すること
- (7) 美術品及び物品の購入に関すること
- (8) 財産及び物品の管理に関すること
- (9) 美術館協議会に関すること
- (10) 他課の所管に属さないこと

学芸課

- (1) 美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示に関すること
- (2) 展覧会の企画及び開催に関すること
- (3) 美術品及び美術に関する資料の利用についての指導助言に関すること
- (4) 美術に関する専門的、技術的な調査研究に関するこ
- (5) 美術に関する普及及び創作活動の指導助言に関するこ
- (6) 美術に関する講演会及び講習会等の開催に関するこ
- (7) 前各号に掲げるもののほか、美術に関する専門的事項に関するこ

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常勤		1人	8人	11人	20人
非常勤	1人			3人	4人

■美術館協議会

粉 奈 康 夫	静岡市立田町小学校長
白 柳 一 弥	静岡県立掛川工業高等学校長
鈴 木 壽美子	静岡県文化協会長
西 村 美佳孝	フリースクール「空」代表
石 川 たか子	(株)丸伸代表取締役社長
松 井 純	静岡新聞社・静岡放送会長
坂 本 雅 子	東海大学短期大学部教授
磯 田 篤	資生堂アートハウス館長
立 田 洋 司	静岡県立大学大学院教授
杉 澤 教 人	(株)大志建設代表取締役
今 井 利 昭	静岡県観光協会「しずおかツーリズムコーディネーター」チーフ
北 條 博 厚	県立美術館友の会会長
田 村 孝 子	グランシップ館長
正 木 清 貴	NHK静岡放送局長

■専門委員

木 村 重 圭	甲南女子大学教授
坂 本 満	金沢美術工芸大学客員教授
潮 江 宏 三	京都市美術館長

建 畠 暢
京都市立芸術大学長
埼玉県立近代美術館長
山 梨 絵美子
東京文化財研究所企画情報部
河 野 元 昭
秋田県立近代美術館長

■資料評価委員

下 山 晃 司
静岡県文化・観光部長
君 塚 秀 喜
静岡県文化・観光部部長代理
影 山 武 司
静岡県文化・観光部文化学術局長
松 下 玉 毅
静岡県文化政策課長
坂 田 芳 乃
静岡県立美術館副館長

■職 員

館 長 芳 賀 徹
副 館 長 坂 田 芳 乃
学 芸 部 長 小 針 由紀隆
総 務 課 長 田 中 雅 代
総務班長代理 稲 葉 寿 久
主 査 橫 畑 明 之
主 査 三 輪 恵 一
主 任 内 田 稔 子
管 理 班 長 岡 村 昇
主 査 石 川 芳 弘
主 査 中 村 美 穂
学 芸 課 長 飯 田 真
上席学芸員 角 田 新

(広島県立美術館から派遣)

上席学芸員 南 美 幸
上席学芸員 三 谷 理 華
上席学芸員 新 田 建 史
上席学芸員 村 上 敬
上席学芸員 泰 井 良
上席学芸員 川 谷 承 子
主 査 伴 野 潤
主任学芸員 石 上 充 代
主任学芸員 福 士 雅 也

■非常勤嘱託員及び臨時技術員

非常勤嘱託員 志 田 亜莉沙
藤 岡 美 樹
半 田 直 生
臨時技術員 大 原 由佳子

歳入・歳出決算

■歳入決算

単位：千円

項目	金額
美術館観覧料	21,585
共催展収入	45,434
県民ギャラリー等使用料	5,536
財産売扱・貸付・運用収入	4,698
助成金等	0
その他	7,883
計	85,136

■歳出決算

単位：千円

項目	金額
人件費	179,712
管理費	257,374
運営費	51,767
施設管理費	205,607
事業費	99,394
企画展事業費	70,084
常設展事業費	6,658
資料・普及事業費	22,652
館蔵品取得費	5,086
施設整備費	47,393
基金積立	908
計	589,867

建築・設備概要

■建築概要

区分	本館	口ダノ館
所在地	静岡市駿河区谷田53番2号	同左
敷地面積	県文化センター内(約120,000m ²)	同左
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建 建築面積: 6,624.07m ² 延床面積: 9,238.51m ²	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)、2階建 建築面積: 2,391.25m ² 延床面積: 3,024.36m ²
仕上	外壁: 湿式磁器炉器質無釉タイル貼 屋根: 緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床: 花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット、長尺塩化ビニールシート貼、フローリング 壁: 安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁: 花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、タイル打込P C板、吹付タイル 屋根: カラーステンレス葺、トップライト(アルミ、複層ガラス) 床: タイルカーペット 壁: 大理石、インド砂岩、クロス貼 天井: 石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工期	昭和59年3月～昭和60年8月	平成4年3月～平成5年11月

■設備概要

区分	本館	口ダノ館
電気設備	受変電設備 受電電圧6,600 V 60 Hz 変圧器1φ 300 KVA、3φ 400 KVAモールド型 発電設備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800 rpm出力300 KVA 3φ 3 W 6,600 V 太陽光発電設備 10 KW × 2台蓄電池設備 キュービクル式直流電源装置、充電サイリスタ全自動整流器 弱電設備 舞台調光、舞台音響、ITV監視、入館者表示、映像資料(ビデオ)、電話、放送、電気時計、テレビ共聴 防災、防犯設備 警備センター集中監視複合盤(自火報、防排煙)、防犯非常錠制御盤、防災アンプ(180 W)、ITV監視装置、地図式表示版	受変電設備 受電電圧6,600 V 60 Hz 変圧器1φ 280 KVA、3φ 350 KVA 契約電力700 KW 発電設備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800 rpm出力200 KVA 3φ 3 W 220 V 蓄電池設備 屋外キュービクル式直流電源装置 弱電設備 ITV監視、入館表示、ハイビジョン、電話、放送、トイレ呼出表示、調光、テレビ共聴 防災、防犯設備 同左
空気調和設備	熱源機器 直焚吸収冷温水発生機(150 USRT、40 USRT)、温水焚吸収冷温水機(30 USRT)、空気熱源回収型スクリュー式ヒートポンプ冷凍機(150 USRT)、プレート式熱交換機(396,300 Kcal/h) 蓄熱層 冷温水槽550m ³ ・55m ³ 、ソーラー用20m ³ ソーラーパネル 平板型672枚 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室2系統、県民ギャラリー1系統、その他4系統及びパッケージ型1台、ファンコイルユニット46台、他空冷ヒートポンプパッケージエアコン、ルームエアコン	熱源機器 直焚吸収冷温水発生機(80 USRT)2基、蒸気ボイラー(250 Kg/h)2基、空冷チラーユニット(4.39 USRT)プレート式熱交換機(86,000 Kcal/h) 冷温水クッションタンク 5 m ³ 冷水クッションタンク 1 m ³
衛生設備	排煙機 ロビー系統他3系統3台 給水設備 受水槽30m ³ (二槽式)、高架水槽12m ³ (二槽式) 排水設備 公共下水道に放流 消火設備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋内消火栓	空気調和機 収蔵庫3系統、展示室4系統、全熱交換機(3台)
昇降機設備	身障者用 油圧式11人乗750 kg 荷物用 油圧式3,000 kg	排煙機 メイン展示室他2系統4台 給水設備 空調用自動給水装置受水槽 5 m ³ 排水設備 公共下水道に放流 消火設備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋外消火栓 身障者用 油圧式23人乗1,500 kg

■建設工事費

区分	本館	ロダン館
建築	3,802,838 千円	3,415,995 千円
外構	397,162	—
プロムナード	173,300	—
周辺環境整備	—	268,509
合計	4,373,300	3,684,504

■諸室概要

■本館

実技室（114m²）

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎週3～4日の自由工房と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室（約20席）

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただこうと設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

レストラン（80席 198m²）・カフェ（39席 36.7m²）

レストラン「エスタ」及びカフェ（ロダン）は、日本平ホテルが運営している。

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、2階ロビー内にある。静岡市内の書店3社による共同経営の形をとっている。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

展示室（7室 1,777m²）

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部に三本、下部に一本の無紫外線蛍光灯があり、壁ごとに調光可能となっている。

また、パネル展示の場合には、このパネルに均一な照明がなされるよう、ライティング・ダクトが天井に配置

してある。あわせて、こちらも壁ごとに調光できるようになっている。

県民ギャラリー（2室 490m²）

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

講堂（262席 305m²）

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機2台、16mm映写機2台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

講座室（約30席 71m²）

美術に関する講座を行う。常設展では展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

スライド映写設備、音響設備がある。

託児・授乳室（12.5m²）

乳幼児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、託児・授乳室を開設した。

託児室 日曜、祝日

10：30～15：30（2時間限度）

授乳室 開館日全て

10：00～17：30（夜間開館日は20時まで）

■ロダン館

ロダンフロア（1,461m²）

高さ20m天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアはあらゆる角度から鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

展示室1（98m²）、展示室2（149m²）

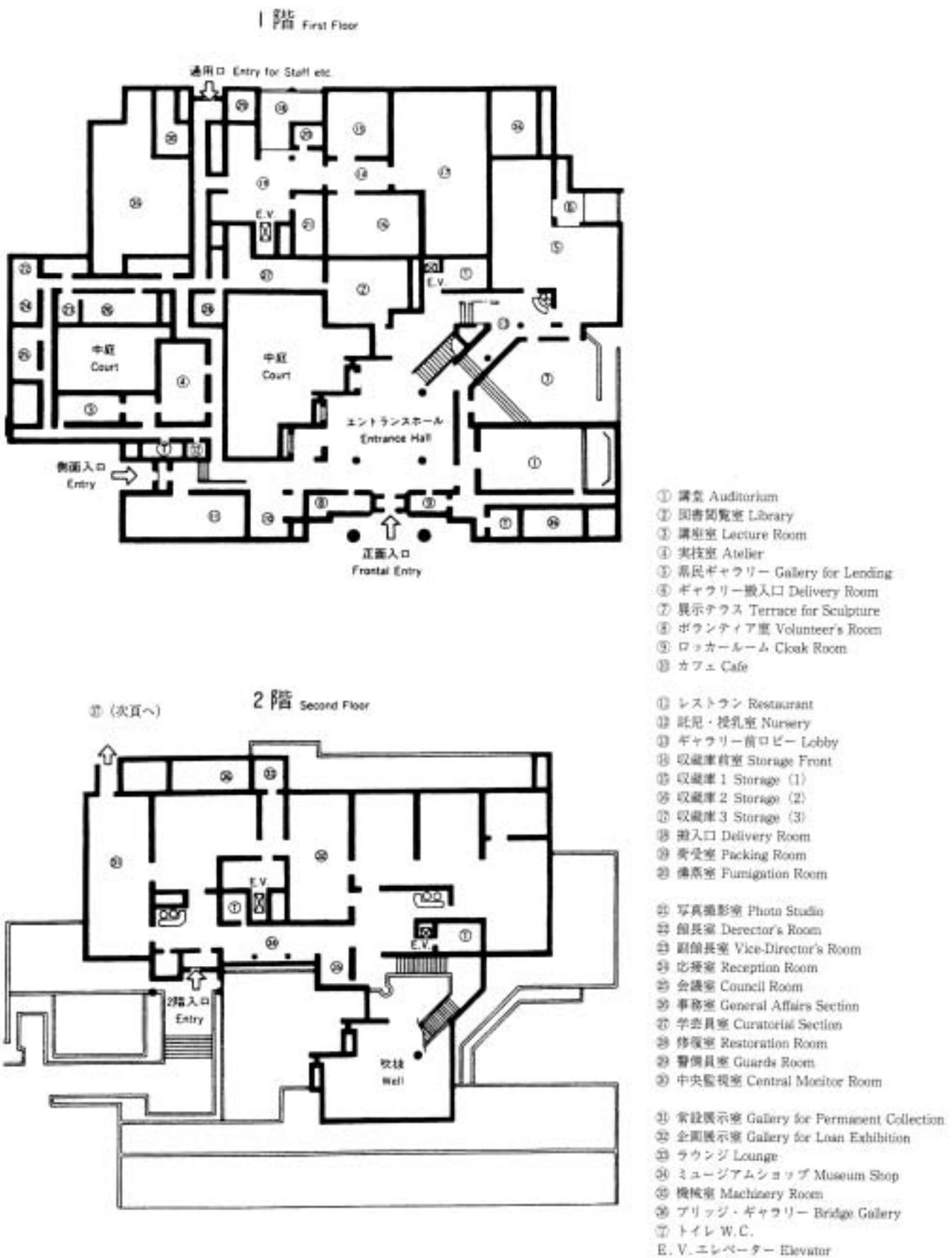
ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールの両側に設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室1には、地獄門の鋳造過程の写

真パネルやブロンズの製造過程を示す模型及びロダン写真資料（CD-rom）検索システムが設置されている。また、展示室2にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

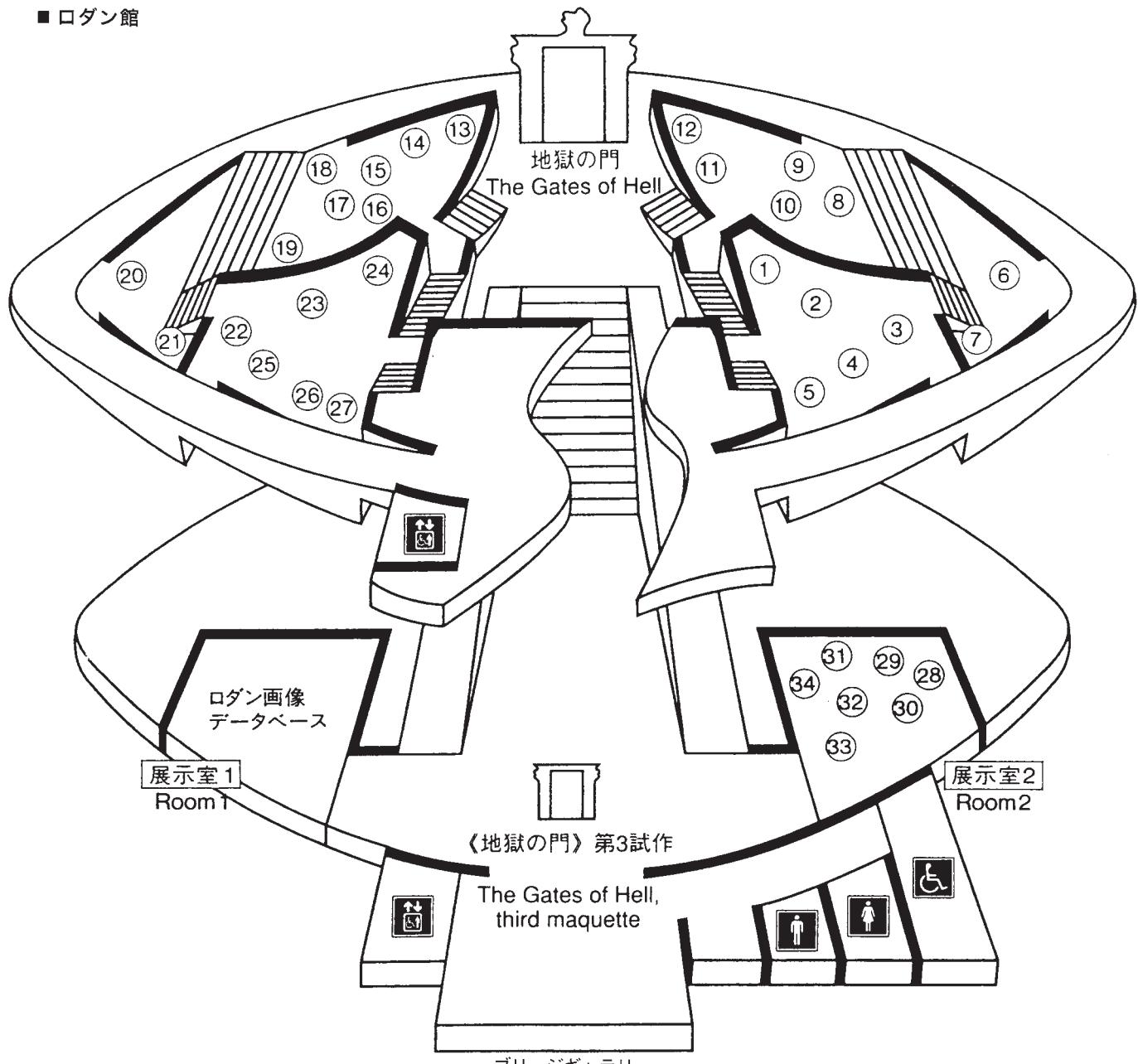
ブリッジ・ギャラリー（276m²）

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図
■本館

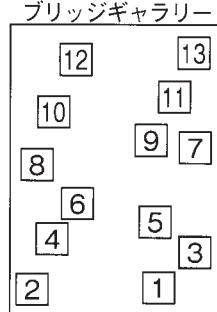


■ ロダン館



ロダン, A

- ① 『カレーの市民』 ジャン・デール
- ② 『カレーの市民』 ジャン・ド・フィエンヌ
- ③ 『カレーの市民』 ピエール・ド・ヴィッサン
- ④ 『カレーの市民』 ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 『カレーの市民』 アンドリュー・ダンドル
- ⑥ 『カレーの市民』 ユスター・ド・サン=ピエール
- ⑦ 『カレーの市民』 第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 『永遠の休息の精』 のトルソ
- ⑬ 『影』 のトルソ
- ⑭ パオロとフランチスカ
- ⑮ フィギット・アモール
- ⑯ 『影』 の頭部
- ⑰ 壺をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスと女のトルソ
- ⑳ 女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ㉑ 考える人



- ㉒ バッカス祭
- ㉓ 『ラ・フランス』 習作
- ㉔ パステイアン=ルバージュ
- ㉕ ヴィクトリア・アンド・アルバートと
呼ばれる女のトルソ
- ㉖ クロード・ロラン
- ㉗ ボードレールの頭部
- ㉘ 花子のマスク

展示室2

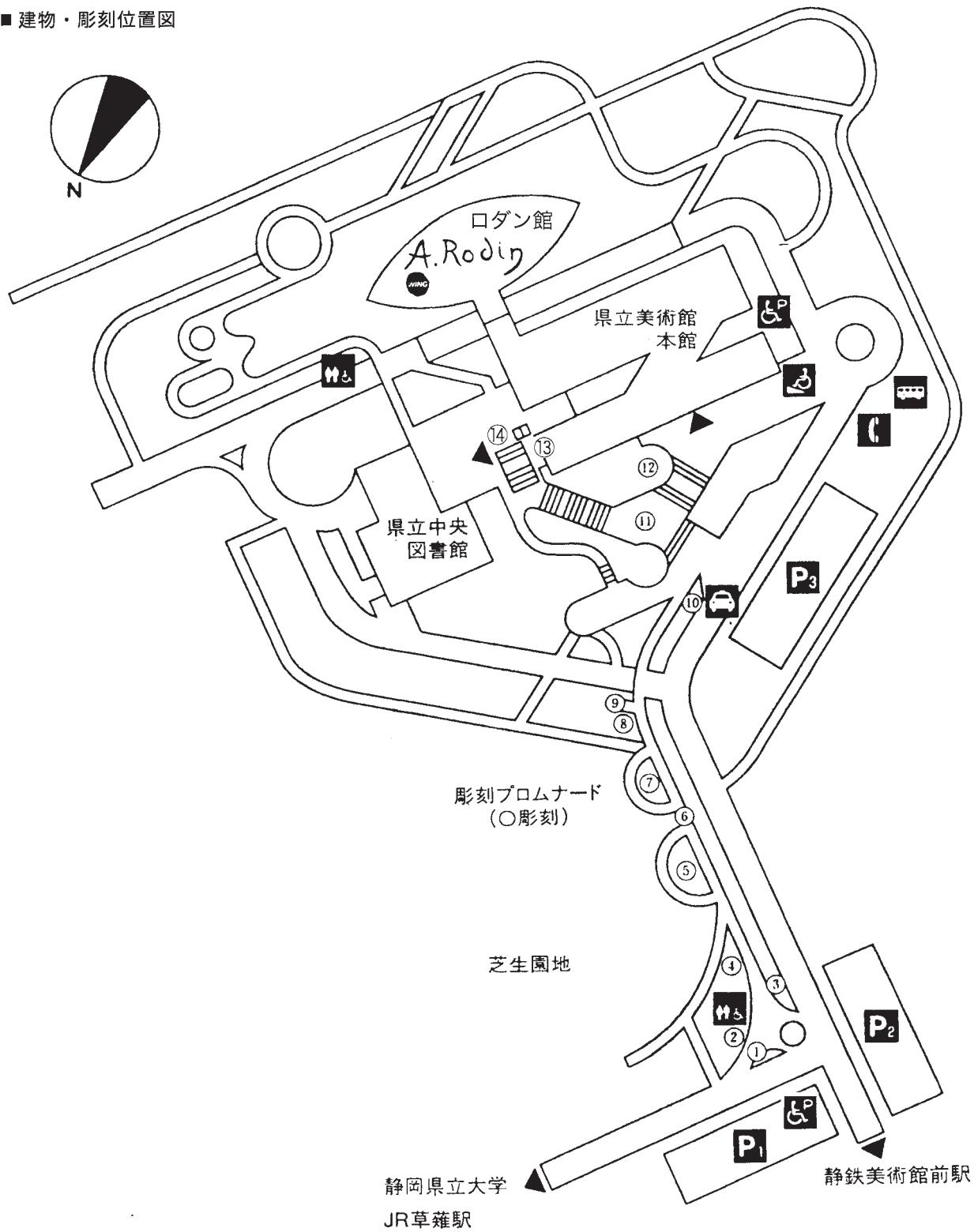
- ㉙ カルボー, J.B. / ナポリの漁師の少年

- ㉚ カリエ=ペルーズ, A.E. /
ニンフを連れ去るサテュロス
- ㉛ ロダン, A. / バラの髪飾りの少女
- ㉜ カルボー, J.B. / 悲しみの聖母
- ㉝ ダルー, A.J. / 乳を与えるバリの女
- ㉞ フレミエ, E. / 蛇使い
- ㉟ バリー, A.L. / ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

- ㉑ ゴーギヤン, P. / オヴィイリ
- ㉒ バルラッハ, E. / 読書する僧たちIII
- ㉓ ムーア, H. / 横たわる人体
- ㉔ レームブルック, W. / 女のトルソ
- ㉕ ジャコメッティ, A. / 横たわる女
- ㉖ アーキベンコ, A. / 『化粧する女』 習作
- ㉗ ブランクーシ, C. / ポガニー嬢II
- ㉘ リップツ, J. / 母と子
- ㉙ ロッソ, M. / 病める男
- ㉚ ブールデル, E.A. / アポロンの首
- ㉛ ブールデル, E.A. / ロダンの肖像
- ㉜ マイヨール, A. / 『イル・ド・フランス』
のトルソ
- ㉝ クローデル, C. / 波

■ 建物・彫刻位置図



- ① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークII》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式V－相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線－菱形II》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

■開館時間 10:00～17:30

(入館は17:00まで)

[夜間開館] 「インカ帝国展」開催中の毎週土曜日は
20:00まで開館(入室は19:30まで)

■休館日 每週月曜日(但し、月曜日が祝日・振替休
日の場合は開館し、翌日休館)、年末・年始、
その他展示替等のための休館日

■収蔵品展観覧料

観覧料／一般300円(団体200円)

／大学生以下・70歳以上の方は無料

■企画展観覧料

展覧会名	一般	70歳以上
カラーリミックス	600円 <400円>	300円 <200円>
日本油彩画200年 －西欧への挑戦	600円 <400円>	300円 <200円>
ユベール・ロベール	1,000円 <800円>	500円 <400円>
江戸絵画の楽園	600円 <400円>	300円 <200円>
インカ帝国展	1,200円 <1,000円> ※高校生・大学生含む	600円 <500円>
川村清雄	900円 <700円>	400円 <300円>

* < >内は前売及び20名以上の団体料金

* 中学生以下及び、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。(高校生・大学生は、収蔵品展は無料、企画展は展覧会によって有料・無料となります。)

■施設利用料

(1) 県民ギャラリー

利 用 区 分	使 用 料	
	10:00～17:30	
入場料を 徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を 徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講 堂

使 用 料		
午 前	午 后	全 日
10:00～12:30	13:00～17:30	10:00～17:30
7,550円	13,650円	21,200円

交通案内 JR「草薙駅」から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分

静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分

JR「静岡駅」南口からタクシー約20分

美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

総務課 T E L 054-263-5755

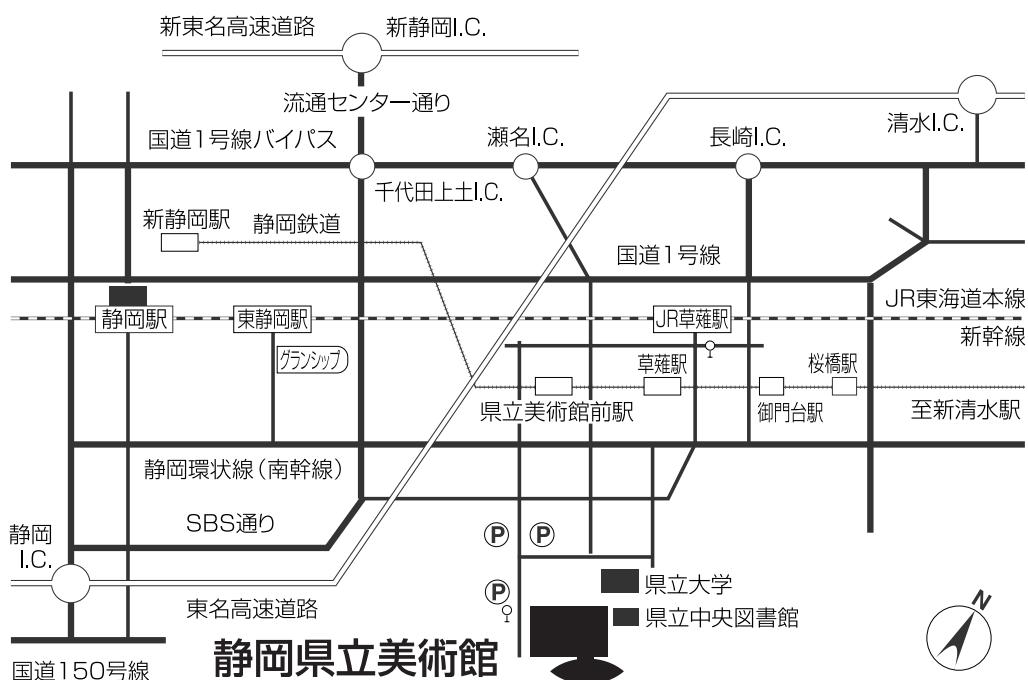
〃 F A X 054-263-5767

学芸課 T E L 054-263-5857

〃 F A X 054-263-5742

美術館友の会事務局 T E L 054-264-0897

ミュージアムショップ T E L 054-264-8926



平成24年度
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館©
〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263)5755
印 刷：株式会社アプライズ
〒422-8037 静岡市駿河区下島114 蔵敷ビル

Annual Report of Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2012

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Art ©
Printed by APRISE Co.Ltd. Shizuoka
Printed in Japan 2013